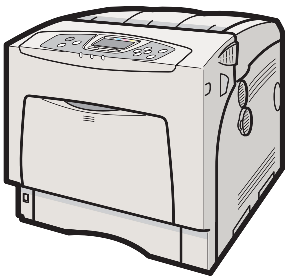
RICOH

IPSiO SP C420

使用説明書
〈ソフトウェアガイド〉



ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『ハードウェアガイド』「安全上のご注意」をお読みください。

目次

2. 印刷する

3. 本機に蓄積された文書を印刷・削除する

4. デジタルカメラから直接印刷する（PictBridge）

5. プリンター本体の設定

6. 機器の監視

7. プリントサーバーの準備

8. Mac OS で使う

9. 付録

使用説明書の紹介

本機には紙の使用説明書と画面で見る使用説明書（HTML/PDF）が用意されています。

画面で見る使用説明書は付属の CD-ROMに収録されています。説明書の開きかたや使いかたについては、『ハードウェアガイド』「画面で見る使用説明書の使いかた」を参照してください。

本機を使用するためにお読みいただく使用説明書と内容は以下のとおりです。

紙の使用説明書も画面で見る使用説明書も記載内容は同じですが、HTML 形式の使用説明書は説明の一部に動画を用いています。

はじめにお読みください（）

本製品についてのお問い合わせ先、注意事項を記載しています。また、HTML マニュアルや認証機能について説明しています。

かんたんセットアップ（）

プリンターを梱包箱から取り出し、パソコンと接続、プリンタードライバーをインストールするまでの手順を説明しています。

クイックガイド（）

困ったときの対処方法や、消耗品の交換などについて説明しています。困ったときにすばやく対処できるよう、プリンターの近くに常備しておいてください。

ハードウェアガイド（）

本体各部の名称とはたらきや、オプションの接続方法、用紙に関する情報、消耗品の交換、印刷がはじまらないとき・思いどおりに印刷できないときの解決方法、紙づまりの処置など、本機を使用する上で重要な情報がまとめられています。必要に応じてご活用ください。

ソフトウェアガイド（本書）（）

プリンタードライバーのインストール手順や設定方法を説明しています。使用しているパソコンに対応する部分をお読みください。

セキュリティーガイド（）

管理者向けの説明書です。本機を不正な使用やデータの改ざんといった脅威から守るための方法、各管理者の設定方法、ユーザー認証の設定方法などについて説明しています。セキュリティー強化機能や認証の設定を行う前に必ずお読みください。

PostScript 3 編（）

PostScript 3 エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

RPDL 編（）

RPDL エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

R98 編（）

R98 エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

R55 編（）

R55 エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

R16 編（）

R16 エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

PCL 編（）

PCL エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

VM カード JavaTM Platform 拡張機能初期設定 Web 編（）

Web Image Monitor を使用して拡張機能の設定を行う方法について説明しています。

Linux/Unix をお使いの方へ（）

コマンドを使用してプリンターを操作する方法について説明しています。本機では使用できない機能や設定についても記載している場合があります。この説明書はリコーのホームページからダウンロードしてください。

補足

- HTML 形式の使用説明書は Web ブラウザーでご覧いただけます。
- PDF 形式の使用説明書を表示するには、Adobe Acrobat Reader/Adobe Reader が必要です。

使用説明書一覧表

分冊名	紙マニュアル	画面で見る使用説明書 HTML 形式のマニュアル	画面で見る使用説明書 PDF 形式のマニュアル
はじめにお読みください	なし	有り（）	なし
かんたんセットアップ	有り（）	なし	有り（）
クイックガイド	有り（）	なし	有り（）
ハードウェアガイド	有り（）	有り（）	有り（）
ソフトウェアガイド	なし	有り（）	有り（）
セキュリティーガイド	なし	なし	有り（）
PostScript 3 編	なし	有り（）	なし
RPDL 編	なし	有り（）	なし
R98 編	なし	有り（）	なし
R55 編	なし	有り（）	なし
R16 編	なし	有り（）	なし
PCL 編	なし	有り（）	なし
VM カード JavaTM Platform 拡張機能初期設定 Web 編	なし	有り（）	有り（）
Linux/Unix をお使いの方へ	なし	なし	有り（）

はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

株式会社 リコー
東京都中央区銀座 8-13-1 リコービル 〒 104-8222
http://www.ricoh.co.jp/

複製、印刷が禁止されているもの

本機を使って、何を複製、印刷してもよいとは限りません。法律により罰せられることもありますので、ご注意ください。

1. 複製、印刷することが禁止されているもの

（見本と書かれているものでも複製、印刷できない場合があります。）

- 紙幣、貨幣、銀行券、国債証券、地方債券など
- 日本や外国の郵便切手、印紙
- **（関係法律）**
    - 紙幣類似証券取締法
    - 通貨及証券模造取締法
    - 郵便切手類模造等取締法
    - 印紙等模造取締法
    - （刑法 第 148 条 第 162 条）

2. 不正に複製、印刷することが禁止されているもの

- 外国の紙幣、貨幣、銀行券
- 株券、手形、小切手などの有価証券
- 国や地方公共団体などの発行するパスポート、免許証、許可証、身分証明書などの文書または図画
- 個人、民間会社などの発行する定期券、回数券、通行券、食券など、権利や事実を証明する文書または図画
- **（関係法律）**
    - 刑法 第 149 条 第 155 条 第 159 条 第 162 条
    - 外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律

3. 著作権法で保護されているもの

著作権法により保護されている著作物（書籍、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画および写真など）を複製、印刷することは、個人または家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で使用する目的で複製、印刷する場合を除き、禁止されています。

おことわり

本機に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作をミスしたり本機に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。

本機の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本機の使用により生じた損害について、当社はいっさいその責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

本製品（ハードウェア、ソフトウェア）および使用説明書（本書・付属説明書）を運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。

この本の読みかた

この説明書の読みかたや、使われているマークについて説明します。

正しくお使いいただくために

この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載してあります。ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。

安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『ハードウェアガイド』「安全上のご注意」をお読みください。

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

重要

機能をご利用になるときに留意していただきたい項目を記載しています。紙づまり、原稿破損、データ消失などの原因になる項目も記載していますので、必ずお読みください。

補足

機能についての補足項目、操作を誤ったときの対処方法などを記載しています。

参照

説明、手順の中で、ほかの記載を参照していただきたい項目の参照先を示しています。

各タイトルの一番最後に記載しています。

[ ]

キーとボタンの名称を示します。

『 』

本書以外の分冊名称を示します。

本書についてのご注意

本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。

機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

画面の表示内容やイラストは機種、オプションによって異なります。

本書は、原則的にオプションを装着した状態の画面と外観イラストを使って説明しています。

本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。

IP アドレスについて

本書で「IP アドレス」と表記されている場合は、IPv4 と IPv6 の両環境に対応していることを示しています。お使いの環境に合わせてお読みください。

おもなオプションと略称

本体に用意されているおもなオプションの名称と、本文中で使用している略称を示します。

商品名	略称
拡張 HDD タイプ N	拡張 HDD
IPSiO 拡張無線 LAN ボード タイプ A	拡張無線 LAN ボード
拡張 1284 ボード タイプ A	拡張 1284 ボード
ワイヤレスインターフェースボード タイプ BT7	拡張 Bluetooth ボード

商品名	略称	総称
IPSiO マルチエミュレーションカード タイプ C420	マルチエミュレーションカード(RPDL、R98、R55、R16)	拡張 SD カード
IPSiO PS3 カード タイプ C420	PS3 カード	
IPSiO PDF ダイレクトプリントカード タイプ C420	PDF ダイレクトプリントカード	
IPSiO PCL カード タイプ C420	PCL カード	
IPSiO BMLinkS カード タイプ B	BMLinkS カード	
IPSiO セキュリティカード タイプ C	セキュリティーカード	
IPSiO 蓄積文書暗号化カード タイプ B	蓄積文書暗号化カード	
IPSiO デジタルカメラ接続カード タイプ F	デジタルカメラ接続カード	
リコー 個人認証カード タイプ R1-08	個人認証システム	

1. 印刷するための準備

同梱の CD-ROM からドライバーやソフトウェアをインストールする手順などについての説明です。

接続方法を確認する

プリンターは、ネットワーク接続またはローカル接続することができます。

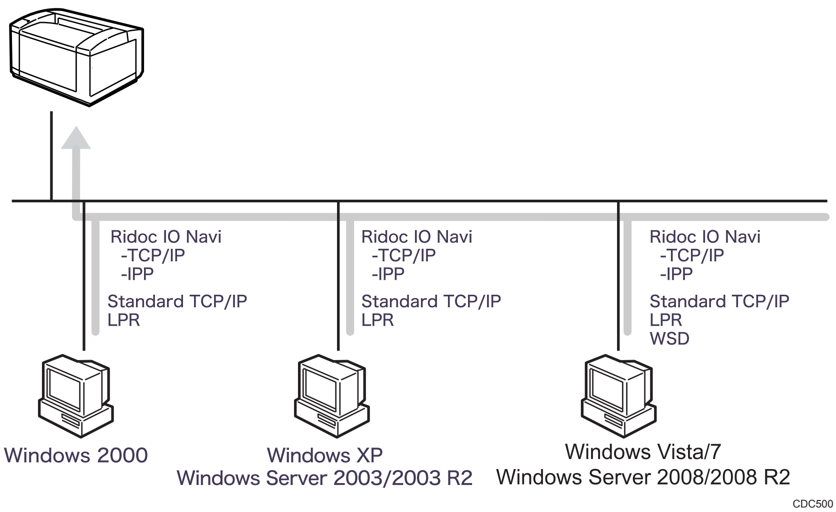
プリンタードライバーをインストールする前に、プリンターをどのように接続したかを確認し、ご使用の接続方法でのインストール方法を参照し、プリンタードライバーをインストールしてください。

ネットワーク接続

ネットワーク接続では、Windows の印刷ポートを使用してプリンターへダイレクト印刷（Peer-to-Peer ネットワーク）、またはサーバーを使用してクライアントから印刷するネットワークプリンターとして本機を使用します。

Windows の印刷ポートを使用する

ご使用の Windows とインターフェースによって、使用できるポートが異なります。インターフェースは、イーサネット、拡張無線 LAN ボードを使用します。



Windows 2000 の場合

接続方法	使用できるポート
• イーサネット • 無線 LAN	• Standard TCP/IP ポート • LPR ポート • Ridoc IO Navi ポート

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

接続方法	使用できるポート
• イーサネット • 無線 LAN	• Standard TCP/IP ポート • IPP ポート • LPR ポート • Ridoc IO Navi ポート

Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 の場合

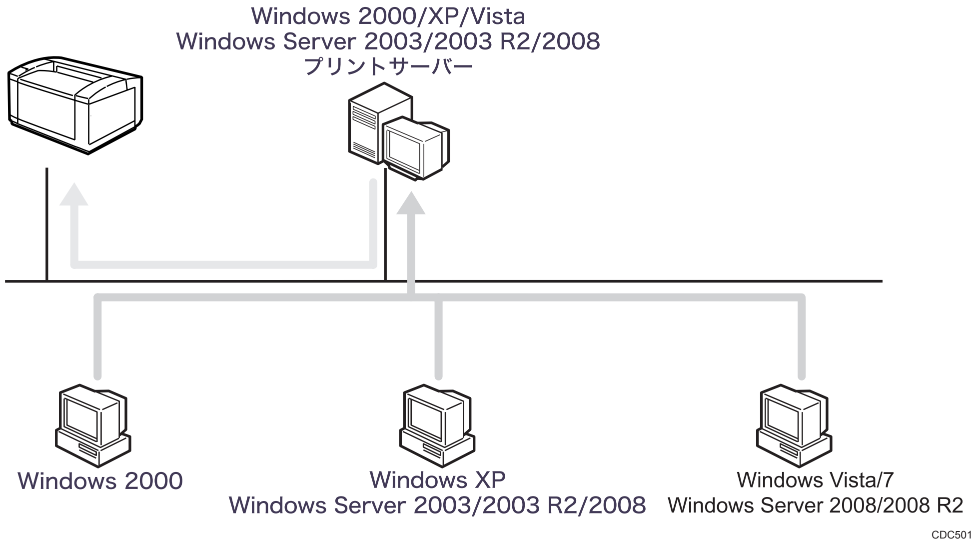
接続方法	使用できるポート
• イーサネット • 無線 LAN	• Standard TCP/IP ポート • IPP ポート • LPR ポート • WSD ポート • Ridoc IO Navi ポート

補足

- 各ポートごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用のポートの記載を参照してください。
- P.25「Standard TCP/IP ポートを使う」
- P.27「IPP ポートを使う」
- P.29「LPR ポートを使う」
- P.31「WSD ポートを使う」
- P.33「Ridoc IO Navi ポートを使う」

プリントサーバーを使用する

Windows ネットワークプリンターとして使用できます。



補足

- プリンタードライバーのインストール方法については P.40「Windows ネットワークプリンターを使う」を参照してください。

ローカル接続

ローカル接続には、USB 接続、パラレル接続、Bluetooth 接続があります。

補足

- 接続方法ごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用の接続方法の記載を確認してください。
- P.43「USB 接続」
- P.49「パラレル接続」
- P.53「Bluetooth を使う」

1

プリンタードライバーについて

印刷するための準備として、プリンタードライバーのインストール方法について説明します。推奨する方法で一括インストールする「おすすめインストール」と、各ポート別にインストールする方法があります。

おすすめインストールについてはP.23「おすすめインストール」を、各ポート別のインストール方法についてはP.25「各ポート別インストール」を、それぞれ参照してください。

プリンタードライバーのダウンロードについて

プリンタードライバーは付属の CD-ROM に入っていますが、リコーホームページからもダウンロードできます。

ドライバーをダウンロードするには、リコーのホームページで本機を選択し、お使いの OS を選択してください。

（http://www.ricoh.co.jp/download/index.html）

BMLinkS ドライバーのダウンロードについて

BMLinkS 最新ドライバーは、BMLinkS のホームページからダウンロードすることができます。

- BMLinkS ホームページ：http://www.jbmia.or.jp/bmlinks/

補足

- ダウンロードできるプリンタードライバーの OS 別対応状況については、リコーのホームページで確認できます。（http://www.ricoh.co.jp/IPSiO/os/）

おすすめインストール

プリンタードライバーのインストールと、本機への接続が簡単に設定できます。

［おすすめインストール］ボタンをクリックすると、本機が TCP/IP を使用しているネットワークに接続されていて、IP アドレスが設定されている場合、RPCS プリンタードライバーをインストールして TCP/IP ポートが設定されます。本機がパラレル接続されている場合は、RPCS プリンタードライバーをインストールして LPT1 ポートが設定されます。

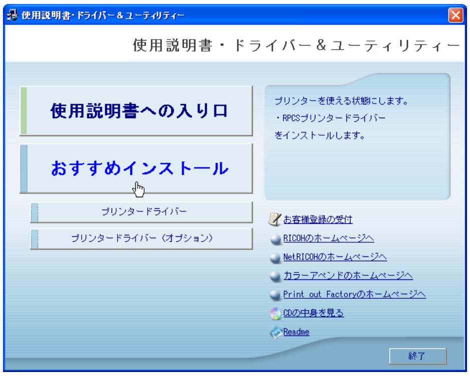
重要

- **本機を USB 接続で使用する場合、おすすめインストールではプリンタードライバーを正しくインストールできません。USB で接続した場合は、P.43「USB 接続」を参照してください。**
- **管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**

1. すべてのアプリケーションを終了します。

2. 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

3. ［おすすめインストール］をクリックします。



4. ソフトウェア使用許諾契約のすべての項目をお読みください。同意する場合は［同意します］を選択し、［次へ］をクリックします。

5. おすすめインストールをする機種を選択します。

ネットワーク接続の場合、［接続先］に IP アドレスが表示されているプリンターを選択します。

パラレル接続の場合、［接続先］にプリンタポートが表示されているプリンターを選択します。

6. ［インストール］をクリックします。

インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」というメッセージや、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

1

7. ［完了］をクリックします。

［再起動の確認］ダイアログが表示された場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

8. 最初のウィンドウで［終了］をクリックし、CD-ROM を取り出します。

補足

- パラレル接続で本機とパソコンが双方向通信していない場合、おすすめインストールができません。双方向通信をするためには条件が必要です。詳細は、P.59「オプション構成の設定」を参照してください。

各ポート別インストール

さまざまなポートを使用して印刷を行う場合の、RPCS プリンタードライバーのインストール方法について説明します。

Standard TCP/IP ポートを使う

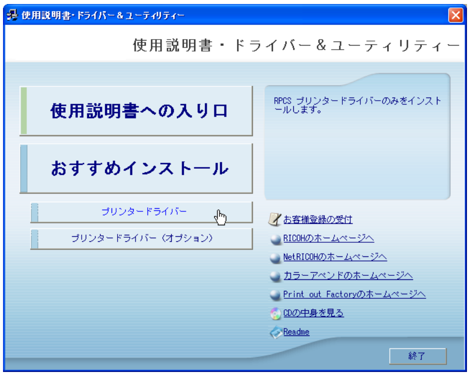
Standard TCP/IP ポートを使用する場合の、インストール方法について説明します。

ここでは Windows XP を例に説明します。

重要

- **管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**
- **ご使用の OS が Windows 2000/XP, Windows Server 2003/2003 R2 の場合、IPv6 の環境では Standard TCP/IP ポートは使用できません。IPv6 の環境で使用する場合は、Ridoc IO Navi ポートを使用してください。**

1. すべてのアプリケーションを終了します。
2. 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。
3. ［プリンタードライバー］をクリックします。



4. ［使用許諾］ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は［同意します］を選択し、［次へ］をクリックします。
5. ［プリンタードライバーの導入］ダイアログで、インストールするプリンタードライバーにチェックをします。
6. インストールするプリンタードライバーをダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

1

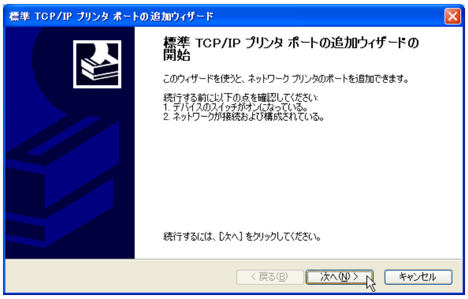
7. [ポート:] を選択し、['ポート'の設定の変更] にある [追加] をクリックします。

8. 「Standard TCP/IP Port」を選択し、[OK] をクリックします。



「Standard TCP/IP Port」が表示されない場合は、Windows のヘルプを参照して Standard TCP/IP の設定をしてください。

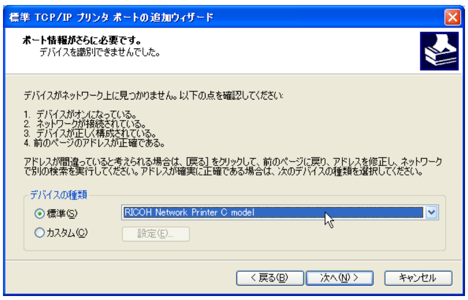
9. 「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード」の開始画面で、[次へ] をクリックします。



10. [プリンタ名または IP アドレス] ボックスにプリンター名または本機のアドレスを入力し、[次へ] をクリックします。

[ポート名] ボックスには自動的にポート名が入力されます。必要があれば変更してください。

デバイスの種類を選択する画面が表示された場合は、「RICOH Network Printer C Model」を選択してください。



11.「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード」の完了画面で、[完了] をクリックします。

[ポート:] に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

12. 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

[ユーザーコード:] をクリックして選択します。

ユーザーコードを設定しておくと、ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Analyzer で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Analyzer のヘルプを参照してください。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

13. 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

14. [完了] をクリックします。

インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」というメッセージや、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

15. [プリンタードライバーの導入] ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

16. [完了] をクリックします。

[再起動の確認] ダイアログが表示された場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

17. 最初のウィンドウで [終了] をクリックし、CD-ROM を取り出します。

補足

- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「Setup.exe」をダブルクリックして起動してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合は、P.57「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してください。

IPP ポートを使う

IPP を使用する場合の、インストール方法について説明します。

ここでは Windows XP を例に説明します。

重要

- 管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。
- IPv6 の環境では、IPP ポートは使用できません。Ridoc IO Navi ポートをお使いください。
- Windows 2000 をお使いの場合、IPP ポートは使用できません。IPP プロトコルを使用して印刷をする場合は、Ridoc IO Navi が必要です。Ridoc IO Navi は、リコーのホームページからダウンロードできます。詳しくは、P.246「ソフトウェアのダウンロードについて」を参照してください。Ridoc IO Navi で IPP プロトコルを指定して、ドライバーをインストールする方法については、P.36「プリンタードライバーのインストール（IPP）」を参照してください。
- IPP-SSL 経由で印刷を行う場合は、Ridoc IO Navi ポートをお使いください。
- Windows Vista/7 または Windows Server 2008/2008 R2 をお使いの場合で、IPP-SSL 経緯で印刷を行う場合は、IPP ポートでプリンタードライバーをインストールする前に、パソコンに機器証明書をインストールしてください。詳細は、管理者に問い合わせてください。

1. すべてのアプリケーションを終了します。

2. ［スタート］ボタンから［プリンタと FAX］をクリックし、［プリンタのインストール］をクリックします。

3. ［次へ］をクリックします。

4. ［プリンタの追加ウィザード］で［ネットワークプリンタ、またはほかのコンピュータに接続されているプリンタ］を選択し、［次へ］をクリックします。

5. ［インターネット上または自宅/会社のネットワーク上のプリンタに接続する］を選択します。

［URL:］に「http://（本機の IP アドレス）/printer (または ipp)」を入力します。

6. ［次へ］をクリックします。

7. ［ディスク使用...］をクリックします。

8. 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

［自動再生］ダイアログが表示された場合は、［クローズ］ボタンをクリックして次の手順に進みます。

9. ［参照］をクリックし、プリンタードライバーの場所を指定します。

INF ファイルを選択します。CD-ROM ドライブが D:¥の場合、インストールするプリンタードライバーは以下のフォルダに収録されています。

- Windows 32bit 版プリンタードライバー

  D:¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1

- Windows 64bit 版プリンタードライバー

D:¥DRIVERS¥RPCS¥x64¥DISK1

10. [開く] をクリックします。

11. [OK] をクリックします。

12. [プリンタの追加ウィザード] でインストールするプリンタードライバーを選択し、[OK] をクリックします。

    インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」というメッセージや、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

13. 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定し、[次へ] をクリックします。

14. [完了] をクリックします。

15. 付属の CD-ROM のウィンドウで [終了] をクリックし、CD-ROM を取り出します。

LPR ポートを使う

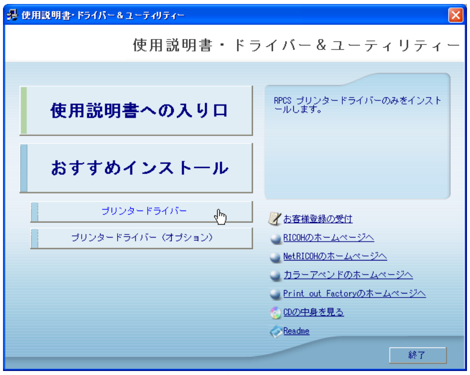
重要

- 管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

1. すべてのアプリケーションを終了します。

2. 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

3. [プリンタードライバー] をクリックします。



4. [使用許諾] ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は [同意します] を選択し、[次へ] をクリックします。

5. ［プリンタードライバーの導入］ダイアログで、インストールするプリンタードライバーにチェックをします。

6. インストールするプリンタードライバーをダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

7. ［ポート:］を選択し、［'ポート'の設定の変更］にある［追加］をクリックします。

8. 「LPR Port」を選択し、［OK］をクリックします。



「LPR Port」が表示されない場合は、Windows のヘルプを参照して LPR ポートを組み込んでください。

9. ［LPD を提供しているサーバーの名前またはアドレス］ボックスに、本機のアドレスを入力します。

10. ［サーバーのプリンタ名または印刷キュー］ボックスに「lp」と入力し、［OK］をクリックします。

11. 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

［ユーザーコード:］をクリックして選択します。

ユーザーコードを設定しておくと、ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Analyzer で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Analyzer のヘルプを参照してください。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

12. 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

13. ［完了］をクリックします。

インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」というメッセージや、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

14. ［完了］をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

15. ［完了］をクリックします。

［再起動の確認］ダイアログが表示された場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

16. 最初のウィンドウで［終了］をクリックし、CD-ROM を取り出します。

補足

- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「Setup.exe」をダブルクリックして起動してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合は、P.57「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してください。

WSD ポートを使う

WSD ポートを使用する場合の、インストール方法について説明します。

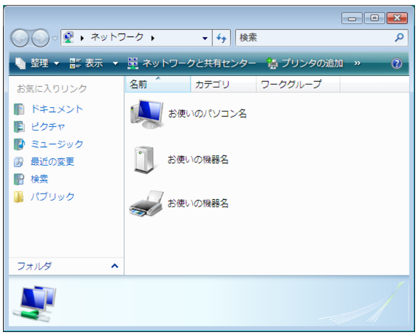
重要

- **Windows Vista/7 と Windows Server 2008/2008 R2 の場合でご使用いただけます。**
- **管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**
- **本機とパソコンが異なるネットワークセグメントに接続されている場合や、「ネットワーク探索」が無効になっている場合、本機を検出できません。詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。**

Windows Vista、Windows Server 2008 の場合

1. すべてのアプリケーションを終了します。

2. ［スタート］ボタンをクリックし、［ネットワーク］をクリックします。



3. 本機のプリンターアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［インストール］をクリックします。

   ［ユーザーアカウント制御］ダイアログが表示された場合は［続行］をクリックします。

4. ［ドライバソフトウェアを検索してインストールします（推奨）］をクリックします。

   ［ユーザーアカウント制御］ダイアログが表示された場合は［続行］をクリックします。

5. ［オンラインで検索しません］をクリックします。

6. ［コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します（上級）］をクリックします。

7. 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

   ［自動再生］ダイアログが表示された場合は、［クローズ］ボタンをクリックして次の手順に進みます。

8. ［参照］をクリックし、プリンタードライバーの場所を指定します。

   INF ファイルを選択します。CD-ROM ドライブが D:¥の場合、インストールするプリンタードライバーは以下のフォルダに収録されています。

   - Windows 32bit 版プリンタードライバー

     D:¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1

   - Windows 64bit 版プリンタードライバー

     D:¥DRIVERS¥RPCS¥x64¥DISK1

9. ［次へ］をクリックします。

   インストールの途中で［ドライバソフトウェアの発行元を検証できません］というメッセージが表示された場合は、［このドライバソフトウェアをインストールします］をクリックします。

10. ［閉じる］をクリックします。

11. CD-ROM を取り出します。

Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合

1. すべてのアプリケーションを終了します。

2. ［スタート］ボタンをクリックし、［コンピューター］をクリックします。

3. ［ネットワーク］をクリックします。

4. **本機のプリンターアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［インストール］をクリックします。**

   ［デバイスドライバーソフトウェアは正しくインストールされませんでした］ダイアログが表示された場合は、メッセージを閉じて次の手順に進みます。

5. **［スタート］ボタンをクリックし、［デバイスとプリンター］をクリックします。**
6. **［プリンターの追加］をクリックします。**
7. **［ローカルプリンターを追加します］をクリックします。**
8. **［既存のポートを使用：］が選択されていることを確認して、WSD ポートを選択します。**
9. **［次へ］をクリックします。**
10. **［ディスク使用...］をクリックします。**
11. **付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。**

    INF ファイルを選択します。CD-ROM ドライブが D:¥の場合、インストールするプリンタードライバーは以下のフォルダに収録されています。

    - Windows 32bit 版プリンタードライバー

      D:¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1

    - Windows 64bit 版プリンタードライバー

      D:¥DRIVERS¥RPCS¥x64¥DISK1

12. **［OK］をクリックします。**
13. **インストールしたいプリンターを選んで、［次へ］をクリックします。**
14. **画面の指示に従ってインストールします。**

    必要に応じて、プリンターの名前、プリンターの共有、通常使うプリンターの設定、テストページを印刷するかどうかの設定をします。

15. **CD-ROM を取り出します。**

補足

- インストールの途中で［キャンセル］を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。再度インストールを行う場合は、［ネットワーク］ウィンドウで本機のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［アンインストール］を実行してください。

Ridoc IO Navi ポートを使う

Ridoc IO Navi ポートを使用する方法について説明します。

Ridoc IO Navi ポートを使うには、Ridoc IO Navi を、リコーのホームページからダウンロードしてください。詳しくは P.246「ソフトウェアのダウンロードについて」を参照してください。

1

重要

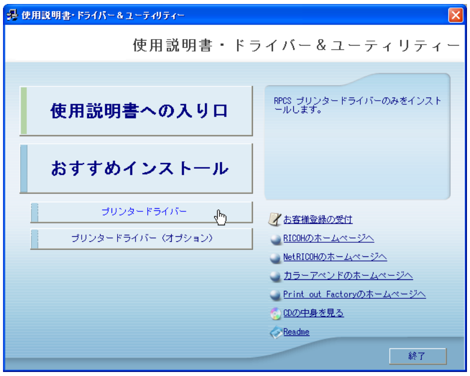
- **管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**
- **Ridoc IO Navi ポートを使う場合、プリンタードライバーをインストールする前に Ridoc Desk Navigator をインストールします。Ridoc Desk Navigator をインストールすると、同時に Ridoc IO Navi もインストールされます。**

プリンタードライバーのインストール（TCP/IP）

1. すべてのアプリケーションを終了します。

2. 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

3.［プリンタードライバー］をクリックします。



4.［使用許諾］ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は［同意します］を選択し、［次へ］をクリックします。

5.［プリンタードライバーの導入］ダイアログで、インストールするプリンタードライバーにチェックします。

6. インストールするプリンタードライバーをダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

7.［ポート:］を選択し、［追加］をクリックします。

8. 「Ridoc IO Navi」を選択し、[OK] をクリックします。

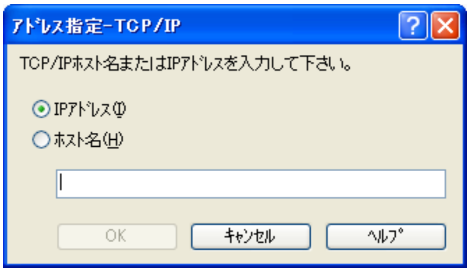


9. [TCP/IP] を選択します。

10. [機器検索] をクリックします。

11. 使用するプリンターを選択します。

コンピューターからのブロードキャストに応答したプリンターだけが表示されます。表示されないプリンターに印刷するときは、[アドレス指定] をクリックします。本機のアドレスまたはホスト名を直接入力し、[OK] をクリックしてください。



12. [OK] をクリックします。

13. 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

14. 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

15. [完了] をクリックします。

インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」というメッセージや、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

16. [プリンタードライバーの導入] ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

17. [完了] をクリックします。

[再起動の確認] ダイアログが表示された場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

1

18. 最初のウィンドウで［終了］をクリックし、CD-ROM を取り出します。

補足

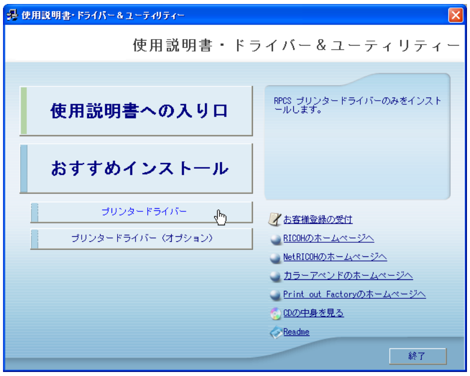
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「Setup.exe」をダブルクリックして起動してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合は、P.57「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してください。
- ユーザーコードを設定しておくと、ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Analyzer で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Analyzer のヘルプを参照してください。

プリンタードライバーのインストール（IPP）

1. すべてのアプリケーションを終了します。

2. 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

3. ［プリンタードライバー］をクリックします。



4. ［使用許諾］ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は［同意します］を選択し、［次へ］をクリックします。

5. ［プリンタードライバーの導入］ダイアログで、インストールするプリンタードライバーにチェックをします。

6. インストールするプリンタードライバーをダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

7. ［ポート:］を選択し、［追加］をクリックします。

8. 「Ridoc IO Navi」を選択し、[OK]をクリックします。



9. [IPP]を選択します。

10. [プリンタの URL]に「http://(本機のアドレス)/printer」または「http://(本機のアドレス)/ipp」を入力します。

    SSL(暗号化通信)の設定を有効にしている場合、「https://(本機のアドレス)/printer」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いください。Internet Explorer6.0 以降を推奨します。

11. 必要に応じて[IPP ポート名]にプリンターを区別するための名前を入力します。すでにある他の IPP ポート名と違う名前を入力してください。

    入力を省略すると、[プリンタの URL]に入力したアドレスが IPP ポート名に設定されます。

12. プロキシサーバーや IPP ユーザー名などの設定を行う場合は、[詳細設定]をクリックし、必要な項目を設定し、[OK]をクリックします。

    詳しい設定項目については、Ridoc IO Navi のヘルプを参照してください。

13. [OK]をクリックします。

14. 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

    入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

15. 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

16. [完了]をクリックします。

    インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」というメッセージや、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい]または[続行]をクリックし、インストールを続行してください。

17. [プリンタードライバーの導入]ダイアログに戻り、[完了]をクリックします。

    お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

1

18. ［完了］をクリックします。

［再起動の確認］ダイアログが表示された場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

19. 最初のウィンドウで［終了］をクリックし、CD-ROM を取り出します。

補足

- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「Setup.exe」をダブルクリックして起動してください。
- ユーザーコードを設定しておくと、ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Analyzer で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Analyzer のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合は、P.57「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してください。

Ridoc IO Navi ポートの設定を変更する

TCP/IP のタイムアウト、代行印刷や並行印刷、プリンターグループなど、Ridoc IO Navi の設定を変更できます。

Windows 2000 の場合

1. ［スタート］ボタンから［設定］をポイントし、［プリンタ］をクリックします。

2. 印刷するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。

3. ［ポート］タブをクリックし、［ポートの構成］をクリックします。

Windows XP, Windows Server 2003/2003 R2 の場合

1. ［スタート］ボタンから［コントロールパネル］をクリックし、［プリンタとその他のハードウェア］カテゴリーから［プリンタと FAX］をクリックします。

2. 印刷するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。

3. ［ポート］タブをクリックし、［ポートの構成］をクリックします。

Windows Vista、Windows Server 2008 の場合

1. ［スタート］ボタンから［コントロールパネル］をクリックし、［ハードウェアとサウンド］カテゴリーから［プリンタ］をクリックします。

2. 印刷するプリンターのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックします。

3. ［ポート］タブをクリックし、［ポートの構成］をクリックします。

Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合

1. ［スタート］ボタンから［デバイスとプリンター］をクリックします。

2. 印刷するプリンターのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［プリンターのプロパティ］をクリックします。

3. ［ポート］タブをクリックし、［ポートの構成］をクリックします。

補足

- 印刷通知、代行印刷 / 並行印刷の設定は拡張機能設定で行います。設定は Ridoc IO Navi ポートで TCP/IP の場合に有効となります。拡張機能設定を行うには、Ridoc IO Navi が起動している状態でタスクトレイの Ridoc IO Navi アイコンを右クリックします。［プロパティ］をポイントし、表示されたメニューから［拡張機能設定］を選択してください。
- ［代行印刷 / 並行印刷］はポート毎に設定できます。設定を行うには、Ridoc IO Navi が起動している状態でタスクトレイの Ridoc IO Navi アイコンを右クリックします。［プロパティ］をポイントし、表示されたメニューから［拡張機能設定］を選択して［代行 / 並行印刷をポート毎に設定する］にチェックを付けます。
- IPP の場合、IPP ユーザー設定、プロキシ設定、タイムアウト設定ができます。
- 設定方法については、Ridoc IO Navi のヘルプを参照してください。

Windows ネットワークプリンターを使う

Windows ネットワークプリンターを使う場合は、RPCS プリンタードライバーを「ネットワークプリンタ」を指定してインストールし、Windows ネットワーク上の共有プリンターを選択します。

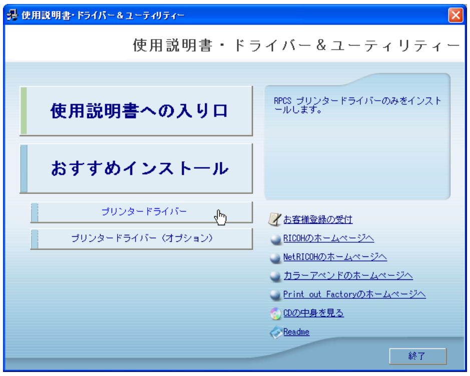
重要

- **管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**
- **Ridoc IO Navi ポートで本機を接続しているネットワークプリンターをご使用の場合、クライアントからの代行印刷、並行印刷できません。**
- **Windows の共有プリンターの場合、クライアントに印刷通知が行われない場合があります。**

1. すべてのアプリケーションを終了します。

2. 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

3. ［プリンタードライバー］をクリックします。



4. ［使用許諾］ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は［同意します］を選択し、［次へ］をクリックします。

5. ［プリンタードライバーの導入］ダイアログで、インストールするプリンタードライバーにチェックをします。

6. インストールするプリンタードライバーをダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

7. ［ポート:］を選択し、［'ポート'の設定の変更］にある［追加］をクリックします。

8. ［ネットワークプリンター］を選択し、［OK］をクリックします。



9. ネットワークツリー上で、プリントサーバーとして使用するコンピューターの名前をダブルクリックします。

10. インストールするプリンタードライバーを選択し、［OK］をクリックします。

11. 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

12. 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

13. ［完了］をクリックします。

インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」というメッセージや、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

14. ［プリンタードライバーの導入］ダイアログに戻り、［完了］をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

15. ［完了］をクリックします。

［再起動の確認］ダイアログが表示された場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

16. 最初のウィンドウで［終了］をクリックし、CD-ROM を取り出します。

補足

- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「Setup.exe」をダブルクリックして起動してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合は、P.57「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してください。
- Windows ネットワークプリンターが正しく設定されていないと、インストールが継続できません。インストールをキャンセルしてから、P.229「Windows ネットワークプリンターを設定する」を参照して、Windows ネットワークプリンターを設定してください。

- ユーザーコードを設定しておくと、ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Analyzer で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Analyzer のヘルプを参照してください。

USB 接続

1

本機とパソコンを USB ケーブルで接続し、プリンタードライバーをインストールする方法について説明します。

セットアップを始める前に USB ケーブルを接続するパソコンが以下の状態であることを確認してください。

- OS 以外のソフトウェアが起動していない
- 印刷を行っていない

Windows 2000 と USB で接続する

重要

- **管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**

USB ケーブルを初めて使用した場合、[新しいハードウェアの検出ウィザード] が表示され、「USB 印刷サポート」が自動的にインストールされます。

ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、[プリンタ] ウィンドウに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。

プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プラグアンドプレイのウィザードに従って、付属の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

1. **本機の電源が切れていることを確認します。**
2. **本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。**
3. **本機の電源を入れます。**

   [新しいハードウェアの検出ウィザード] が表示されます。
4. **[次へ>] をクリックします。**
5. **[デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)] をチェックし、[次へ>] をクリックします。**
6. **[場所を指定] をチェックし、[次へ>] をクリックします。**
7. **付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。**

   CD-ROM のオートランプログラムが起動した場合は、[キャンセル] をクリックします。
8. **[参照] をクリックし、プリンタードライバーの場所を指定します。**

   インストールするプリンタードライバーの収録フォルダは、CD-ROM ドライブが D:¥の場合「D:¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1」です。

9. ［製造元のファイルのコピー元］にプリンタードライバーの場所が表示されていることを確認し、［OK］をクリックします。

10. ［次へ>］をクリックします。

1

11. プリンタードライバーのインストールが開始されます。

インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」というメッセージや、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

12. ［完了］をクリックします。

補足

- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合は、P.57「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してください。

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 と USB で接続する

重要

- **管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**

USB ケーブルを初めて使用した場合、［新しいハードウェアの検出ウィザード］が表示され、「USB 印刷サポート」が自動的にインストールされます。

ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、［プリンタと FAX］ウィンドウに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。

プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プラグアンドプレイのウィザードに従って、付属の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

1. 本機の電源が切れていることを確認します。

2. 本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。

3. 本機の電源を入れます。

［新しいハードウェアの検出ウィザード］が表示されます。

4. ［一覧または特定の場所からインストールする（詳細）］をチェックし、［次へ>］をクリックします。

5. 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

CD-ROM のオートランプログラムが起動した場合は、［キャンセル］をクリックします。

6. **［次の場所で最適のドライバを検索する］の［次の場所を含める］をチェックし、［参照］をクリックしてプリンタードライバーの場所を指定します。**

INF ファイルを選択します。CD-ROM ドライブが D:¥の場合、インストールするプリンタードライバーは以下のフォルダに収録されています。

- Windows 32bit 版プリンタードライバー

  D:¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1

- Windows 64bit 版プリンタードライバー

  D:¥DRIVERS¥RPCS¥x64¥DISK1

7. **プリンタードライバーの場所が表示されていることを確認し、［次へ >］をクリックします。**

8. **プリンタードライバーのインストールが開始されます。**

インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」というメッセージや、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

9. **［完了］をクリックします。**

補足

- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合は、P.57「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してください。

Windows Vista、Windows Server 2008 と USB で接続する

重要

- **管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**

本機のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、［プリンタ］ウィンドウに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。

プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プラグアンドプレイのウィザードに従って、付属の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

1. **本機の電源が切れていることを確認します。**

2. **本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。**

3. **本機の電源を入れます。**

［新しいハードウェアが見つかりました］ダイアログが表示されます。

1

4. [ドライバソフトウェアを検索してインストールします（推奨）] をクリックします。

[ユーザーアカウント制御] ダイアログが表示された場合は [続行] をクリックします。

5. [オンラインで検索しません] をクリックします。

本機に付属している CD-ROM の挿入を促すメッセージが表示されます。

6. 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

7. [参照] をクリックし、プリンタードライバーの場所を指定します。

INF ファイルを選択します。CD-ROM ドライブが D:¥の場合、インストールするプリンタードライバーは以下のフォルダに収録されています。

- Windows 32bit 版プリンタードライバー

  D:¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1

- Windows 64bit 版プリンタードライバー

  D:¥DRIVERS¥RPCS¥x64¥DISK1

8. 本機の RPCS プリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。

インストールの途中で「ドライバソフトウェアの発行元を検証できません」というメッセージが表示された場合は、[このドライバソフトウェアをインストールします] をクリックします。

9. [閉じる] をクリックします。

補足

- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合は、P.57「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してください。

Windows 7、Windows Server 2008 R2 と USB で接続する

重要

- **管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**

本機のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、[デバイスとプリンター] ウィンドウに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。

プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プラグアンドプレイのウィザードに従って、付属の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

1. 本機の電源が切れていることを確認します。

2. 本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。
3. 本機の電源を入れます。
4. ［スタート］ボタンをクリックし、［デバイスとプリンター］をクリックします。
5. ［未指定］で、インストールしたいプリンターのアイコンをダブルクリックします。
6. ［ハードウェア］タブをクリックします。
7. インストールしたいプリンターの名前を選択し、［プロパティ］をクリックします。

   Windows Server 2008 R2 の場合、手順 10 へ進んでください。
8. ［全般］タブをクリックします。
9. ［設定の変更］をクリックします。
10. ［ドライバー］タブをクリックします。
11. 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

    ［自動再生］ダイアログが表示された場合は、［閉じる］ボタンをクリックして次の手順に進みます。
12. ［ドライバーの更新］をクリックします。
13. ［コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索します］をクリックします。
14. ［参照...］をクリックして、プリンタードライバーの場所を指定します。

    INF ファイルを選択します。CD-ROM ドライブが D:¥の場合、インストールするプリンタードライバーは以下のフォルダに収録されています。

    - Windows 32bit 版プリンタードライバー

      D:¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1
    - Windows 64bit 版プリンタードライバー

      D:¥DRIVERS¥RPCS¥x64¥DISK1
15. ［次へ］をクリックします。

    インストールの途中で「ドライバソフトウェアの発行元を検証できません」というメッセージが表示された場合は、［このドライバソフトウェアをインストールします］をクリックします。
16. ［閉じる］をクリックします。

補足

- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合は、P.57「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してください。

USB 接続がうまくいかないとき

状態	対処方法
本機が自動認識されない。	本機の電源を OFF にして、ケーブルが緩んでいないかを確認して再接続し、電源を ON にしてください。
Windows が自動的に USB 接続の設定をしてしまった。	Windows のデバイスマネージャで、不正なデバイスを［ユニバーサル シリアル バス コントローラ］または［USB(Universal Serial Bus)コントローラ］から削除してください。不正なデバイスは、アイコンに黄色の［！］がついたり、黄色の［？］がついたりしています。必要なデバイスを削除しないようにご注意ください。デバイスマネージャへのアクセス方法、デバイスの削除について詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。

パラレル接続

本機とパソコンをパラレル接続して使う場合は、RPCS プリンタードライバーを「ローカルポート」に指定してインストールします。

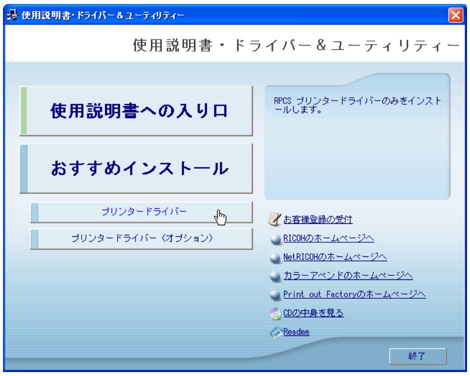
重要

- **管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**

1. すべてのアプリケーションを終了します。

2. 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

3. ［プリンタードライバー］をクリックします。



4. ［使用許諾］ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は［同意します］を選択し、［次へ］をクリックします。

5. ［プリンタードライバーの導入］ダイアログで、インストールするプリンタードライバーにチェックをします。

6. インストールするプリンタードライバーをダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

［ポート:］にプリンターを接続したポート（通常は、LPT1:）が設定されていることを確認します。

7. 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

8. 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

1

9.［完了］をクリックします。

インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」というメッセージや、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

10.［プリンタードライバーの導入］ダイアログに戻り、［完了］をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

11.［完了］をクリックします。

［再起動の確認］ダイアログが表示された場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

12. 最初のウィンドウで［終了］をクリックし、CD-ROM を取り出します。

補足

- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「Setup.exe」をダブルクリックして起動してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合は、P.57「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してください。
- ユーザーコードを設定しておくと、ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Analyzer で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Analyzer のヘルプを参照してください。

64bit 版プリンタードライバーをインストールする

1

重要

- 管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。
- WSD ポートを使用する場合は、P.31「WSD ポートを使う」を参照してプリンタードライバーをインストールしてください。
- USB 接続を使用する場合は、P.43「USB 接続」を参照してプリンタードライバーをインストールしてください。
- Bluetooth 接続を使用する場合は、P.53「Bluetooth を使う」を参照してプリンタードライバーをインストールしてください。

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

1. ［スタート］メニューから［プリンタと FAX］ウィンドウを開きます。
2. ［プリンタのインストール］をクリックします。
3. 画面の指示に従ってインストールします。

   INF ファイルを選択します。

   CD-ROM ドライブが D:¥の場合、インストールするプリンタードライバーは以下のフォルダに収録されています。

   D:¥DRIVERS¥RPCS¥x64¥DISK1

Windows Vista、Windows Server 2008 の場合

1. ［スタート］メニューから［プリンタ］ウィンドウを開きます。
2. ［プリンタのインストール］をクリックします。
3. 画面の指示に従ってインストールします。

   INF ファイルを選択します。

   CD-ROM ドライブが D:¥の場合、インストールするプリンタードライバーは以下のフォルダに収録されています。

   D:¥DRIVERS¥RPCS¥x64¥DISK1

Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合

1. ［スタート］メニューから［デバイスとプリンター］ウィンドウを開きます。

2. ［プリンターの追加］をクリックします。

3. 画面の指示に従ってインストールします。

INF ファイルを選択します。

CD-ROM ドライブが D:¥の場合、インストールするプリンタードライバーは以下のフォルダに収録されています。

D:¥DRIVERS¥RPCS¥x64¥DISK1

Bluetooth を使う

Bluetooth を使用する方法の説明です。

対応プロファイル

以下の Bluetooth profile に対応しています。

- SPP （Serial Port Profile）
- HCRP （Hardcopy Cable Replacement Profile）
- BIP （Basic Imaging Profile）

SPP、HCRP 制約事項

- Bluetooth インターフェースで同時に接続できる Bluetooth デバイスは、SPP 接続で 1 台、HCRP 接続で 1 台の合計 2 台です。
- 複数の Bluetooth アダプターや、Bluetooth 内蔵のパソコンで接続する場合、最初に接続を確立した機器が有効となります。その他の機器が接続する場合、最初に接続を確立した機器が接続を解除する必要があります。
- SPP 接続の場合、双方向通信には対応していません。
- HCRP 接続の場合、双方向通信に対応しています。

BIP 制約事項

- BIP で接続するには、本機に PS3 カードが装着されている必要があります。
- BIP 接続では同時に複数接続はできません。複数の Bluetooth デバイスから印刷する場合は、1 台ずつ行ってください。
- BIP 接続で印刷できるフォーマットは JPEG です。
- BIP 接続ではユーザーコードが無効になります。
- 本機に印刷制限が設定されている場合、BIP 接続では印刷することができません。
- 本機に課金用印刷の設定がされている場合、BIP 接続による印刷の課金ログを取得できません。

ここでは、HCRP で印刷する方法について説明します。SPP、BIP で印刷する方法については、お使いの Bluetooth アダプターに同梱のマニュアルまたは Microsoft のホームページで Bluetooth について参照してください。

Bluetooth プリンターの追加方法

ここでは、Windows XP SP2 および Windows Vista/7 での Bluetooth プリンター追加方法を説明します。

Windows XP SP1 以前の OS をお使いの場合は、ご使用の環境に合わせたソフトウェアのインストールが必要です。詳しくは、Bluetooth デバイス同梱のマニュアルを参照してください。

1

重要

- **管理者権限が必要です。Windows XP SP2 では Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。Windows Vista/7 では Administrator としてログオンし、管理者権限でユーザーアカウントコントロール（UAC）の変更を承認してください。**
- **Bluetooth デバイスが装着されていない PC では、Bluetooth プリンターの追加はできません。ご使用の PC に Bluetooth デバイスが装着されていることを、あらかじめご確認ください。**

Windows XP の場合

1. **［スタート］メニューから［プリンタと FAX］をクリックします。**
2. **［プリンタのインストール］をクリックします。**

   ［プリンタの追加ウィザード］が表示されます。
3. **［次へ］をクリックします。**
4. **［Bluetooth プリンタ］をチェックし、［次へ］をクリックします。**

   プリンターが発見されると［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示されます。発見されたプリンターがセットアップしたくないものの場合は、［キャンセル］をクリックしてください。プリンターの検出が継続されます。
5. **［いいえ、今回は接続しません］をチェックし、［次へ］をクリックします。**
6. **［一覧または特定の場所からインストールする］をチェックし、［次へ］をクリックします。**
7. **付属の CD-ROM をセットして［リムーバブル メディア（フロッピー、CD-ROM など）を検索］にチェックをつけて［次へ］をクリックします。**
8. **［ハードウェアのインストール］画面が表示された場合は、［続行］をクリックしてインストールを続けてください。**
9. **［完了］をクリックします。**
10. **テスト印刷の選択をし、［次へ］をクリックします。**
11. **［完了］をクリックします。**

補足

- 使用環境については Bluetooth デバイスや Bluetooth 内蔵の PC に準じます。詳しくは、お使いの Bluetooth デバイスや Bluetooth 内蔵の PC に同梱のマニュアルを参照してください。

Windows Vista の場合

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル] をクリックします。
2. “ハードウェアとサウンド” 内の [プリンタ] をクリックします。
3. 画面上部に表示される [プリンタのインストール] をクリックします。
4. [プリンタの追加] 画面で、[ネットワーク、ワイヤレスまたは Bluetooth プリンタを選択します] を選択し、[次へ] をクリックします。
5. 追加するプリンターを選択し、[次へ] をクリックします。

   利用できるプリンターのリストには、Bluetooth 以外のワイヤレス接続プリンターも表示されます。Bluetooth プリンターであることを確認して、選択してください。
6. 付属の CD-ROM をセットし、[新しいハードウェアが見つかりました] 画面で [ドライバソフトウェアを検索してインストールします] をクリックします。
7. [新しいハードウェアの検出] 画面でインストールしたいドライバーを選択し、[次へ] をクリックします。
8. [Windows セキュリティ] 画面が表示された場合は、[このドライバソフトウェアをインストールします] をクリックしてインストールを続けてください。
9. [閉じる] をクリックします。
10. プリンターの名称を変更したい場合は、プリンタ名の設定画面で任意のプリンタ名を入力します。
11. テスト印刷を行う場合は、テスト印刷ページで [テストページの印刷] をクリックします。
12. [完了] をクリックします。

Windows 7 の場合

1. [スタート] メニューから [デバイスとプリンター] をクリックします。
2. [プリンターの追加] をクリックします。
3. [ネットワーク、ワイヤレスまたは Bluetooth プリンターを追加します] をクリックします。
4. 追加するプリンターを選択し、[次へ] をクリックします。
5. プリンター名を変更する場合は、任意のプリンター名を入力して、[次へ] をクリックします。

6. プリンターを共有する場合は、共有の設定を行い、[次へ] をクリックします。
7. テスト印刷を行う場合は、[テストページの印刷] をクリックします。
8. [完了] をクリックします。

CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき

おすすめインストールに失敗したときは、P.25「Standard TCP/IP ポートを使う」を参照してインストールしてください。CD-ROM 収録のインストーラーによるインストールにも失敗したときは、以下の手順でインストールしてください。

Windows 2000 の場合

1. [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。
2. [プリンタの追加] アイコンをダブルクリックします。
3. [プリンタの追加ウィザード] に従ってインストールします。

   INF ファイルを選択します。CD-ROM ドライブが D:¥の場合、インストールするプリンタードライバーは以下のフォルダに収録されています。

   D:¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1

Windows XP Professional、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

1. [スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。
2. [プリンタの追加] をクリックします。
3. [プリンタの追加ウィザード] に従ってインストールします。

   INF ファイルを選択します。CD-ROM ドライブが D:¥の場合、インストールするプリンタードライバーは以下のフォルダに収録されています。

   D:¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1

Windows XP Home Edition の場合

1. [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
2. [プリンタとその他のハードウェア] をクリックします。
3. [プリンタと FAX] をクリックします。
4. [プリンタのインストール] をクリックします。

5.［プリンタの追加ウィザード］に従ってインストールします。

INF ファイルを選択します。CD-ROM ドライブが D:¥の場合、インストールするプリンタードライバーは以下のフォルダに収録されています。

D:¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1

Windows Vista、Windows Server 2008 の場合

1.［スタート］ボタンをクリックし、［コントロールパネル］をクリックします。

2.［ハードウェアとサウンド］をクリックします。

3.［プリンタ］をクリックします。

4.［プリンタのインストール］をクリックします。

5.［プリンタの追加］に従ってインストールします。

INF ファイルを選択します。CD-ROM ドライブが D:¥の場合、インストールするプリンタードライバーは以下のフォルダに収録されています。

D:¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1

Windows 7

1.［スタート］ボタンをクリックし、［デバイスとプリンター］をクリックします。

2.［プリンターの追加］をクリックします。

3.［プリンターの追加］に従ってインストールします。

INF ファイルを選択します。CD-ROM ドライブが D:¥の場合、インストールするプリンタードライバーは以下のフォルダに収録されています。

D:¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1

オプション構成の設定

双方向通信が働いていない場合は、本体オプションの構成をプリンタードライバーに設定してください。

補足

- 本体オプションを設定する方法は、P.60「双方向通信が働かない場合」を参照してください。

双方向通信が働く条件

双方向通信が働いていると、本機にセットされている用紙サイズなどの情報が自動的にパソコンに伝わります。またパソコン側からも本機の状態を確認することができます。双方向通信が働く条件について説明します。

ネットワーク接続の場合

- 標準 TCP/IP ポートが使用されている
- RPCS プリンタードライバーのプロパティ画面で、［ポート］タブにある［双方向サポートを有効にする］にチェックが入っていて、［プリンタプールを有効にする］にチェックが入っていない

標準 TCP/IP ポートを使用しない場合は、以下の条件を満たしている必要があります。

- プロトコルに TCP/IP か IPP（IPP ポート名に IP アドレスを含んでいる）が使用されている
- RPCS プリンタードライバーのプロパティ画面で、［ポート］タブにある［双方向サポートを有効にする］にチェックが入っていて、［プリンタプールを有効にする］にチェックが入っていない

ローカル接続の場合

- パソコンが双方向通信に対応している
- RPCS プリンタードライバーのプロパティ画面で、［ポート］タブにある［双方向サポートを有効にする］にチェックが入っている

上記２つの条件のほかに、以下のいずれかの条件を満たしている必要があります。

- 本機とパソコンが、双方向通信に対応したインターフェースケーブルで接続されている
- 本機とパソコンが、USB インターフェースケーブルで接続されている

1

双方向通信が働かない場合

双方向通信が働かない場合は、手動で本体オプションの構成をプリンタードライバーに設定します。

重要

- **プリンターのプロパティを変更するには、「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**

1. Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。

Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。

Windows Vista、Windows Server 2008 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。[ハードウェアとサウンド] のカテゴリーの中から、[プリンタ] をクリックします。

Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[デバイスとプリンター] をクリックします。

2. 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

Windows Vista、Windows Server 2008 の場合は、プリンターのアイコンを右クリックして [プロパティ] をクリックします。

Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合は、プリンターのアイコンを右クリックして [プリンターのプロパティ] をクリックします。

インストール後最初にプリンターのプロパティを表示する場合、または装着しているオプションを設定していない場合は、オプション設定を促す画面が表示されます。[OK] をクリックします。

3. [オプション構成の変更/給紙トレイ設定] タブをクリックします。

[オプション構成の変更/給紙トレイ設定] タブの項目がグレー表示になっていて選択できないときは、双方向通信が働いています。このときオプションの設定は必要ありません。

4. [オプション選択:] ボックスで、取り付けたオプションにチェックを付けます。

5. SDRAM モジュールを増設した場合は、[トータルメモリー:] で増設後の合計メモリー容量を選択し、[OK] をクリックします。

6. 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、「ファイル」メニューの [印刷設定] をクリックします。

7. [基本] タブの [給紙トレイ:] で設定するトレイを選択し、[原稿サイズ:]・[原稿方向]・[用紙種類:] を正しく設定します。

8. ［OK］をクリックし、プリンターの印刷設定を閉じます。

2. 印刷する

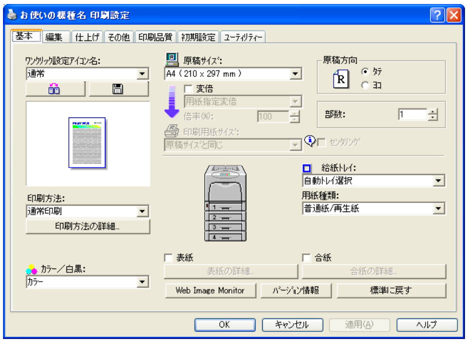
プリンタードライバーの画面と印刷方法について説明します。

2 種類の操作画面

本書では「機能別ウィンドウ」の画面例を使用しています。表示タイプの切り替え方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

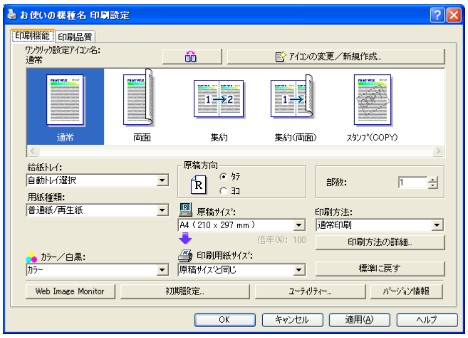
機能別ウィンドウ

印刷のたびに設定を変更することが多く、さまざまな印刷をする方に向いているウィンドウタイプです。



ワンクリック設定

あまり印刷条件を変えず、いつも決まった印刷のしかたをする方に向いているウィンドウタイプです。



ワンクリック設定の表示はオプションの装着状態によって変化することがあります。

プリンタードライバーの設定画面を表示する

プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法には 3 種類あります。

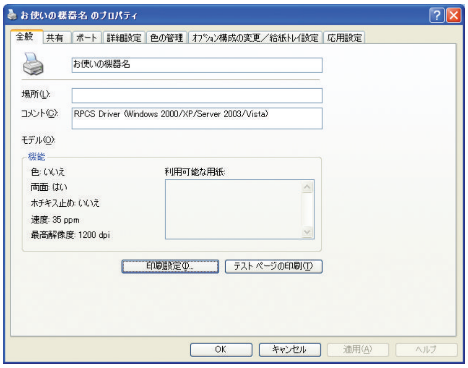
2

プロパティを表示する

［プリンタと FAX］ウィンドウから、プリンタードライバーのプロパティを表示させる方法を説明します。

重要

- **Windows XP Professional/Vista/7 および Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 でご使用の場合、プリンターのプロパティの内容を変更するには「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。内容を変更するときは、Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**
- **プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンタープロパティで行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。**
- **アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。**



1. **［スタート］ボタンをクリックし、［プリンタと FAX］をクリックします。**

2. **初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。**

補足

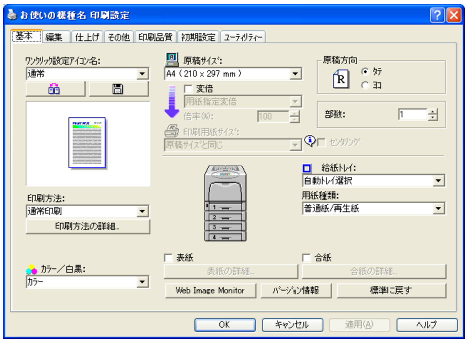
- ここでの設定が、すべてのアプリケーションでの設定の初期値になります。

印刷設定を表示する

重要

- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。
- プリントサーバーから配布されたドライバーの場合は、プリントサーバーで設定された［標準の設定］の内容が初期値として表示されます。

2

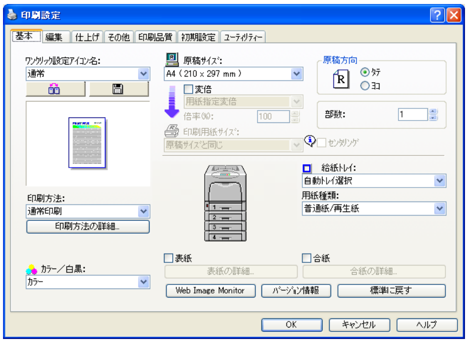


1. ［スタート］ボタンをクリックし、［プリンタと FAX］をクリックします。
2. 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［印刷設定］をクリックします。

補足

- ここでの設定が、すべてのアプリケーションでの設定の初期値になります。

アプリケーションから印刷設定を表示する



［プリンタと FAX］ウィンドウから表示させた印刷設定の内容が初期値として表示されますので、アプリケーションからの印刷時は必要な項目を変更して印刷します。

印刷を行うアプリケーションだけに有効な設定をするには、プリンターのプロパティをアプリケーションから表示させて設定します。ここでは Windows XP に付属の「ワードパッド」を例に説明します。

1.［ファイル］メニューの［印刷］をクリックします。

2. 本機を選択し、［詳細設定］をクリックします。

2

補足

- ここでの設定は印刷するアプリケーションでのみ有効な設定です。
- アプリケーションによっては印刷の初期値を変更するものもあります。
- 実際の表示の方法はアプリケーションによって異なります。詳しくは、アプリケーションの説明書やヘルプを参照してください。
- アプリケーションの［印刷］ダイアログから表示したプロパティは、一般ユーザーでも変更することができます。

よく使う印刷

通常印刷、両面印刷、集約印刷、スタンプ印刷のしかたについて説明します。

ここで説明するそれぞれの機能は、「ワンクリック設定」と呼ばれる 1 つの設定にあらかじめ登録されています。ワンクリック設定の設定値を変更するだけで、これらの機能を適用することもできます。

2

補足

- ワンクリック設定については、P.79「ワンクリック設定を使用する」を参照してください。

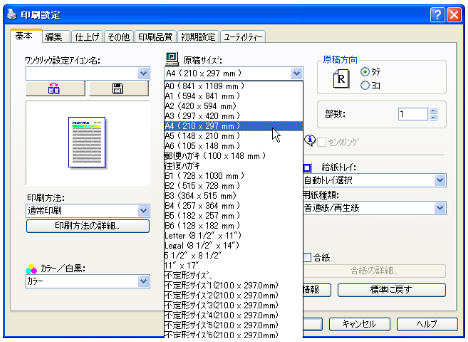
通常印刷する

重要

- **印刷する前に、本機に取り付けたオプションとセットした用紙の情報を必ず設定してください。**

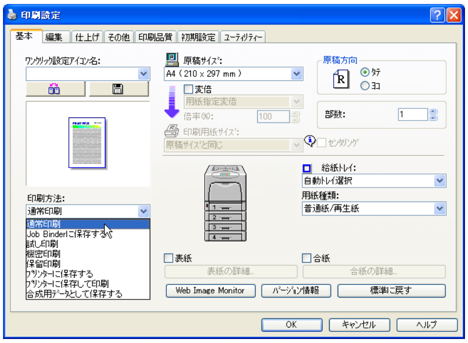
1. アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。

2. ［基本］タブの［原稿サイズ：］プルダウンメニューから、印刷する原稿のサイズを選択します。



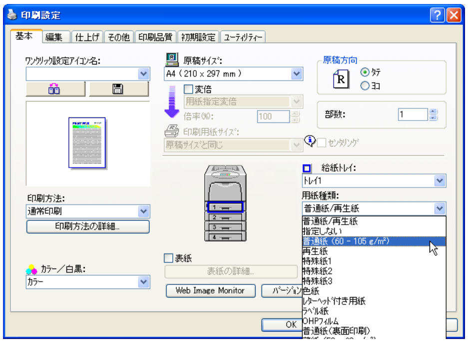
3. 印刷する原稿の向きを［原稿方向］の［タテ］または［ヨコ］から選択します。

4. ［印刷方法：］プルダウンメニューから［通常印刷］を選択します。



複数の部数を印刷する場合は、［部数：］ボックスに部数を入力します。

5. ［給紙トレイ：］、［用紙種類：］プルダウンメニューから、印刷に使用する給紙トレイと、指定した給紙トレイにセットされている用紙種類を選択します。



［自動トレイ選択］を選択した場合は、用紙サイズと用紙種類に応じて給紙トレイが自動的に選択されます。

6. ［OK］をクリックします。

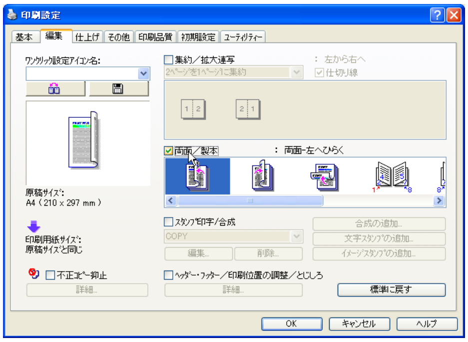
7. アプリケーションから印刷の指示を出します。

補足

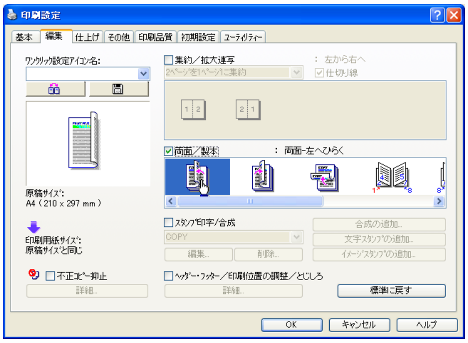
- 本機の給紙トレイにセットされている用紙の種類は、［用紙設定］の［用紙種類］で確認できます。
- プリンタードライバーで選択できる用紙種類の設定値と、本機の画面での用紙種類表示は異なる場合があります。プリンタードライバーで用紙の種類を選択するときは、どのトレイにどの種類の用紙がセットされているかも確認してください。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は P.110「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

両面印刷する

1. アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。
2. ［編集］タブをクリックします。
3. ［両面／製本］にチェックを付けます。



4. 用紙のひらきかたをアイコンの中から選択します。



とじしろを付ける場合は［ヘッダー・フッター／印刷位置の調整／とじしろ］にチェックを付け、［詳細...］をクリックして［両面印刷時のとじしろ］を設定します。

5. その他の印刷の設定を必要に応じて指定し、［OK］をクリックします。
6. アプリケーションから印刷の指示を出します。

補足

- 1 つの文書内に原稿サイズの異なるページがある場合、そのページの前で改ページすることがあります。

両面印刷可能な用紙サイズ、用紙種類

両面印刷可能な用紙サイズ

- A4

2

- A5▯
- A6▯
- B5▯
- B6▯
- $8^1/_2$×14▯
- $8^1/_2$×11▯
- $5^1/_2$×$8^1/_2$▯

両面印刷可能な用紙種類

- 普通紙
- 厚紙 1
- レターヘッド付き用紙
- 特殊紙 1
- 特殊紙 2
- 特殊紙 3
- 光沢紙
- 色紙
- 再生紙

補足

- 不定形サイズは両面印刷に対応していません。

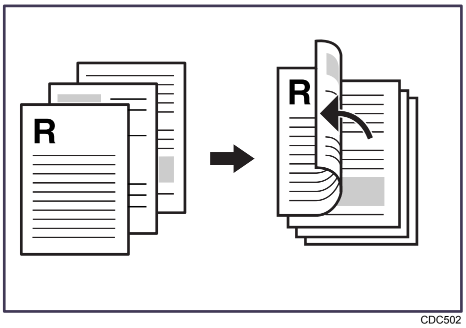
両面印刷の種類

両面印刷で指定できる用紙のひらきかたについて説明します。

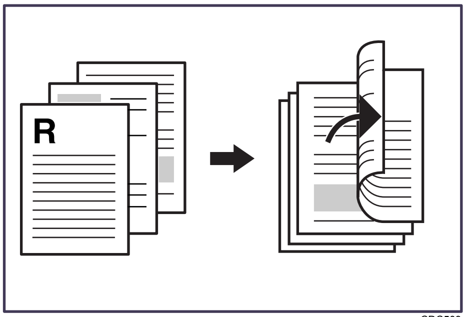
設定できる用紙のひらきかたは、用紙の一辺でとじる形態と、用紙の中央でとじる形態があります。

用紙の一辺でとじる形態

- 両面（左へひらく）

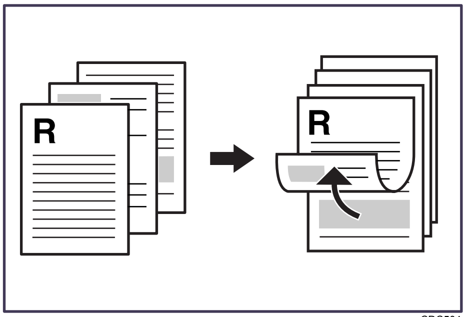


- 両面（右へひらく）



CDC503

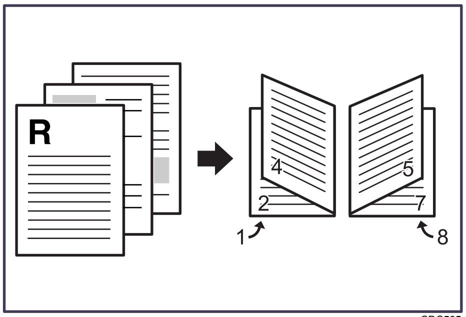
- 両面（上へひらく）



CDC504

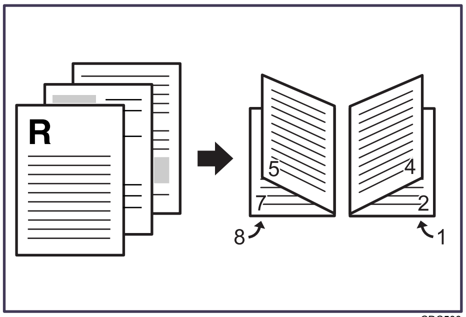
用紙の中央でとじる形態

- ミニ本（左へひらく）



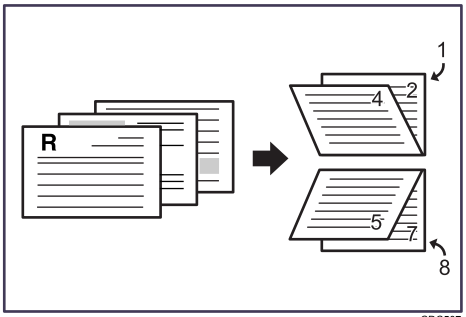
CDC505

- ミニ本（右へひらく）



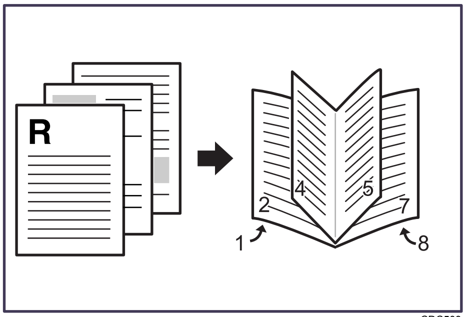
CDC506

- ミニ本（上へひらく）



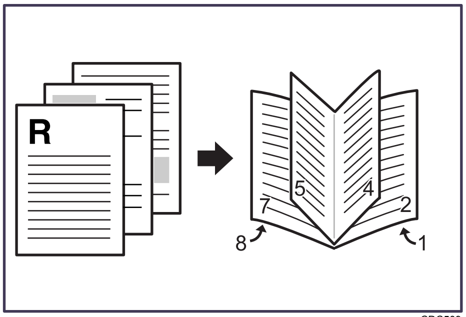
CDC507

- 週刊誌（左へひらく）



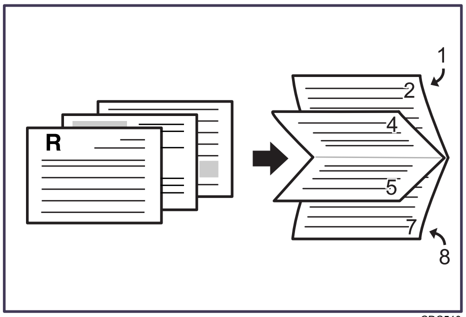
CDC508

- 週刊誌（右へひらく）



CDC509

- 週刊誌（上へひらく）



CDC510

補足

- ミニ本（左へひらく）、ミニ本（右へひらく）、週刊誌（左へひらく）、週刊誌（右へひらく）は原稿方向が［タテ］の場合のみ指定できます。
- ミニ本（上へひらく）、週刊誌（上へひらく）は原稿方向が［ヨコ］の場合のみ指定できます。

複数のページを集約して印刷する

集約を設定すると、複数のページを縮小して 1 ページにまとめて印刷することができます。

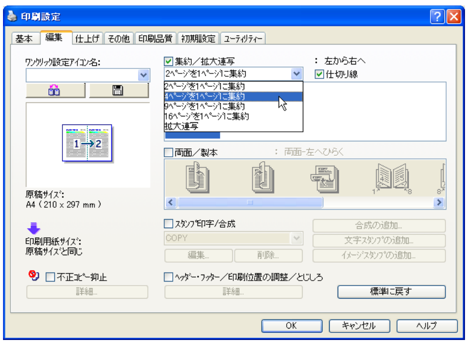
重要

- **不定形サイズの用紙には集約を設定することができません。定形サイズの用紙を使用してください。**

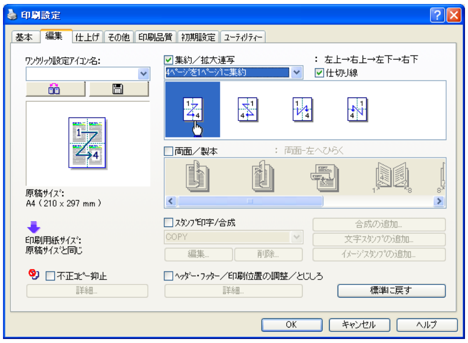
1. **アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。**

2. **［編集］タブをクリックします。**

3. **［集約／拡大連写］にチェックを付け、プルダウンメニューから集約の種類を選択します。**



4. ページの並べ方をアイコンの中から選択します。



5. その他の印刷の設定を必要に応じて指定し、[OK] をクリックします。

6. アプリケーションから印刷の指示を出します。

補足

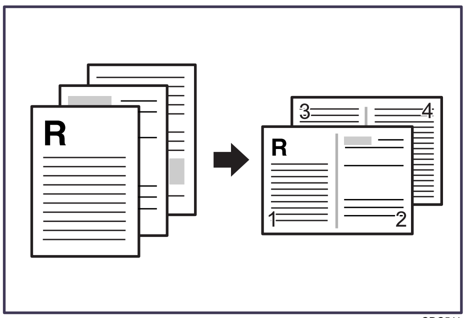
- 1 つの文書内に原稿方向の異なるページがある場合は、そのページの前で改ページします。
- 同じ機能を設定できるアプリケーションから印刷する場合は、アプリケーション側では機能を設定しないでください。アプリケーション側の設定を有効にして印刷すると、意図しない印刷結果になることがあります。
- 縦横が混在する原稿を集約する場合など、詳しくはプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

集約印刷の種類

集約印刷で 1 ページにまとめることができるのは、2 ページ、4 ページ、9 ページ、16 ページです。ページの並べ方は最大 4 つのパターンの中から任意に選択することができます。

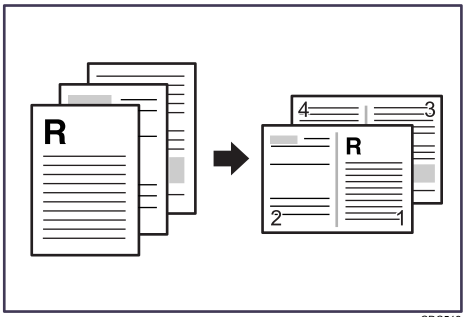
2 ページを 1 ページに集約

- 左から右へ



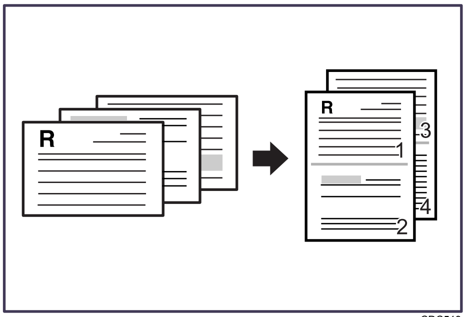
CDC511

- 右から左へ



CDC512

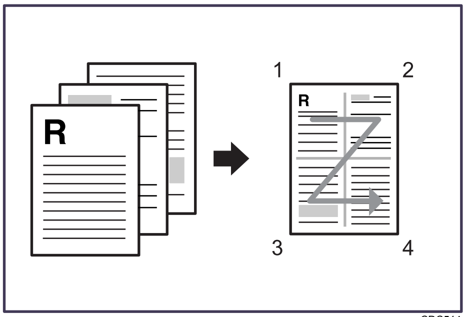
- 上から下へ



CDC513

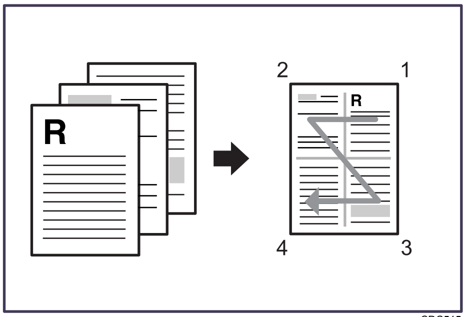
4 ページを 1 ページに集約

- 左上→右上→左下→右下



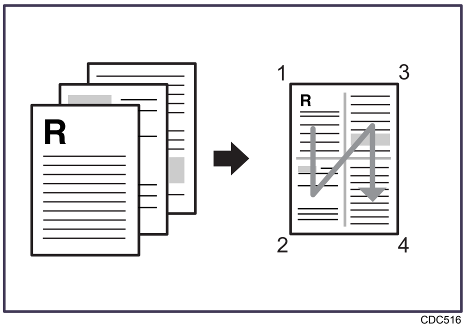
CDC514

- 右上→左上→右下→左下

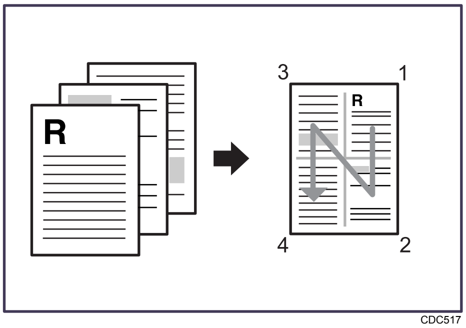


CDC515

- 左上→左下→右上→右下



- 右上→右下→左上→左下



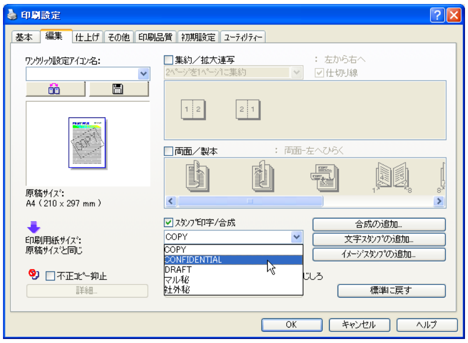
原稿にイメージや文字をスタンプする

スタンプを設定すると、作成した文書にイメージデータや文字を重ねて印刷することができます。

スタンプには、ビットマップファイル（.bmp）を使った「イメージスタンプ」と、文字データを使った「文字スタンプ」があります。一度に指定できるスタンプはどちらかのみです。

1. アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。
2. ［編集］タブをクリックします。

3. ［スタンプ印字／合成］にチェックを付け、プルダウンメニューからスタンプの種類を選択します。



4. その他の印刷の設定を必要に応じて指定し、［OK］をクリックします。

5. アプリケーションから印刷の指示を出します。

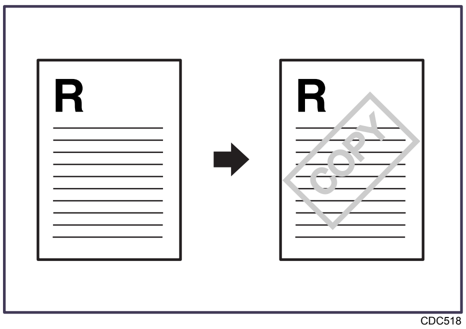
補足

- あらかじめ用意されているスタンプのほかにも、任意にスタンプを作成し、使用することができます。
- スタンプの作成・編集方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

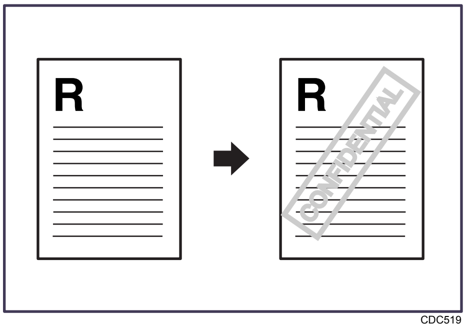
スタンプの種類

本機のプリンタードライバーにはいくつかの文字スタンプがあらかじめ登録されています。利用できるスタンプの種類は次のとおりです。

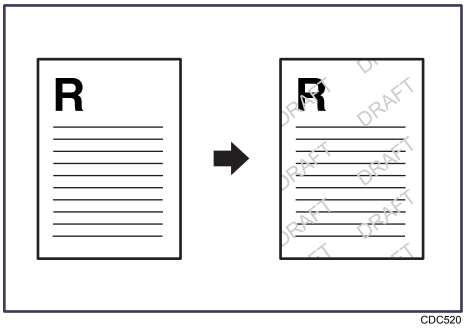
- COPY



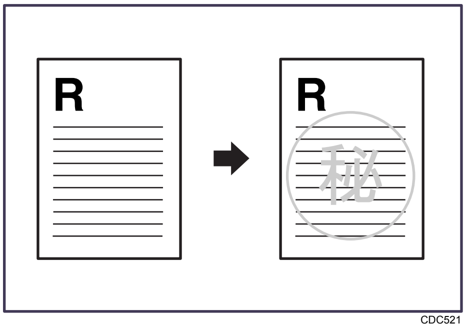
- CONFIDENTIAL



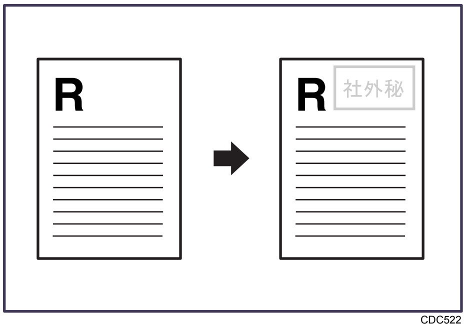
- DRAFT



- マル秘



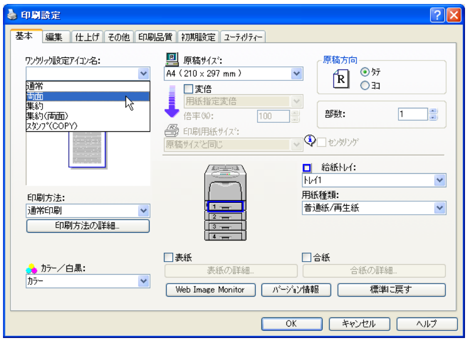
- 社外秘



ワンクリック設定を使用する

「よく使う印刷」のそれぞれの機能は、[基本] タブの「ワンクリック設定」にあらかじめ登録されています。メニューから設定名を選択するだけで、両面印刷や集約印刷などを指定することができます。

ワンクリック設定を使用するには、[ワンクリック設定アイコン名：] から、適用したい設定名をクリックします。



設定名を選択するだけで登録されている設定内容が反映されるため、印刷するときに何箇所も設定を変更したり、誤って設定して無駄な印刷をしてしまうミスを防ぐことができます。

ワンクリック設定は任意に追加、変更、削除することができます。また、複数のメンバーで同じワンクリック設定を共有して使用することもできます。プリンタードライバーに関する特別な知識がなくても、登録したワンクリック設定を使うだけで、さまざまな機能を活用することができます。

ワンクリック設定の登録や削除、変更については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

便利な機能

表紙用の用紙への印刷、合紙の挿入、またはソートなどの、便利な印刷機能について説明します。

「よく使う印刷」で使用する機能のほかにも、各タブから印刷に関する機能を設定することができます。

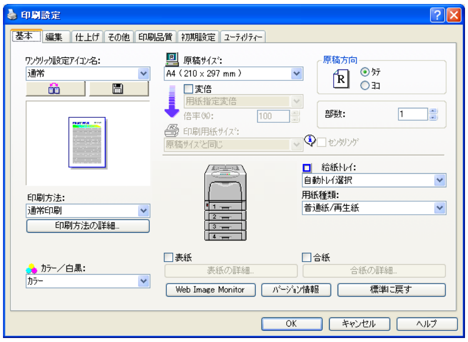
プリンタードライバーのタブについて

[基本]、[仕上げ]、[その他] タブから、便利な印刷機能を設定することができます。ここで説明するそれぞれの機能は、次のタブから設定することができます。

2

[基本] タブ

用紙サイズや用紙種類、給紙トレイに関する設定のほかに、表紙や合紙について設定することができます。



- 表紙

  表紙用の用紙に印刷します。または、1 ページ目の前に表紙用の用紙を挿入します。

  表紙には両面印刷することもできます。

  この機能の説明については P.81「表紙を印刷する」を参照してください。

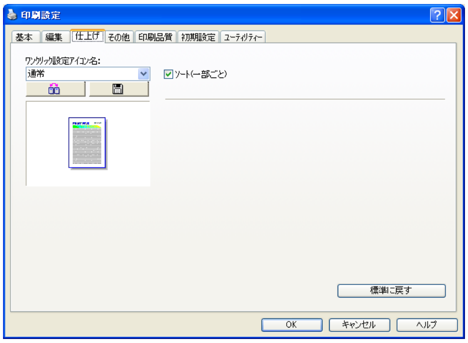
- 合紙

  ページごとに合紙を挿入します。

  この機能の説明については P.82「合紙を挿入する」を参照してください。

[仕上げ] タブ

ソートついて設定することができます。



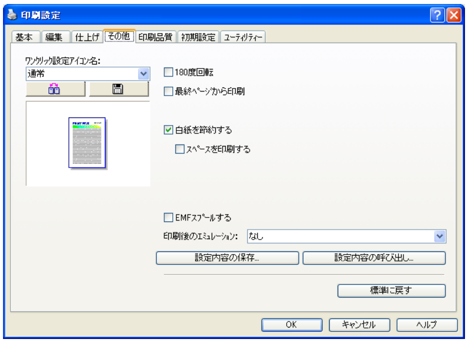
- ソート

  会議資料など複数部数の印刷をする場合、ページ順に仕分けして印刷できます。

  この機能の説明については P.83「部単位で印刷する（ソート）」を参照してください。

[その他] タブ

スプール方式やその他の印刷オプションを設定することができます。



- EMF スプール印刷

  チェックを付けると、スプール方式を EMF に設定します。印刷処理から解放されるまでの時間が短くなります。正しく印刷できない場合、スプール方式を変更すると印刷できることがあります。

補足

- 印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

表紙を印刷する

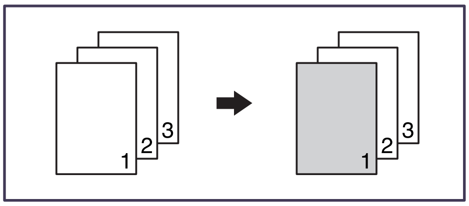
表紙用の用紙に印刷します。または、1 ページ目の前に表紙用の用紙を挿入します。

重要

- **ソートの設定が必要です。**
- **表紙用の用紙は印刷する用紙と同じサイズのものを同じ方向にセットします。**

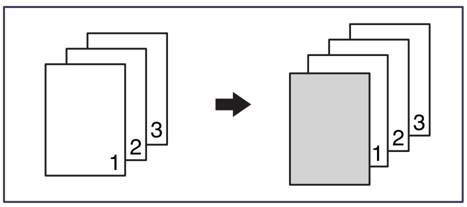
片面印刷の場合

- 表紙用の用紙に印刷するとき



CDC523

- 表紙用の用紙に印刷しないとき



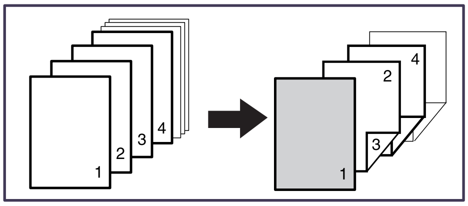
CDC524

2

両面印刷の場合

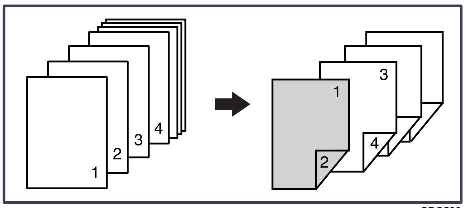
1 ページ目の原稿と最終ページの原稿を、表紙用の用紙に印刷します。

- 表紙用の用紙に片面印刷するとき



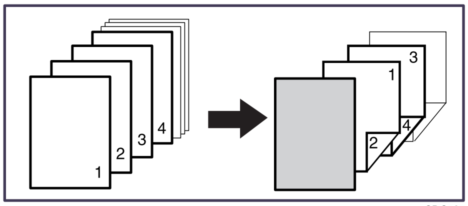
CDC525

- 表紙用の用紙に両面印刷するとき



CDC526

- 表紙用の用紙に印刷しないとき



CDC527

補足

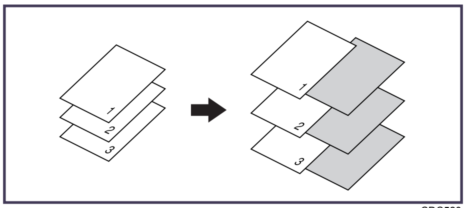
- 印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

合紙を挿入する

ページごとに合紙を挿入します。

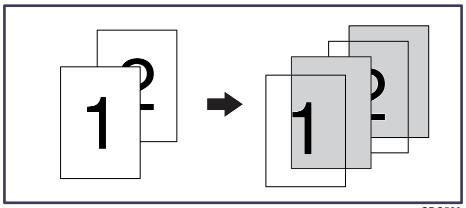
重要

- **両面印刷、表紙が指定されているときは、合紙の挿入はできません。**



CDC528

2



CDC529

補足

- 合紙用の用紙は、印刷する用紙と同じサイズのものを同じ方向にセットします。

部単位で印刷する（ソート）

会議資料など複数部数の印刷をする場合、ページ順に仕分けして印刷できます。この機能を「ソート」といいます。ソートは、パソコンから送信されてきたデータをメモリーに読み込むことによって行います。

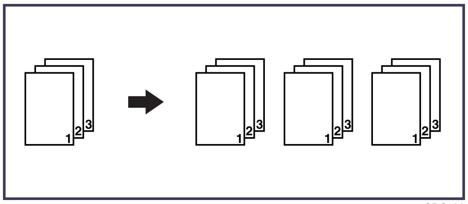
重要

- **ソート可能なページ数は、RAM による場合は最大 150 ページ、拡張 HDD を増設した場合は最大 1,000 ページです。**
- **1 部目でエラースキップや強制印刷が発生した場合は、ソートは解除されます。**

ソートの種類について

- ソート

  1 部ずつそろえて印刷します。



CDC530

補足

- プリンタードライバーでソートの設定をするときは、アプリケーションのソート（部単位印刷設定）が無効になっていることを確認してください。アプリケーションのソート設定を有効にして印刷をすると、意図しない印刷結果になることがあります。
- 印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

スプール印刷をする

スプール印刷とは、パソコンから転送される印刷ジョブを一時的に本機に蓄積して印刷する機能です。スプール印刷をすると、大容量のデータのとき、パソコンが早く印刷処理から開放されます。

2

重要

- **スプール印刷を行うには、拡張 HDD が必要です。**
- **スプール印刷中は、拡張 HDD へのアクセスが行われ、データインランプが点滅します。スプール印刷中に本機やパソコンの電源を切ると、拡張 HDD が破損するおそれがあります。スプール印刷中は本機やパソコンの電源を切らないでください。**
- **BMLinkS、diprint、ftp、IPP、LPR、SMB（TCP/IP（IPv4））、sftp、WSD（Printer）以外のプロトコルで受信したデータは、スプール印刷できません。**
- **本機の操作部の画面にはスプールジョブの一覧は表示されません。**

スプール印刷を設定する

Web ブラウザーと telnet で設定できます。

- Web ブラウザーの場合

  詳しくは、P.207「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

- telnet の場合

  「spoolsw spool on」で設定します。詳しくは、『Linux/Unix をお使いの方へ』を参照してください。

Web ブラウザーからスプールジョブを閲覧・削除する

Web ブラウザーを起動し、URL としてプリンターの IP アドレスを指定すると、Web Image Monitor のトップページが表示されます。

補足

- 一度に最大 150 ジョブまでスプールできます。
- スプール印刷をすると、1 ページ目の印刷開始は遅くなります。
- プリンターに蓄積されたスプールジョブは、Web ブラウザーから閲覧・削除することができます。詳しくは、P.207「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- スプール印刷の指定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

デジタルペンソリューション

アノト方式デジタルペンソリューションとは

ペンで紙に書いた文字や図形を、スキャナーなど読取装置を使用することなく、そのままデジタル化する機能です。

アノト社が開発した「デジタルペン」と呼ばれる赤外線カメラを搭載したボールペンで、「アノトパターン」と呼ばれる特殊な微細模様が印刷されたアノト用紙に文字や図形を記入すると、それをそのままデジタル化します。

使用するものが紙とペンなので、誰でも簡単に使用でき、筆跡や記入時刻を記録できるため、セキュリティーの向上にもつながります。

「アノトパターン」を含むアノト用紙を印刷するには、高精細で安定した印刷品質が求められます。本機は、アノト社が制定している「Anoto Qualified Printer」精度に基づく認定を取得しています。

アノト用紙を作成する

重要

- **アノト用紙を作成するには、オプションの PS3 カードと PostScript 3 ドライバーのインストールが必要です。PostScript 3 ドライバーのインストール方法は、『PostScript 3 編』を参照してください。**
- **アノト用紙を作成するには、必ず操作部または PostScript 3 ドライバーで［グレー印刷方式］を設定してください。［グレー印刷方式］の設定は、操作部での設定よりも、PostScript 3 ドライバーでの設定が優先されます。PostScript 3 ドライバーで［グレー印刷方式］を設定した場合は、操作部での設定は必要ありません。**

アノトパターンを印刷する

1. アプリケーションでアノトパターンを作成し、［ファイル］メニューの［印刷］をクリックします。
2. ［プリンタ名］を確認し、［詳細設定］をクリックします。
3. ［色］タブをクリックします。
4. ［カラー詳細設定...］をクリックします。
5. ［グレー印刷方式：］から［CMYK4 色で印刷］を選択し、［OK］をクリックします。

6. その他、用紙サイズなど、必要な項目を設定します。

詳細はドライバーヘルプを参照してください。

7. 印刷を実行します。

操作部でアノトパターンの印刷方式を設定する

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

2.［▼］［▲］キーを押して［印刷設定］を選択し、［OK］キーを押します。

3.［▼］［▲］キーを押して［PS 設定］を選択し、［OK］キーを押します。

4.［▼］［▲］キーを押して［グレー印刷方式］を選択し、［OK］キーを押します。

5.［▼］［▲］キーを押して［CMYK4 色で印刷］を選択し、［OK］キーを押します。

6.［メニュー］キーを押します。

補足

- ［グレー印刷方式］は Web Image Monitor でも設定できます。詳細は P.207「Web ブラウザーを使う」や Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

PDF ファイルを直接印刷する

PDF ファイルを開くアプリケーションを起動することなく、PDF ファイルを本機に直接送信して印刷することができます。

PDF ファイルを直接印刷するには、Ridoc Desk Navigator Lt から印刷する方法と、コマンドを使って印刷する方法があります。

重要

- **この機能は、オプションの PS3 カードまたは PDF ダイレクトプリントカードを装着しているときに使用できます。**
- **Adobe 純正の PDF のみ可能です。**
- **対応している PDF ファイルのバージョンは、1.2 ～ 1.6 です。**
- **PDF バージョン 1.5 の固有機能である Crypt Filter や、8 コンポーネントを超える DeviceN のカラースペースには対応していません。**
- **PDF バージョン 1.6 の固有機能であるウォーターマーク注釈や、バージョン 1.6 で機能拡張されたオプショナルコンテンツには対応していません。**

補足

- 不定形サイズの用紙に印刷する場合は、用紙サイズエラーが発生することがあります。

Ridoc Desk Navigator Lt を使用する

個人文書管理ソフト Ridoc Desk Navigator Lt に PDF ファイルを登録し、PDF ファイルを直接本機に送って印刷することができます。

PDF ダイレクトプリントの印刷条件は、PDF ダイレクトプリントのプロパティで設定できます。

Ridoc Desk Navigator Lt はリコーのホームページからダウンロードできます。詳しくは、P.246「ソフトウェアのダウンロードについて」を参照してください。

重要

- **Job Binder と連携して文書を印刷、編集するには、ご使用のパソコンに RPCS プリンタードライバーがインストールされている必要があります。**

補足

- 操作方法の詳細は、Ridoc Desk Navigator Lt のヘルプを参照してください。

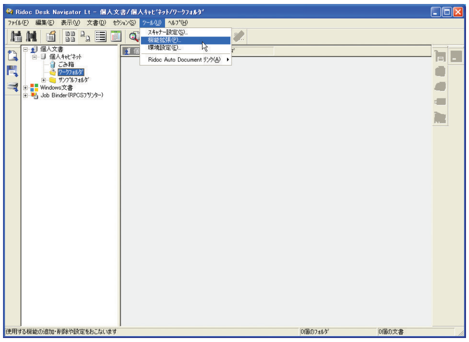
Ridoc Desk Navigator Lt の機能拡張について

Ridoc Desk Navigator Lt では、文書の入力、出力、接続、ツールに関する機能を拡張することができます。PDF ファイルを直接印刷するには、機能拡張から直接印刷の機能を追加してください。

1. Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］、［RICOH Ridoc Desk Navigator］、［Ridoc Desk Navigator］をクリックします。

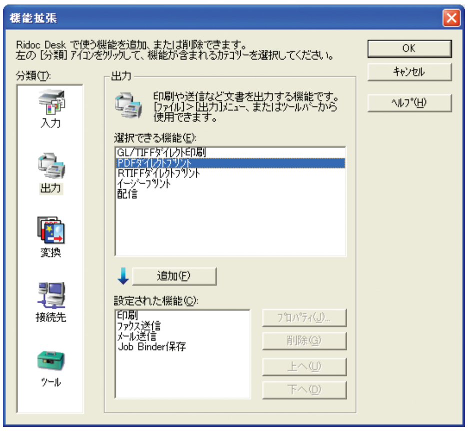
［機能拡張ウィザード］が起動した場合は［終了］をクリックしてください。

2.［ツール］メニューから［機能拡張］をクリックします。



3.［分類］のカテゴリーから［出力］を選択します。

4.［選択できる機能］の欄から拡張したい機能を選択し、［追加］をクリックします。



PDF ダイレクトプリントについては、P.87「PDF ファイルを直接印刷する」を参照してください。

5. 追加する機能によってはプロパティが表示されます。[OK] をクリックします。

PDF ダイレクトプリントを追加するとプロパティが表示されます。[プリンタ名] から使用する機器を選択し、[OK] をクリックします。

6. [設定された機能] の欄に追加した機能が表示されます。

7. 拡張する機能の設定が終了したら [OK] をクリックします。

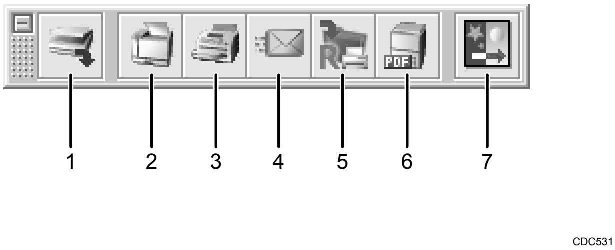
8. Ridoc Desk Navigator Lt を終了します。

補足

- PDF ダイレクトプリントを使用するには、オプションの PS3 カードまたは PDF ダイレクトプリントカードが必要です。

Ridoc Function パレットについて

Ridoc Function パレットとは、Ridoc Desk Navigator Lt の機能拡張で設定した機能をボタン化したものです。Ridoc Desk Navigator Lt を起動することなく、Windows ファイルの印刷、印刷プレビュー、画像変換、文書のスキャナー登録などができます。また、これらの機能はパレットのボタンに対象ファイルをドラッグ＆ドロップするだけで使用することもできます。



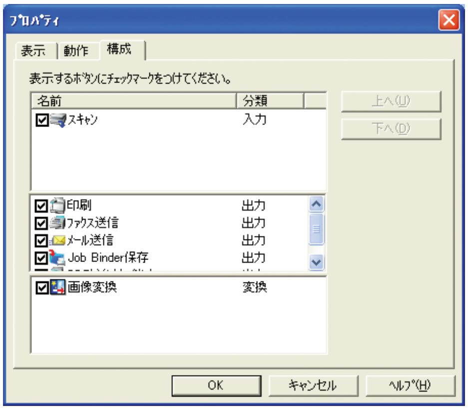
1. スキャン（本機のみの環境では使用できません）
2. 印刷
3. ファクス送信（本機のみの環境では使用できません）
4. メール送信（本機のみの環境では使用できません）
5. JobBinder 保存（本機のみの環境では使用できません）
6. PDF ダイレクトプリント
7. 画像変換

機能拡張を設定した場合は、Ridoc Function パレットに自動でボタン表示されます。設定した機能のボタンが表示されない場合や、ボタンを非表示にする場合は以下の操作を行ってください。

1. Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］、［RICOH Ridoc Desk Navigator］、［Ridoc Function パレット］をクリックします。
2. 右下のタスクトレイに表示された Ridoc Function パレットを右クリックし、［プロパティ...］をクリックします。



3. ［構成］タブをクリックし、ボタン表示させる機能にはチェックボックスにマークを付け、ボタン表示させない機能にはチェックボックスのマークを外します。

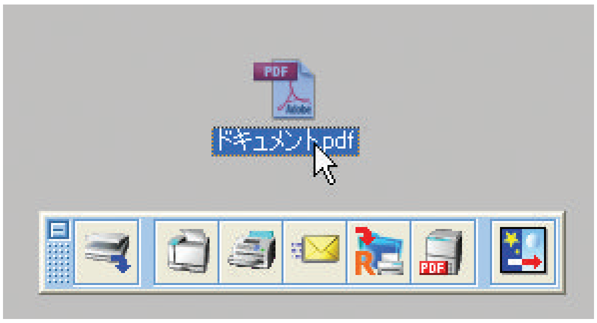


4. ［OK］をクリックし、プロパティを閉じます。

Ridoc Function パレットを使って PDF ファイルを直接印刷する

Ridoc Desk Navigator Lt を起動することなく、Ridoc Function パレットから PDF ファイルを印刷する方法について説明します。

1. 印刷したい PDF ファイルを、パレットの PDF ダイレクトプリントのアイコンにドラック＆ドロップします。



2. 出力したい PDF ファイルを選択し、反転させて［OK］をクリックします。

PDF パスワード文書を印刷する

1. Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］、［RICOH Ridoc Desk Navigator］、［Ridoc Desk Navigator］をクリックします。

［機能拡張ウィザード］が起動した場合は［終了］をクリックしてください。

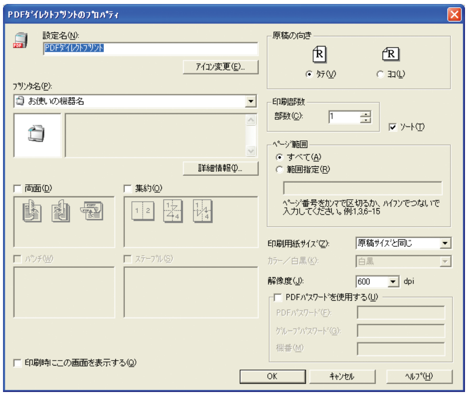
2.［ツール］メニューから［機能拡張］をクリックします。

3.［分類］のカテゴリーから［出力］を選択します。

4.［設定された機能］の欄から、［PDF ダイレクトプリント］を選択し、［プロパティ...］をクリックします。



5. 画面右下の［PDF パスワードを使用する］のチェックボックスにチェックし、［OK］をクリックします。



印刷時にこのプロパティを表示させ、パスワード入力を行う場合は、［印刷時にこの画面を表示する］のチェックボックスにマークを付けます。

6.［OK］をクリックします。

2

7. 印刷したい PDF ファイルを、パレットの PDF ダイレクトプリントのアイコンにドラック＆ドロップします。

8. 出力したい PDF ファイルを選択して反転表示させ、［OK］をクリックします。

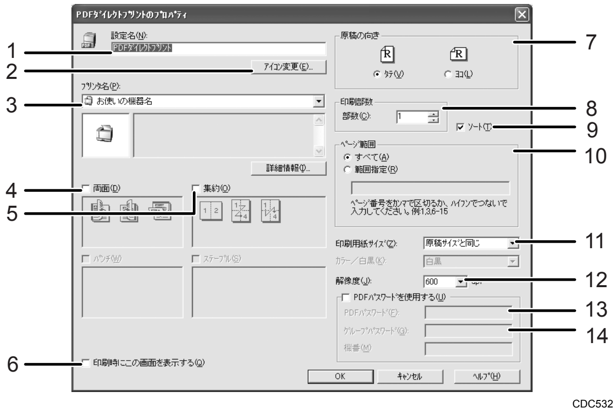
9. 右下の［PDF パスワード］に印刷したい PDF のパスワードを入力し、［OK］をクリックします。

2

補足

- パスワードが設定されている PDF ファイルを印刷する場合、次の 2 つの設定のいずれかが必要です。
  - PDF ダイレクトプリントのプロパティで PDF パスワードを入力します。
  - 本機の［PDF 設定］メニューから、［PDF パスワード変更］で PDF パスワードを設定します。
- Ridoc Desk Navigator Lt、または本機の［PDF 設定］メニューの［PDF グループパスワード］でグループパスワードを設定している場合は、もう一方にも同様のグループパスワードを設定する必要があります。

PDF ダイレクトプリントのプロパティについて



1. 設定名

   プラグインの設定名を表示します（半角英数字 63 文字までです）。

2. アイコン変更

   ツールバーに表示されるアイコンを変更できます。

3. プリンタ名

   PDF ダイレクトプリントに対応した RPCS ドライバー一覧が表示されます。

4. 両面

   両面印刷をする場合は、ここで指定します。

5. 集約

集約印刷する場合は、ここで指定します。

6. 印刷時にこの画面を表示する

   チェックをつけた場合は、PDF ダイレクト印刷時にこの画面が表示されます。

7. 原稿の向き

   印刷する原稿の向きを指定します。

8. 印刷部数

   印刷部数を指定します。

9. ソート

   ソート印刷をする場合は、ここで指定します。

10. ページ範囲

    印刷する範囲をページ指定します。

11. 印刷用紙サイズ

    印刷する用紙のサイズを選択します。

12. 解像度

    印刷の解像度を選択します。

13. PDF パスワード

    PDF ファイルがパスワードで保護されている場合は、ここにパスワードを入力します。パスワードを入力しないと、印刷できません。

14. グループパスワード

    本機にグループパスワードが設定されている場合は、ここにグループパスワードを入力します。本機に設定されているグループパスワードと、ここで設定したグループパスワードが一致しない場合は印刷できません。

コマンドを使用して印刷する

PDF ファイルを本機に送信して直接印刷するには、lpr コマンドを使用します。

補足

- 直接印刷や lpr コマンドについて、詳しくは『Linux/Unix をお使いの方へ』を参照してください。

PDF ファイルを送信する

lpr コマンドで PDF ファイルを送信する方法について説明します。

lpr コマンドでは、プリンターの IP アドレスのほか、PDF ファイル名を指定します。書式は次のとおりです。

C:¥>lpr -S プリンターの **IP** アドレス（またはホスト名） **-P** プリンター名 ¥パス¥ファイル名

PDF パスワードを設定する

パスワード保護された PDF ファイルを直接印刷する方法について説明します。

パスワード保護された PDF ファイルを直接印刷するには、操作部または Web Image Monitor のいずれかでパスワードを指定します。

操作部を使う

操作部を使用して PDF パスワードを設定するには、［印刷設定］の［PDF 設定］で［PDF パスワード］を設定します。

Web Image Monitor を使う

Web Image Monitor を使用して PDF パスワードを設定するには、［設定］の［PDF 一時パスワード］を設定します。

文書の複製を抑止する

本機では、不正コピー抑止用の地紋と文字列を埋め込んで印刷することができます。不正コピー抑止印刷には、「不正コピーガード機能」と「マスクパターン」があります。

重要

- **不正コピー抑止印刷は、必ずしも情報漏洩を防止するものではありません。**
- **不正コピーガード機能は、トナーセーブモードには対応していません。**

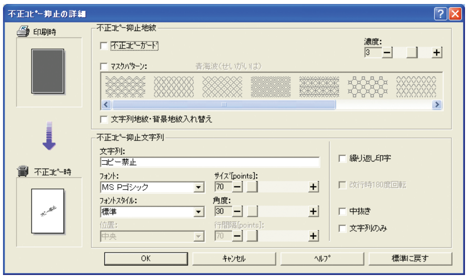
2

不正コピー抑止の詳細ウィンドウを表示する

1. **プリンタードライバーの印刷設定を開き、[編集]タブをクリックします。**
2. **[不正コピー抑止]のチェックボックスにチェックし、[詳細...]をクリックします。**

不正コピーガード機能

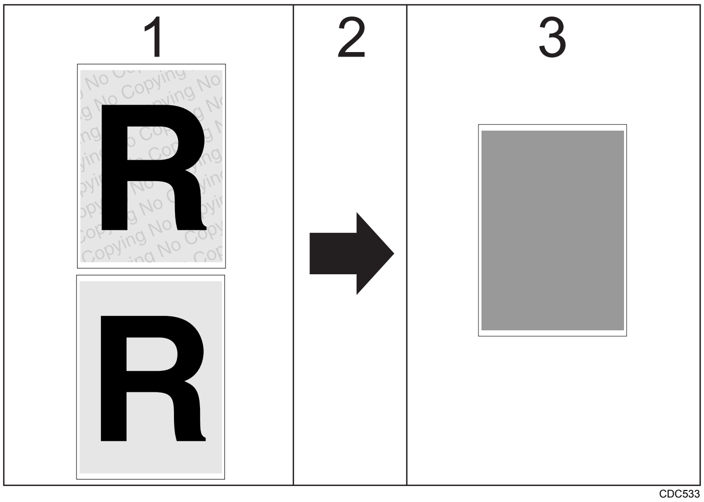
プリンタードライバーで不正コピーガード用の地紋を埋め込んで、印刷することができます。



必要な設定項目

- [不正コピーガード]のチェックボックスにチェックを入れます。[文字列]に、不正コピー抑止文字列を入力することもできます。
- [マスクパターン]を選択することはできません。
- 不正コピーガードでグレー地に印刷するには、本機側での設定もあわせて必要です。設定方法については、管理者に確認してください。

不正コピーガードを設定した文書を印刷すると



1. 不正コピーガードを設定すると、不正コピーガード用の地紋および不正コピー抑止文字列が埋め込まれて印刷されます。
2. 当社の不正コピーガードモジュールが搭載された複写機／複合機を使って、コピーを行います。
3. 文書内の文字や画像が、グレー地に変換されます。

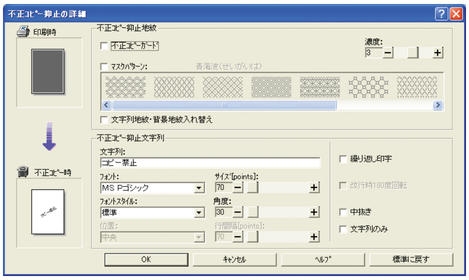
補足

- RPCS プリンタードライバーにのみ対応しています。
- 印刷するデータに対して、部分的に地紋を埋め込むことはできません。
- 用紙サイズは B5 以上をご使用ください。
- 用紙種類は普通紙、または白色度 70%以上の再生紙をご使用ください。
- 両面印刷は可能ですが、裏面の文字や模様が透けることにより、機能が正常に動作しないことがあります。
- 地紋と文字列を埋め込んで印刷すると、通常の印刷時よりも出力に時間がかかります。
- 「不正コピー抑止の詳細」画面の設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- 不正コピーガードモジュールは当社の複合機／複写機用のオプションです。本機には装着できません。

マスクパターン

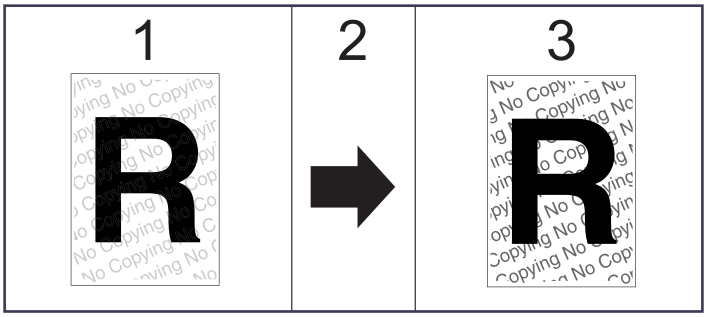
プリンタードライバーで不正コピー抑止地紋と不正コピー抑止文字列を設定し、文書に埋め込んで印刷することができます。

必要な設定項目



- ［マスクパターン］で不正コピー抑止地紋を選択し、［文字列］で不正コピー抑止文字列を設定します。
- ［文字列］だけを設定することはできますが、［マスクパターン］だけを設定することはできません。

「不正コピー抑止印刷」を設定した文書を印刷すると



CDC534

1. 不正コピー抑止印刷を設定した文書を印刷すると、設定した不正コピー抑止地紋および不正コピー抑止文字列が表示されます。
2. 本機や他の複写機 / 複合機を使って、コピーやスキャン、ドキュメントボックスへの蓄積を行います。
3. 不正コピー抑止文字列が浮き上がります。

補足

- RPCS プリンタードライバーにのみ対応しています。
- 印刷するデータに対して、部分的に地紋と文字列を埋め込むことはできません。
- 地紋効果は、コピー、スキャン、ドキュメントボックスへの蓄積結果をすべて保証しているものではありません。また蓄積結果は、使用する機種とその設定条件により異なります。
- 地紋と文字列を埋め込んで印刷すると、通常の印刷時よりも出力に時間がかかります。
- 不正コピー抑止印刷のための文字列地紋を効果的に浮き上がらせるために、文字列サイズは 70～80pt（最低 50pt）、文字列角度は 30～ 40 度の範囲内で設定してください。

- 「不正コピー抑止の詳細」の設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

おことわり

2

1. 当社は、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が、常時有効に機能することを保証するものではありません。使用する用紙ならびにコピー機の機種および設定条件等によっては、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が有効に機能しない場合もあります。この点をご理解の上、ご使用ください。
2. 不正コピー抑止地紋および不正コピーガード機能を使用または使用できなかったことにより生じた損害については、当社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。

プリントジョブに分類コードを入力する

分類コードが必須の環境で印刷するときは、プリントジョブに分類コードを指定して印刷します。

重要

- **入力した分類コードはプリンタードライバーに保持されます。**
- **複数の分類コードを切り替えたい場合は、プリンタードライバーを別の名前で複数インストールし、それぞれに個別の分類コードを設定します。**

1. 印刷したいアプリケーションから本機の印刷設定画面を開きます。

2. ［基本］タブから［印刷方法の詳細...］をクリックします。

［印刷方法：］プルダウンメニューで［Job Binder に保存する］を選択した場合、分類コードを入力することはできません。

3. ［分類コード：］ボックスに分類コードを入力します。

分類コードは半角英数字と-（ハイフン）を合計 32 文字まで使用することができます。

4. ［OK］をクリックします。

仮想プリンターを使用する

仮想プリンターとは、ネットワーク上でのみ認識することができる擬似的なプリンターです。仮想プリンターには、印刷に関するさまざまなオプション（給紙トレイの指定や両面印刷の有無など）を設定しておくことができます。また、割り込み印刷を設定することができます。割り込み印刷とは、印刷中や処理中のジョブを一時停止させて、別のジョブを先に印刷することです。この機能を使うには、拡張 HDD が必要です。Unix や Solaris などから印刷するときに仮想プリンターを指定すると、コマンドによる印刷オプションの指示ができない場合でも、さまざまな印刷をすることができます。

仮想プリンターを追加する

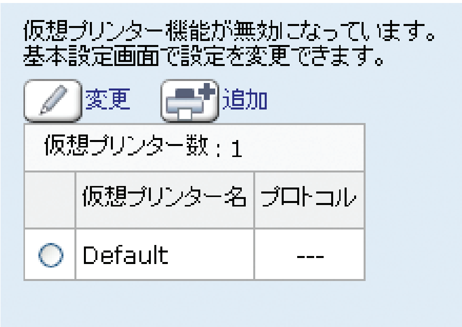
重要

- **仮想プリンターの追加を行うには管理者モードでログインする必要があります。**
- **仮想プリンターで使用可能なプロトコルは、[TCP/IP（指定なし・通常）]、[TCP/IP（指定なし・優先）][TCP/IP（DIPRINT）]、[TCP/IP（RHPP）]、[AppleTalk] です。**

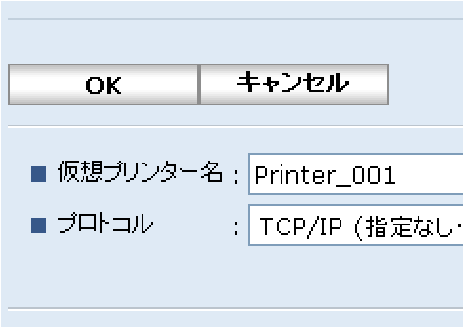
1. Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

ログイン方法については、P.207「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2. 左フレームのメニューから［設定］をクリックし、［プリンター］カテゴリーの中の［仮想プリンター設定］をクリックします。



3. ［追加］をクリックします。



4. ［仮想プリンター名］に任意のプリンター名を入力し、［プロトコル］を選択してください。

5. ［OK］をクリックします。

補足

- ［AppleTalk］は、PS3 カード装着時に表示されます。
- ［プロトコル］で［AppleTalk］を指定した場合、仮想プリンターの名前を任意に設定することはできません。
- 仮想プリンターの名前は、半角英数字と記号で 47 文字まで設定できます。
- 追加できる仮想プリンターの数は 50 個までです。登録されている仮想プリンターが 51 個に達している場合、追加ボタンは表示されません。

仮想プリンターの設定を変更する

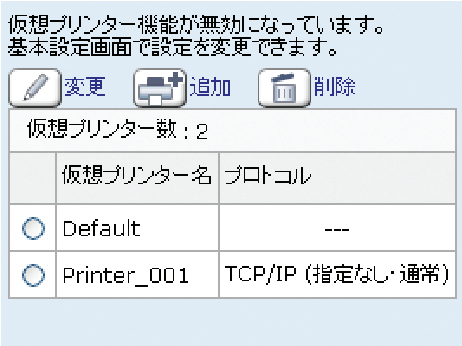
重要

- **仮想プリンターの設定を変更するには管理者モードでログインする必要があります。**

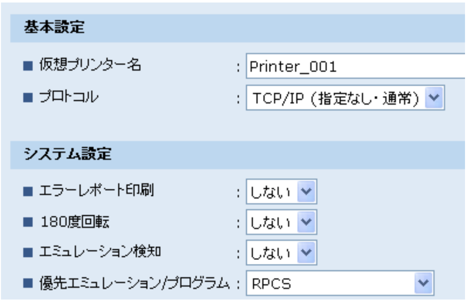
1. Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

ログイン方法については、P.207「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2. 左フレームのメニューから［設定］をクリックし、［プリンター］カテゴリーの中の［仮想プリンター設定］をクリックします。



3. 変更したい仮想プリンターを選択し、［変更］をクリックします。



4. 各項目の設定内容を任意に変更し、［OK］をクリックします。

ここで設定した仮想プリンターを割り込み印刷用の仮想プリンターとして設定する場合は、［プロトコル］で［TCP/IP（指定なし：優先）］を選択します。

補足

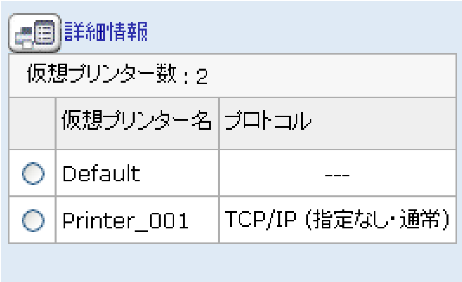
- 設定内容の詳細については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

仮想プリンターの設定内容を確認する

1. Web Image Monitor を起動します。

ログイン方法については、P.207「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2. 左フレームのメニューから［設定］をクリックし、［プリンター］カテゴリーの中の［仮想プリンター設定］をクリックします。



3. 確認したい仮想プリンターを選択し、［詳細情報］をクリックします。

補足

- 管理者モードでログインしている場合、［詳細情報］は表示されません。［変更］で現在の設定内容を確認してください。
- ゲストモードでログインしている場合、仮想プリンター機能が無効になっていると仮想プリンターの一覧は表示されません。仮想プリンターを有効にする方法については、P.104「仮想プリンターで印刷する」を参照してください。

仮想プリンターを削除する

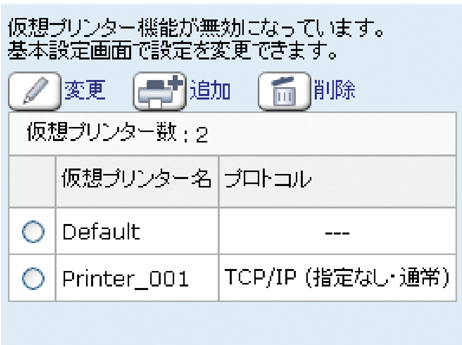
重要

- **仮想プリンターを削除するには管理者モードでログインする必要があります。**

1. Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

ログイン方法については、P.207「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2. 左フレームのメニューから［設定］をクリックし、［プリンター］カテゴリーの中の［仮想プリンター設定］をクリックします。



3. 削除したい仮想プリンターを選択し、［削除］をクリックします。

4. ［OK］をクリックします。

補足

- Default の仮想プリンターは削除できません。
- Default の仮想プリンターしか登録されていない場合、［削除］ボタンは表示されません。

2

仮想プリンターで印刷する

仮想プリンターを使って印刷するには、各コマンドのオプションに［仮想プリンター名］を指定します。割り込み印刷をする場合は、割り込み印刷用に設定した仮想プリンターの名前を指定します。最初に印刷を行う前に、仮想プリンターを［有効］に設定してください。

重要

- **仮想プリンターを有効にするには、管理者モードでログインする必要があります。**

1. **Web Image Monitor に管理者モードでログインします。**

   ログイン方法については、P.207「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2. **左フレームのメニューから［設定］をクリックし、［プリンター］カテゴリーの中の［プリンター基本設定］をクリックします。**
3. **［仮想プリンター］の項目から有効を選択し、［OK］をクリックします。**
4. **パソコンから印刷の指示を出します。**

   lpr の場合

   c:> lpr -S プリンターの IP アドレス（またはホスト名） -P 仮想プリンター名 ¥パス名¥ファイル名

   rcp の場合

   c:> rcp　[-b]　¥パス名¥ファイル名　［¥パス名¥ファイル名...］　プリンターのホスト名:［仮想プリンター名］,

   ftp の場合

   ftp> put　¥パス名¥ファイル名　［仮想プリンター名］

補足

- 現在印刷中のジョブが下記の条件を満たしている場合、割り込み印刷用に設定した仮想プリンターで印刷しても、割り込み印刷できません。現在のジョブの印刷が終了してから割り込んだジョブの処理が開始されます。
  - 手差しトレイから印刷されている場合
  - 現在のジョブが表紙や合紙の機能を使用している場合
- 現在のジョブで大量のメモリーを消費していたり、大量の印刷をしている場合、割り込んだジョブを処理するメモリーが不足したり、すべてのページが印刷できなかった

りします。この場合、蓄積が解除されたり、通常の最大枚数より少ない枚数でソートされる場合があります。

2

メモリー容量と用紙サイズ

本機に搭載されているメモリー容量による、印刷可能な解像度と用紙サイズについて説明します。

補足

- 長尺紙についての詳細については、『ハードウェアガイド』「使用できる用紙の種類とサイズ」を参照してください。

表の見かた

◎ : すべてのデータを印刷可能です。

○ : ほとんどのデータを印刷可能ですが、データの種類によっては印刷できない場合があります。

▲ : 印刷は可能ですが、印刷結果は保証できません。メモリーの増設をお勧めします。

- : 印刷対象外です。

片面印刷（600 dpi × 600dpi）の場合

搭載メモリー		256 MB （標準）		384 MB（標準 + 128 MB）		512 MB（標準 + 256MB）	
優先メモリー		ページメモリー	ユーザーメモリー	ページメモリー	ユーザーメモリー	ページメモリー	ユーザーメモリー
用紙サイズ	Legal (8 $^1/_2$ × 14)	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	A4	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	Letter (8 $^1/_2$ × 11)	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	B5	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	A5	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	不定形	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	長尺	○	○	◎	◎	◎	◎

片面印刷（1200 dpi × 600dpi）の場合

搭載メモリー		256 MB （標準）		384 MB（標準 ＋ 128 MB）		512 MB（標準 ＋ 256MB）	
優先メモリー		ページメモリー	ユーザーメモリー	ページメモリー	ユーザーメモリー	ページメモリー	ユーザーメモリー
用紙サイズ	Legal (8 1/2 × 14)	○	○	◎	◎	◎	◎
	A4	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	Letter (8 1/2 × 11)	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	B5	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	A5	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	不定形	○	○	◎	◎	◎	◎
	長尺	○	○	◎	○	◎	◎

片面印刷（1200 dpi × 1200dpi）の場合

搭載メモリー		256 MB （標準）		384 MB（標準 ＋ 128 MB）		512 MB（標準 ＋ 256MB）	
優先メモリー		ページメモリー	ユーザーメモリー	ページメモリー	ユーザーメモリー	ページメモリー	ユーザーメモリー
用紙サイズ	Legal (8 1/2 × 14)	○	○	◎	◎	◎	◎
	A4	○	○	◎	◎	◎	◎
	Letter (8 1/2 × 11)	○	○	◎	◎	◎	◎
	B5	○	○	◎	◎	◎	◎
	A5	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	不定形	○	○	◎	◎	◎	◎
	長尺	▲	▲	○	○	○	○

両面印刷（600 dpi × 600dpi）の場合

搭載メモリー		256 MB （標準）		384 MB（標準 + 128 MB）		512 MB（標準 + 256MB）	
優先メモリー		ページメモリー	ユーザーメモリー	ページメモリー	ユーザーメモリー	ページメモリー	ユーザーメモリー
用紙サイズ	Legal ($8^1/_2$ × 14)	○	○	◎	◎	◎	◎
	A4	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	Letter ($8^1/_2$ × 11)	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	B5	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	A5	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	不定形	-	-	-	-	-	-
	長尺	-	-	-	-	-	-

両面印刷（1200 dpi × 600dpi）の場合

搭載メモリー		256 MB （標準）		384 MB（標準 + 128 MB）		512 MB（標準 + 256MB）	
優先メモリー		ページメモリー	ユーザーメモリー	ページメモリー	ユーザーメモリー	ページメモリー	ユーザーメモリー
用紙サイズ	Legal ($8^1/_2$ × 14)	○	○	◎	◎	◎	◎
	A4	○	○	◎	◎	◎	◎
	Letter ($8^1/_2$ × 11)	○	○	◎	◎	◎	◎
	B5	○	○	◎	◎	◎	◎
	A5	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	不定形	-	-	-	-	-	-
	長尺	-	-	-	-	-	-

両面印刷（1200 dpi × 1200dpi）の場合

搭載メモリー		256 MB （標準）		384 MB（標準 ＋ 128 MB）		512 MB（標準 ＋ 256MB）	
優先メモリー		ページメモリー	ユーザーメモリー	ページメモリー	ユーザーメモリー	ページメモリー	ユーザーメモリー
用紙サイズ	Legal（$8^1/_2$ × 14）	▲	▲	○	○	○	○
	A4	○	○	○	○	◎	◎
	Letter（$8^1/_2$ × 11）	○	○	○	○	◎	◎
	B5	○	○	◎	○	◎	◎
	A5	○	○	◎	◎	◎	◎
	不定形	-	-	-	-	-	-
	長尺	-	-	-	-	-	-

2

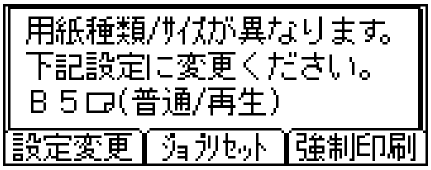
2

用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき

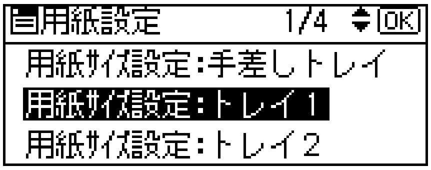
印刷時に指定した用紙サイズ、用紙種類に合致したトレイがないときや手差しトレイから給紙した用紙がジョブの設定と異なる場合は、操作部に警告画面が表示されます。表示された内容に応じて対処してください。

トレイの用紙設定を変更して印刷する

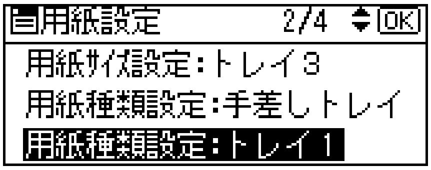
1. 警告画面で［設定変更］を押します。



2. ［▼］［▲］キーを押して用紙サイズを変更したいトレイを選択し、［OK］キーを押します。



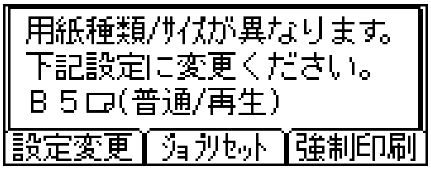
3. ［▼］［▲］キーを押して使用する用紙サイズを選択し、［OK］キーを押します。
4. ［▼］［▲］キーを押して用紙種類を変更したいトレイを選択し、［OK］キーを押します。



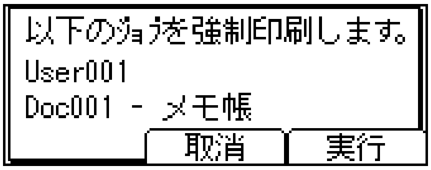
5. ［▼］［▲］キーを押して使用する用紙種類を選択し、［OK］キーを押します。
6. ［戻る］キーを押します。

強制印刷する

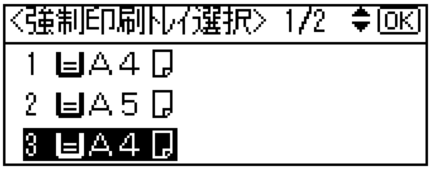
1. 警告画面で［強制印刷］を押します。



2. ［実行］を押します。



3. ［▼］［▲］キーを押して使用するトレイを選択し、［OK］キーを押します。



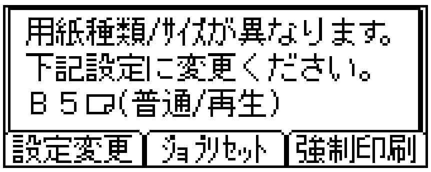
用紙を補給して印刷したいときは、正しい用紙をセットしてからトレイを選んでください。

補足

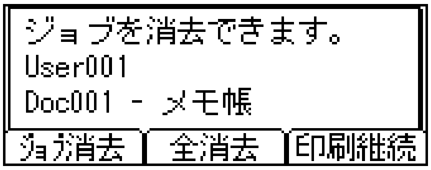
- 用紙サイズが小さいトレイを選択すると、端が切れるなど正しく印刷されないことがあります。
- ソート印刷の 1 部目で強制印刷を実行した場合、1 部のみ指定した給紙トレイから印刷し、ソート印刷は解除されます。
- ソート印刷の 2 部目以降で強制印刷を実行した場合、実行中の部のみ印刷を行います。

印刷を中止する

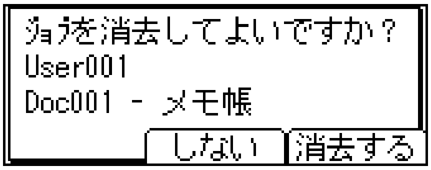
1. 警告画面で［ジョブリセット］を押します。



2. 現在のジョブを中止する場合は、［ジョブ消去］を押します。すべてのジョブを中止する場合は、［全消去］を押します。



3. ［消去する］を押します。



補足

- 印刷を中止したデータが途中から再び印刷される場合は、［インターフェース設定］の［インターフェース切り替え時間］を長くしてください。
- 大容量データの印刷を中止したいときは、［ジョブリセット］を押した後、パソコン側からも印刷を中止することをお勧めします。

3. 本機に蓄積された文書を印刷・削除する

試し印刷、機密印刷、保留文書印刷、保存文書印刷や印刷の中止などの注意事項について説明します。

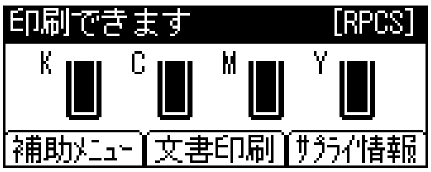
文書印刷機能を使用する

文書印刷機能では、あらかじめプリンタードライバーからの印刷指示で本機の拡張 HDD に蓄積された、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書および保存文書の印刷、または削除ができます。

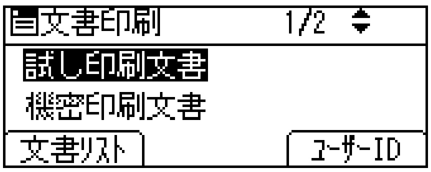
試し印刷文書、機密印刷文書および保留文書は、文書印刷機能で指示された印刷が終了すると蓄積されていた文書は消去されます。保存文書は、印刷が終了しても消去されません。文書印刷機能を使うためには、拡張 HDD が必要です。

文書印刷画面を表示する

本機に拡張 HDD が装着されている場合、電源を入れたときに以下の初期画面が表示されます。



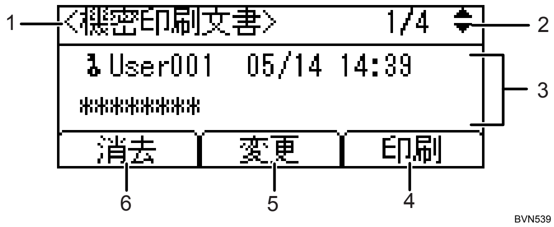
初期画面で［文書印刷］を押すと、文書印刷の種類を選択する画面が表示されます。



文書を選択する画面は、［文書リスト］を押したときに表示される文書一覧画面と、［ユーザー ID］を押したときに表示されるユーザー ID 一覧画面の 2 種類があります。

文書一覧画面

プリンター初期画面で［文書印刷］を押して文書印刷の種類を選択し、［文書リスト］を押すと、次の画面が表示されます。



3

1. **文書印刷機能表示**

   選択した文書印刷の種類を表示します。

2. **画面ページ数表示**

   蓄積されている文書を表示します。[▼][▲]キーを押すごとに選択した種類の印刷文書を1画面ずつ表示します。

3. **ユーザーID／日時／文書名表示**

   - ユーザーIDには、プリンタードライバーで設定したユーザーIDが表示されます。
   - 日時には、パソコンから印刷を指示した時刻が表示されます。
   - 文書名には文書名が表示されますが、機密印刷文書は文書名が「******」と表示されます。

4. **[印刷]**

   選択している文書を印刷します。

5. **[変更]**

   保存文書にパスワードを追加したり、パスワードを設定した文書からパスワードを変更または削除できます。パスワードを変更または削除する場合は、[変更]を押して最初に設定したパスワードを入力した後、新しいパスワードを入力するか、削除する場合は新しいパスワードを入力、確認する画面で何も入力せずに[OK]キーを押します。

   機密印刷文書に対しては、パスワードの変更ができます。

6. **[消去]**

   選択している文書を消去します。

補足

- パスワードの変更、削除に関しては、最初に設定したパスワードを正しく入力してください。パスワードが一致しない場合、パスワードの変更、削除はできません。
- [変更]を押してパスワードを追加、削除する機能は保存文書が本機に蓄積されている場合に使用できます。

ユーザーID一覧画面

プリンター初期画面で[文書印刷]を押して文書印刷の種類を選択し、[ユーザーID]を押すと、次の画面が表示されます。



1. 文書印刷機能表示

選択した文書印刷の種類を表示します。

2. 画面ページ数表示

現在のページ番号を表示します。[▼][▲]キーを押すごとに画面を切り替えます。

3. ユーザー ID

- 選択した種類の文書を蓄積しているユーザーの ID が表示されます。
- プリンタードライバーで設定したユーザー ID が表示されます。

4. [全印刷]

選択した ID のユーザーが蓄積した文書をすべて印刷します。

5. [文書リスト]

文書一覧画面の表示に切り替えます。ここでは、ユーザー ID 画面で選択したユーザーのジョブのみが表示されます。

補足

- 文書一覧やユーザー ID 一覧を表示しているときに新たに文書が蓄積された場合、表示は更新されません。表示を更新するには、いったん[戻る]キーをプリンター画面に戻るまで押してから、もう一度[文書印刷]を押してください。
- 本機に多くの文書を蓄積・保存している場合は、お使いの機能によっては機器の反応が一時的に遅くなることがあります。

3

文書一覧画面から文書を印刷する

試し印刷、機密印刷、保留印刷、保存印刷について説明します。

試し印刷する

複数部数印刷する場合など、最初に 1 部だけ印刷し、その結果を確認した後に操作部を使用して残り部数を印刷できます。いったん本機にデータを蓄積し、操作部を使用して蓄積したデータを印刷することができます。内容や印刷の指定を間違えたときなどに大量のミスプリントを防ぐことができます。

重要

- **以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。エラー履歴の確認方法については、P.204「エラー履歴を確認する」を参照してください。**
  - **拡張 HDD が装着されていない場合**
  - **本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）**
  - **1 文書あたり 1,000 ページを超える文書**
  - **送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）**

1 部目を印刷する

1. 試し印刷する文書に印刷指示をします。
2. プリンタードライバーの［印刷設定］の［基本］タブで、［印刷方法］から［試し印刷］を選択します。

   ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、［印刷機能］タブをクリックします。
3. ［印刷方法の詳細］をクリックします。
4. ［ユーザー ID］を半角英数字 8 文字以内で入力します。
5. ［OK］をクリックします。
6. 印刷の指示をします。
7. 印刷結果を確認し、操作部から 2 部目以降を印刷するか消去するかを指示します。

補足

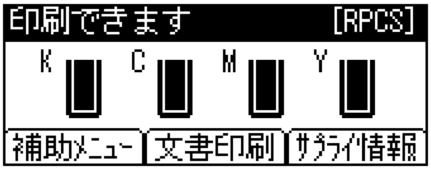
- ここでは RPCS プリンタードライバーを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバーを使用した場合は『PostScript 3 編』、PCL 6 プリンタードライバーを使用した場合は、『PCL 編』を参照してください。
- 本体の電源を「Off」にしても、蓄積された試し印刷文書は消去されずに残りますが、［一時置き文書自動消去設定］や［保存文書自動消去設定］が優先されます。設定については、P.160「調整/管理メニュー」を参照してください。

2 部目以降を印刷する

重要

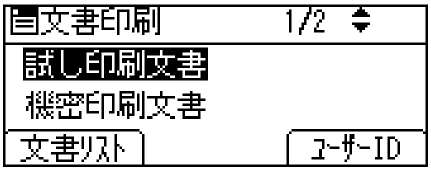
- **印刷が終了すると、蓄積されていた文書は消去されます。**

1. **［文書印刷］を押します。**



2. **［▼］［▲］キーを押して［試し印刷文書］を選択し、［文書リスト］を押します。**

［ユーザー ID］を押すことによっても印刷できます。詳しくは P.128「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」を参照してください。



セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3. **［▼］［▲］キーを押して印刷したい文書を選択し、［印刷］を押します。**



印刷の確認画面が表示されます。印刷部数を変更する場合は、スクロールキーで部数を入力します。最大 999 部が印刷できます。

4. **［印刷］を押します。**

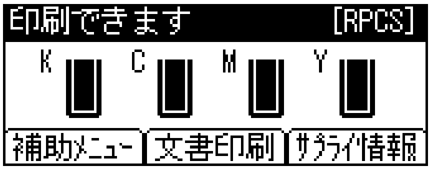
補足

- 他のジョブがある場合は、そのジョブの終了後に印刷されます。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合はP.110「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

試し印刷文書を消去する

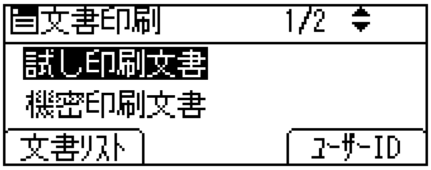
試し印刷の内容を確認し、2 部目以降を印刷しない場合は、本機に蓄積されている文書を消去します。

1. ［文書印刷］を押します。



2. ［▼］［▲］キーを押して［試し印刷文書］を選択し、［文書リスト］を押します。

セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。



3. ［▼］［▲］キーを押して消去したい文書を選択し、［消去］を押します。



4. ［消去］を押します。

機密印刷する

ネットワークでプリンターを共有している場合など、他人に見られたくない文書を印刷するときなどに有効な機能です。いったん本機にデータを蓄積し、操作部を使用して蓄積したデータを印刷することができます。機密印刷を使うと本機の操作部からパスワードを入力しないと印刷できなくなりますので、他人に見られる心配がありません。

重要

- **以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。エラー履歴の確認方法については、P.204「エラー履歴を確認する」を参照してください。**
  - **拡張 HDD が装着されていない場合**
  - **本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）**
  - **1 文書あたり 1,000 ページを超える文書**
  - **送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）**

プリンターに文書データを送る

1. **機密印刷する文書に印刷指示をします。**
2. **プリンタードライバーの［印刷設定］の［基本］タブで、［印刷方法］から［機密印刷］を選択します。**

   ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、［印刷機能］タブをクリックします。
3. **［印刷方法の詳細］をクリックします。**
4. **［ユーザー ID］を半角英数字 8 文字以内で入力します。**
5. **［パスワード］を半角数字 4 文字以上 8 文字以内で入力します。**
6. **［OK］をクリックします。**

   パスワードの確認画面が表示されます。
7. **パスワードを再度入力して、［OK］をクリックします。**
8. **印刷の指示をします。**

   本機に文書が蓄積されます。
9. **操作部でパスワードを入力し、印刷するか消去するかを指示します。**

補足

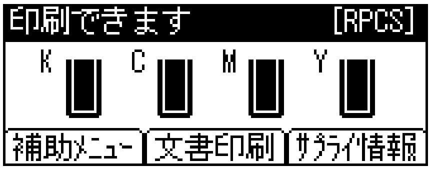
- ここでは RPCS プリンタードライバーを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバーを使用した場合は『PostScript 3 編』、PCL 6 プリンタードライバーを使用した場合は、『PCL 編』を参照してください。
- 本体の電源を「Off」にしても、蓄積された機密印刷文書は消去されずに残りますが、［一時置き文書自動消去設定］や［保存文書自動消去設定］が優先されます。設定については、P.160「調整/管理メニュー」を参照してください。

操作部を使って機密印刷する

重要

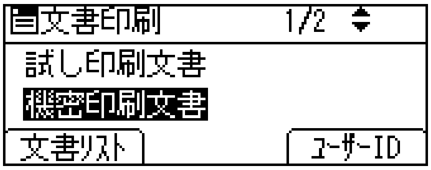
- **印刷が終了すると、蓄積されていた文書は消去されます。**

1. **[文書印刷]を押します。**



2. **[▼][▲]キーを押して[機密印刷文書]を選択し、[文書リスト]を押します。**

[ユーザーID]を押すことによっても印刷できます。詳しくはP.128「ユーザーID一覧から文書を印刷する」を参照してください。

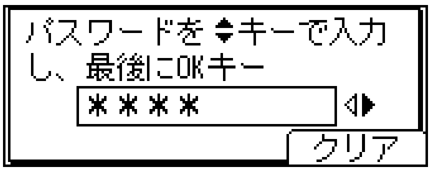


セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3. **[▼][▲]キーを押して印刷したい文書を選択し、[印刷]を押します。**



4. **スクロールキーでパスワードを入力し、[OK]キーを押します。**



入力したパスワードが正しくないときは、確認画面が表示されますので[確認]を押して、再度入力します。

パスワードが分からなくなった場合は、文書管理者にご相談ください。

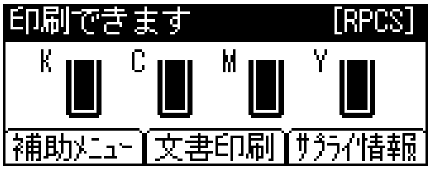
5. **[印刷]を押します。**

補足

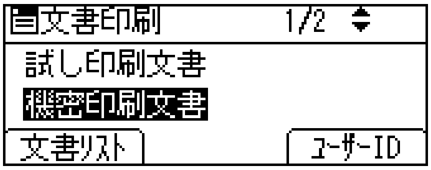
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合はP.110「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

機密印刷文書を消去する

1. [文書印刷] を押します。



2. [▼] [▲] キーを押して [機密印刷文書] を選択し、[文書リスト] を押します。

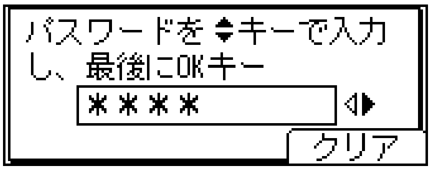


セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3. [▼] [▲] キーを押して消去したい文書を選択し、[消去] を押します。



4. スクロールキーでパスワードを入力し、[OK] キーを押します。



入力したパスワードが正しくないときは、確認画面が表示されます。[確認] を押して、再度入力します。 パスワードが分からなくなった場合は、文書管理者にご相談ください。

5. [消去] を押します。

保留文書を印刷する

本機に文書を一時的に蓄積し、必要に応じて印刷を行います。複数の文書をまとめて印刷するときなどに有効です。

重要

- **以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。エラー履歴の確認方法については、P.204「エラー履歴を確認する」を参照してください。**
    - **拡張 HDD が装着されていない場合**
    - **本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）**
    - **1 文書あたり 1,000 ページを超える文書**
    - **送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）**

プリンターに文書データを送る

1. 保留印刷文書で印刷する文書に印刷指示をします。

2. プリンタードライバーの［印刷設定］の［基本］タブで、［印刷方法］から［保留印刷］を選択します。

ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、［印刷機能］タブをクリックします。

3. ［印刷方法の詳細］をクリックします。

4. ［ユーザー ID］を半角英数字 8 文字以内で入力します。

5. 印刷の指示をします。

補足

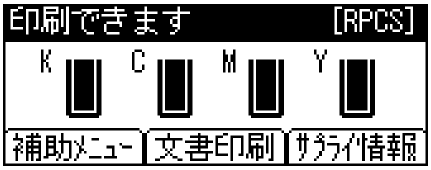
- ここでは RPCS プリンタードライバーを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバーを使用した場合は『PostScript 3 編』、PCL 6 プリンタードライバーを使用した場合は、『PCL 編』を参照してください。
- 本体の電源を「Off」にしても、蓄積された保留印刷文書は消去されずに残りますが、［一時置き文書自動消去設定］や［保存文書自動消去設定］が優先されます。設定については、P.160「調整/管理メニュー」を参照してください。
- 保留文書には文書名を設定できます。ただし、必須ではありません。

操作部を使って保留文書を印刷する

重要

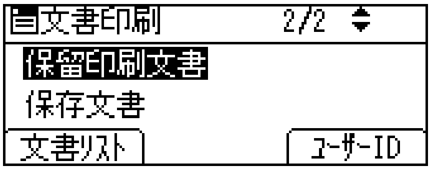
- **印刷が終了すると、蓄積されていた文書は消去されます。**

1. ［文書印刷］を押します。



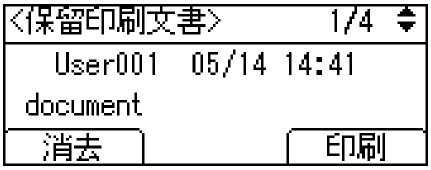
2. ［▼］［▲］キーを押して［保留印刷文書］を選択し、［文書リスト］を押します。

［ユーザー ID］を押すことによっても印刷できます。詳しくは P.128「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」を参照してください。



セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3. ［▼］［▲］キーを押して印刷したい文書を選択し、［印刷］を押します。



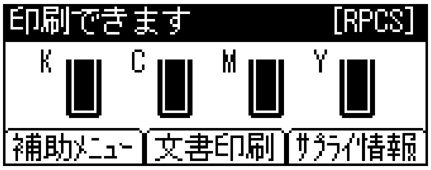
4. ［印刷］を押します。

補足

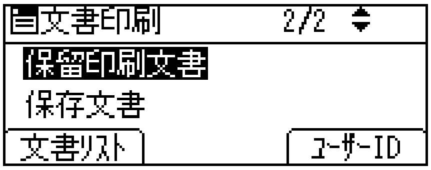
- 保留印刷文書として蓄積された文書を印刷するときに、部数の変更はできません。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は P.110「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

保留印刷文書を消去する

1. ［文書印刷］を押します。

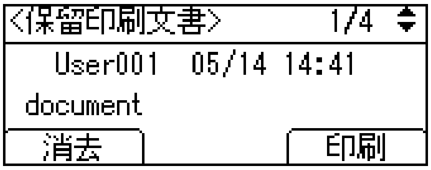


2. ［▼］［▲］キーを押して［保留印刷文書］を選択し、［文書リスト］を押します。



セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3. ［▼］［▲］キーを押して消去したい文書を選択し、［消去］を押します。



4. ［消去］を押します。

保存文書を印刷する

本機に文書を蓄積し、必要に応じて印刷を行います。印刷終了後にも文書が消去されないので、繰り返し印刷するときなどに有効です。

重要

- **以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。エラー履歴の確認方法については、P.204「エラー履歴を確認する」を参照してください。**
    - **拡張 HDD が装着されていない場合**
    - **本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）**
    - **1 文書あたり 1,000 ページを超える文書**

- **送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）**

プリンターに文書データを送る

1. 保存文書にする文書に印刷指示をします。

2. プリンタードライバーの［印刷設定］の［基本］タブで、［印刷方法］から［プリンターに保存する］または［プリンターに保存して印刷］を選択します。

- ［プリンターに保存する］を選択した場合は、本機に蓄積のみを行い、後から本機の操作部で印刷します。
- ［プリンターに保存して印刷］を選択した場合は、1 部目をすぐに印刷し、本機にも文書を蓄積します。
- ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、［印刷機能］タブをクリックします。

3. ［印刷方法の詳細］をクリックします。

4. ［ユーザー ID］を半角英数字 8 文字以内で入力します。

5. ［OK］をクリックします。

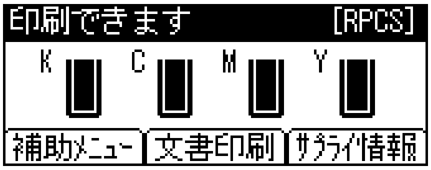
6. 印刷の指示をします。

補足

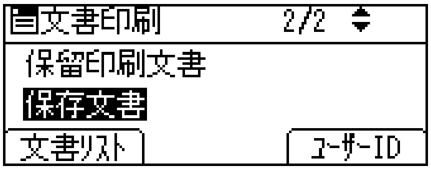
- ここでは RPCS プリンタードライバーを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバーを使用した場合の説明については、『PostScript 3 編』、PCL 6 プリンタードライバーを使用した場合は、『PCL 編』を参照してください。
- 本体の電源を「Off」にしても、蓄積された保存印刷文書は消去されずに残りますが、［一時置き文書自動消去設定］や［保存文書自動消去設定］が優先されます。設定については、P.160「調整/管理メニュー」を参照してください。
- 保存文書には文書名とパスワードを設定できます。ただし、どちらも必須ではありません。

操作部を使って保存文書を印刷する

1. ［文書印刷］を押します。

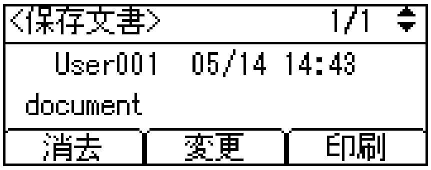


2. ［▼］［▲］キーを押して［保存文書］を選択し、［文書リスト］を押します。



セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3. ［▼］［▲］キーを押して印刷したい文書を選択し、［印刷］を押します。



印刷部数を変更する場合は、スクロールキーで部数を入力します。

文書にパスワードが設定されている場合は、パスワード入力の画面が表示されます。パスワードを入力してください。

パスワードが分からなくなった場合は、管理者にご相談ください。

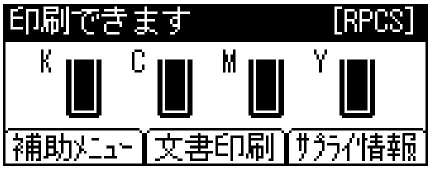
4. ［印刷］を押します。

補足

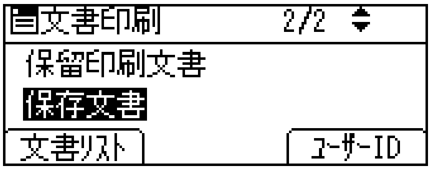
- 文書にパスワードを追加するには、文書一覧画面で［変更］を押して、パスワードを設定します。
- 文書に設定したパスワードを削除するには、文書一覧画面で［変更］を押して、設定したパスワードを入力して［OK］キーを押し、新しいパスワードを入力、確認する画面で何も入力せずに［OK］キーを押します。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は P.110「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

保存文書を消去する

1.［文書印刷］を押します。

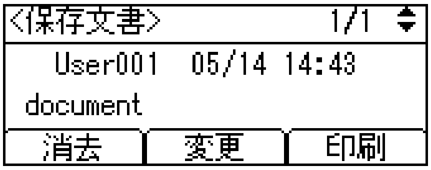


2.［▼］［▲］キーを押して［保存文書］を選択し、［文書リスト］を押します。



セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3.［▼］［▲］キーを押して消去したい文書を選択し、［消去］を押します。



文書にパスワードが設定されている場合は、パスワード入力の画面が表示されます。パスワードを入力してください。

パスワードが分からなくなった場合は、管理者にご相談ください。

4.［消去］を押します。

ユーザー ID 一覧から文書を印刷する

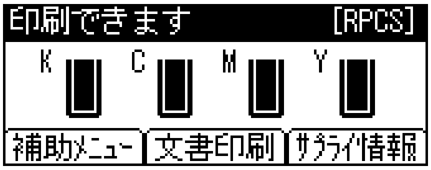
文書を個別に選択して印刷する方法と、選択したユーザー ID の文書をすべて印刷する方法があります。

文書を選択して印刷する場合

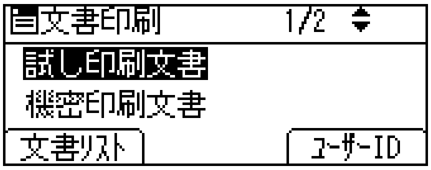
重要

- **印刷が終了すると、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書は消去されます。**

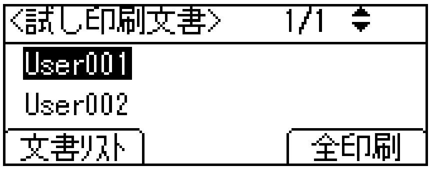
1. ［文書印刷］を押します。



2. ［▼］［▲］キーを押して選択したい文書印刷の種類を選択し、［ユーザー ID］を押します。



3. ［▼］［▲］キーを押して選択したいユーザー ID を選択し、［文書リスト］を押します。



4. ［▼］［▲］キーを押して印刷したい文書を選択し、［印刷］を押します。



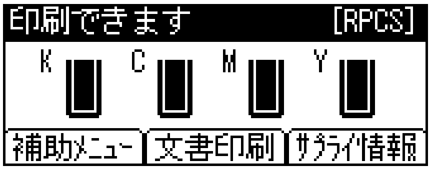
5. ［印刷］を押します。

文書をすべて印刷する場合

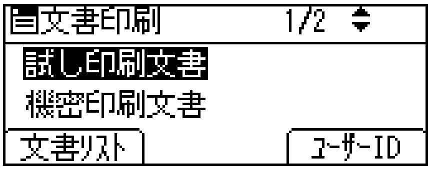
重要

- **印刷が終了すると、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書は消去されます。**

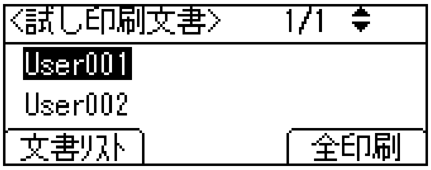
1. [文書印刷] を押します。



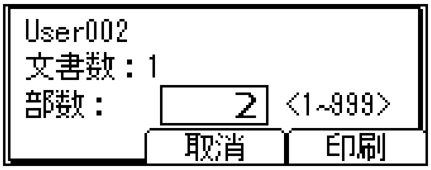
2. [▼] [▲] キーを押して選択したい文書印刷の種類を選択し、[ユーザー ID] を押します。



3. [▼] [▲] キーを押して選択したいユーザー ID を選択し、[全印刷] を押します。



4. [▼] [▲] キーを押して印刷部数を設定します。



5. [印刷] を押します。

補足

- 蓄積されていない種類の文書を選択することはできません。
- 保存文書を選択した場合は、印刷の確認画面で印刷部数を指定できます。保存文書として蓄積されたすべての文書が、指定した部数で印刷されます。部数を指定しなかった場合は、プリンタードライバーで設定してある部数中もっとも少ない部数で、すべての文書が印刷されます。

- 複数の文書がある試し印刷文書を選択した場合は、印刷の確認画面で印刷部数を指定できます。試し印刷として蓄積されたすべての文書が、指定した部数で印刷されます。確認画面で部数を指定しなかった場合は、プリンタードライバーで設定した中でもっとも少ない部数より 1 部少ない部数で、選択したすべての文書が印刷されます。設定した部数の中でもっとも少ない部数が1 の場合は、すべての文書が 1 部ずつ印刷されます。
- 機密印刷文書を選択した場合は、パスワード入力画面が表示されます。複数のパスワードが設定してある場合は、パスワードが一致した文書だけが印刷の対象になります。
- 保存文書を選択した場合、蓄積されている保存文書にパスワードが設定されているときは、パスワード入力画面が表示されます。複数のパスワードが設定してある場合は、パスワードが一致した文書と、パスワードが設定されていない文書だけが印刷の対象になります。

印刷を中止する

印刷を中止する場合は、本機とパソコン両方から行います。中止する方法は印刷データの状態によって異なりますので、状況を確認し、以下の手順で操作してください。

1. 印刷を中止したいデータが、現在本機から印刷されているか確認します。

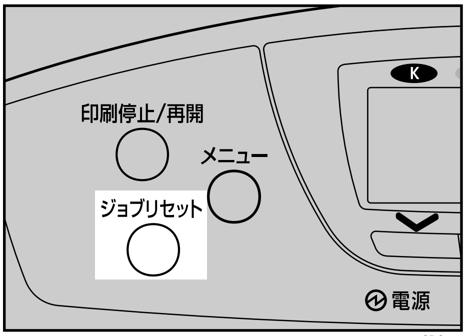
データが印刷されていなくてもデータインランプが点滅/点灯していれば、本機はデータを受信しています。

2. 印刷を中止します。

データの印刷状況によって、次のいずれかの操作を行ってください。

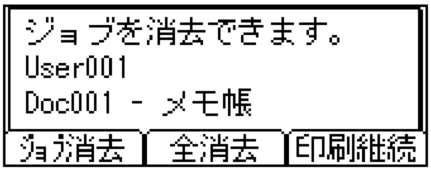
中止したいデータが印刷されている場合

1. ［ジョブリセット］キーを押します。

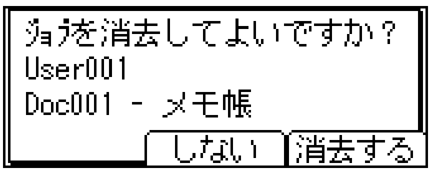


CDC545

2. ［ジョブ消去］を押します。



3. ［消去する］を押します。



補足

- 印刷を中止したデータが途中から再び印刷される場合は、［インターフェース設定］の［インターフェース切り替え時間］を長くしてください。

- 大容量データの印刷を中止したいときは、［ジョブリセット］キーを押した後、パソコン側からも印刷を中止することをお勧めします。

中止したいデータが印刷されていない場合

1. **Windows のタスクトレイのプリンターアイコンをダブルクリックします。**

   印刷を中止する文書の状態を確認します。

2. **印刷を中止する文書のドキュメント名をクリックして反転表示させます。**
3. **［ドキュメント］メニューの［キャンセル］をクリックします。**
4. **［はい］をクリックします。**

3

補足

- ［プリンタ］メニューの［すべてのドキュメントの取り消し］をクリックすると、印刷待ち状態のすべてのドキュメントが削除されます。ただし、［すべてのドキュメントの取り消し］を使って印刷を中止するには、「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。
- 印刷の中止を選択したドキュメントの印刷が開始している場合は、プリンターのウィンドウからドキュメント名が消えるまで、多少時間がかかります。

印刷終了後にプリンターのエミュレーションを切り替える

複数のパソコンでプリンターを共有している場合で、その中に DOS または Unix で印刷しているパソコンがあるときに使用する機能です。

通常、DOS または Unix から印刷するには、使用するアプリケーションに応じてプリンターのエミュレーションを設定しておく必要があります。印刷後のエミュレーションとして DOS または Unix から印刷するときのエミュレーション（または、プログラム）を選択しておくと、次の印刷が DOS または Unix からの場合でもエミュレーションを切り替えずに印刷することができます。

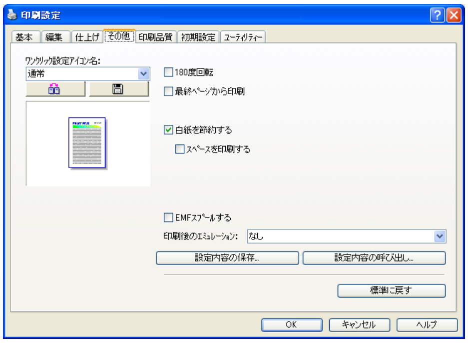
3

1. アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの設定画面を表示します。

2. ［その他］タブをクリックします。

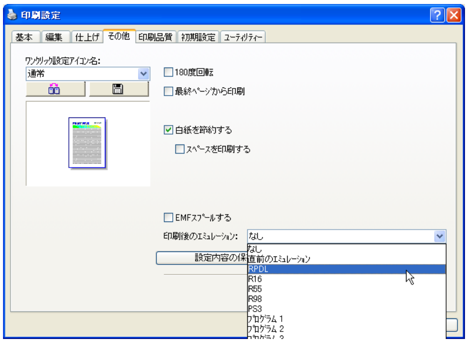
ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、［印刷機能］タブで［アイコンの変更／新規作成］をクリックし、［その他］タブをクリックします。

3. ［印刷後のエミュレーション：］ボックスからエミュレーションを選択します。



Windows だけでお使いの場合は、［なし］または［直前のエミュレーション］を選択してください。［直前のエミュレーション］を選択すると、印刷前に設定されていたエミュレーションに戻ります。

4. ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、[名前をつけて保存] または [上書き保存] をクリックし、設定を保存します。



5. [OK] をクリックします。

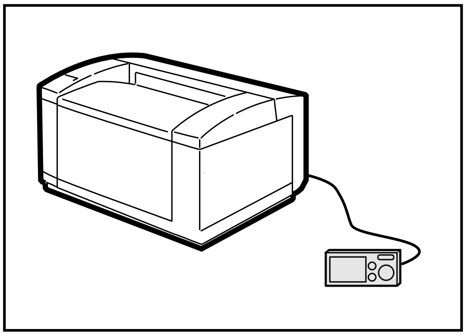
6. アプリケーションから印刷の指示を出します。

4. デジタルカメラから直接印刷する（PictBridge）

デジタルカメラ接続カードを装着することによって、デジタルカメラから直接印刷できます。

PictBridge とは？

本機と PictBridge 対応のデジタルカメラを USB ケーブルで接続し、デジタルカメラから操作を行うことで、撮影した画像を直接印刷することができます。


CDC535

この機能を使用するためには、デジタルカメラ接続カードが必要です。

補足

- お使いのデジタルカメラが、PictBridge 対応であることをご確認ください。PictBridge 対応に関するお問合せは、各メーカーまでお願いいたします。
- 一回の印刷で送信できる画像枚数は 999 枚です。それ以上の枚数を送信した場合はカメラ側にエラーを返し、印刷は行われません。
- 印刷条件はデジタルカメラ側で設定するため、お使いのデジタルカメラによって設定できる項目が異なります。詳しくはデジタルカメラの説明書をご確認ください。

印刷を行うには

ここでは本機を使い PictBridge の印刷を行うまでの手順の説明を行います。

重要

- **データの送信中に USB ケーブルを抜かないでください。正しく印刷されない場合があります。**

1. 本機の電源が入っていることを確認します。

2. 本機の USB ポートに USB ケーブルを接続し、デジタルカメラと接続を行います。

接続の方法については、『ハードウェアガイド』「プリンターとデジタルカメラの接続」を参照してください。

PictBridge として認識をし、本機のデータインランプが数秒間点滅します。

3. お使いのデジタルカメラより、印刷を行いたい画像の選択と印刷条件の設定を行ってください。

4. デジタルカメラで設定した内容を本機に送信し、印刷を行います。

補足

- お使いのデジタルカメラによっては、手動で PictBridge を使うために設定する必要があります。詳細はデジタルカメラの使用説明書をご確認ください。
- 印刷条件はデジタルカメラ側で設定するため、お使いのデジタルカメラによって設定できる項目が異なります。詳しくはデジタルカメラの説明書をご確認ください。

本機でできること

ここでは本機に対応している PictBridge を使ったいろいろな印刷の機能の紹介をします。使用できる設定項目につきましては以下の通りです。

- 単一画像印刷
- 任意選択画像印刷
- インデックス印刷
- 全画像印刷
- トリミング
- 日付／ファイル名印刷
- 用紙サイズ
- 画像印刷サイズ
- 集約
- 印刷品質
- カラーマッチング
- 紙種通知
- 帳票印刷
- カメラメモ出力

補足

- 本機では以下の設定項目には対応していません。
    - DPOF 印刷
    - フチなし印刷
- お使いのデジタルカメラにより、印刷の機能名や設定できる項目が異なることがあります。詳しくはデジタルカメラの使用説明書をご確認ください。

インデックス印刷

画像のインデックスを作成します。

A4

横コマ数 × 縦コマ数	用紙の向き
8 × 12	タテ
12 × 8	ヨコ

4

A5

横コマ数 × 縦コマ数	用紙の向き
5 × 8	タテ
8 × 5	ヨコ

Letter（8 $^{1}/_{2}$ × 11）

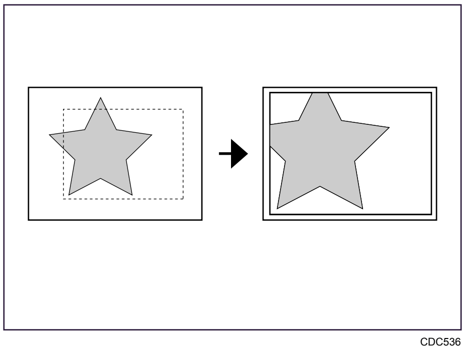
横コマ数 × 縦コマ数	用紙の向き
8 × 10	タテ
10 × 8	ヨコ

補足

- インデックス印刷は、指定されたサイズの用紙がトレイにセットされている向きによって出力結果が異なります。
- お使いのデジタルカメラによっては、改ページが入る場合があります。
- 各用紙サイズでのコマ数は固定です。

トリミング

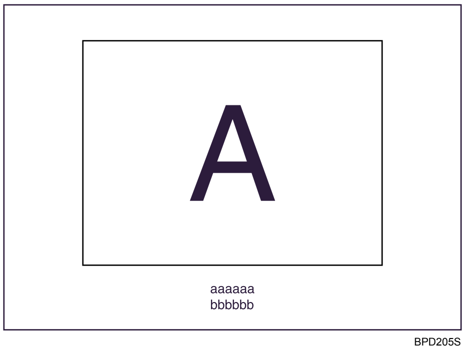
デジタルカメラで指定されたトリミング領域のみを出力します。



「---- （点線）」はトリミング領域を表しています。

日付／ファイル名印刷

画像の下に日付やファイル名をつけて出力します。



「aaaaa」ファイル名、「bbbbb」日付を表しています。

用紙サイズ

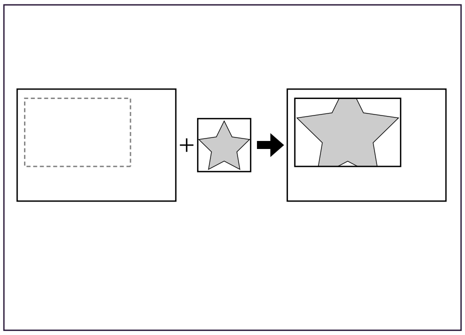
デジタルカメラより指定された用紙サイズを使って出力します。

用紙サイズ	サイズ
2L (5" × 7")	178 mm × 127 mm
ハガキ	148 mm × 100 mm
100 mm × 150 mm	100 mm × 150 mm
4" × 6"	152.4 mm × 101.6 mm
8" × 10"	254 mm × 203.2 mm
Letter （8 $^{1}/_{2}$" × 11"）	279.4 mm × 216 mm
A4	297 mm × 210 mm
A5	210 mm × 148 mm
A6	148 mm × 105 mm
B5	257 mm × 182 mm
B6	182 mm × 128 mm

本機の操作部で指定できない用紙サイズは、不定形サイズとして用紙の大きさを指定してください。用紙サイズについて詳しくは『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

画像印刷サイズ

デジタルカメラで指定された画像サイズになるように、用紙に出力します。



CDC537

「---（点線）」はカメラで指定された画像サイズを表しています。

画像印刷サイズで指定できるサイズは以下の通りです。

固定サイズ

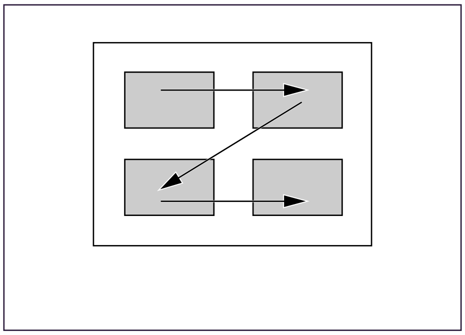
- 3.25" × 2.5"
- 5" × 2.5"
- 6" × 4"
- 7" × 5"
- 10" × 8"
- 254 mm × 178 mm
- 110 mm × 74 mm
- 89 mm × 55 mm
- 148 mm × 100 mm
- 8 cm × 6 cm
- 10 cm × 7 cm
- 13 cm × 9 cm
- 15 cm × 10 cm
- 18 cm × 13 cm
- 21 cm × 15 cm
- 24 cm × 18 cm

補足

- 指定された固定サイズが用紙サイズよりも大きい場合はエラーとなります。

集約

指定された用紙に、複数の画像を印刷します。



CDC538

1 枚に印刷できる画像数（コマ数）は下表の通りです。

用紙サイズ	指定可能なコマ数
2L (5" × 7")	2、4、8、9
ハガキ	2、4
100 mm × 150 mm	2、4
4" × 6"	2、4、8、9
8" × 10"	2、4、8、9、16、25、32
Letter（$8^1/_2$" × 11"）	2、4、8、9、16、25、32
A4	2、4、8、9、16、25、32
A5	2、4、8、9、16
A6	2、4、8
B5	2、4、8、9、16、25
B6	2、4、8、9

また、指定可能なコマ数のコマの並び方は以下の通りです。

コマ数	縦方向コマ数 × 横方向コマ数	用紙の方向
2	2 × 1	タテ
4	2 × 2	ヨコ
8	4 × 2	タテ
9	3 × 3	ヨコ
16	4 × 4	ヨコ
25	5 × 5	ヨコ
32	8 × 4	タテ

4

補足

- お使いのデジタルカメラによっては、途中で改ページが入る場合があります。
- 印刷する画像枚数の組み合わせによっては、指定どおりに印刷できない場合があります。

印刷品質

選択された印刷品質で画像を出力します。

本機では［Default］および［Normal］が選択された場合は 600 dpi ×600 dpi (2 bit)、［Fine］の場合は 600 dpi ×600 dpi (4 bit)で出力します。

カラーマッチング

画像の色合いを最適化し、出力します。

本機では［Default］および［OFF］が選択された場合は階調優先によるカラーマッチング処理を、［ON］の場合はあざやか優先によるカラーマッチング処理を行います。

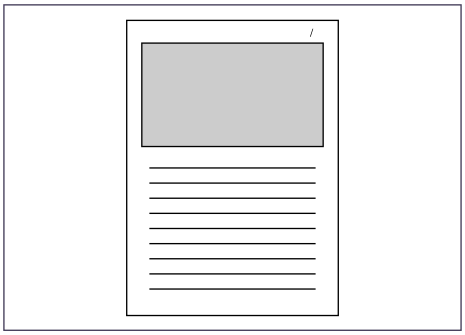
紙種

本機でトレイにセットされている紙種を設定しておくと、デジタルカメラにその情報が通知され、紙種を確認してから出力できます。

デジタルカメラに通知される紙種	プリンターにセットされている紙種
Default	すべての紙種
Plain Paper	普通紙・再生紙
First Photo Paper	光沢紙

帳票印刷

定められたレイアウトフォーマットを用いた画像の出力を行います。



CDC539

トナーセーブ

デジタルカメラより印刷濃度を指定することにより、トナーを節約して出力することができます。

デジタルカメラからの指定	印刷濃度
Default/OFF	100%
やや薄い	75%
薄い	50%

カメラメモ出力

印刷する画像にテキストデータが添付されている場合に、そのテキストデータの印刷を行います。

PictBridge を終了するには

ここでは PictBridge モードを終了する手順を説明します。

重要

- **データの送信中に USB ケーブルを抜かないでください。正しく印刷されない場合があります。**

1. **本機の操作部が［印刷できます］の状態になっている事を確認します。**
2. **本機に接続されている USB ケーブルを抜きます。**

こんなときには

印刷がうまくいかないときの原因と対処方法について説明します。

状態	対処方法
PictBridge が利用できない。	以下の順番で確認してください。 1. USB ケーブルの抜き差しを行ってください。 2. PictBridge の設定が有効になっているか確認をしてください。 3. 一度 USB ケーブルを抜き本機の電源の OFF/ON を行い、再度立ち上がったのを確認してから USB ケーブルを接続してください。
複数のデジタルカメラを接続したが、2 台目以降のデジタルカメラが認識しない。	デジタルカメラの接続可能台数は 1 台になります。複数台の接続は行わないでください。
印刷ができない。	一回で印刷指定できる画像枚数は 999 枚までです。指定枚数が超えている場合は減らして再度印刷を行ってください。
印刷ができない。	本機の用紙を確認してください。用紙切れの場合は用紙のセットを、指定サイズ以外の用紙に印刷する場合は強制印刷を、印刷をとりやめる場合にはジョブキャンセルを、それぞれ本機で行ってください。
印刷ができない。	本機で印刷できない用紙サイズを指定していないか確認してください。指定していた場合は、本機で印刷できるサイズの用紙に変更してください。

その他の参考情報

本機で印刷を行うために必要な情報につきましては、以下を確認してください。

補足

- 使用できる用紙の種類とサイズについては、『ハードウェアガイド』「使用できる用紙の種類とサイズ」を参照してください。

5. プリンター本体の設定

本機の操作部に表示されるメニューや、設定項目について説明します。

メニューキー機能一覧

操作部では、本機を使用するために必要な各種の基本的な設定や調整を行うことができます。ここでは設定可能なメニューと項目一覧を説明します。

メモリー内残存データ状態確認

メモリー内のデータ状態を確認します。詳細はP.154「メモリー内残存データ状態確認メニュー」を参照してください。

メモリー内残存データ状態確認を画面に表示するには、以下の条件が必要です。

- 拡張 HDD が装着されている
- セキュリティーカードが装着されている
- セキュリティー管理メニューで、[メモリー自動消去設定] が [する] に設定されている

用紙設定

設定項目
用紙サイズ設定：手差しトレイ
用紙サイズ設定：トレイ 1
用紙サイズ設定：トレイ 2
用紙サイズ設定：トレイ 3
用紙サイズ設定：トレイ 4
用紙種類設定：手差しトレイ
用紙種類設定：トレイ 1
用紙種類設定：トレイ 2
用紙種類設定：トレイ 3
用紙種類設定：トレイ 4
両面印刷トレイ
自動トレイ選択
優先給紙トレイ

補足

- 本機に装着されているトレイが画面に表示されます。

参照

• P.155「用紙設定メニュー」

調整/管理

設定項目
品質調整
一般管理
時刻タイマー設定
ハードディスク管理
機器設定値エクスポート

補足

• [ハードディスク管理] は、拡張 HDD を装着しているときに表示されます。

参照

• P.160「調整/管理メニュー」

テスト印刷

設定項目
一括リスト印刷
システム設定リスト
エラー履歴
ネットワークサマリー
サプライ情報リスト
印刷条件リスト
メニューリスト
登録フォームリスト
カラーサンプル
全文字印刷
フォントリスト
PCL 情報リスト
PS 情報リスト
PDF 情報リスト
ヘキサダンプ

補足

- 上記メニューは、使用するエミュレーションによって表示されないものがあります。

参照

- P.167「テスト印刷メニュー」

システム設定

設定項目
エラーレポート印刷
エラースキップ
画像エラー処理
エラー表示設定
補助用紙サイズ
省エネモード
エミュレーション検知
優先エミュレーション/プログラム
優先メモリー
白黒画像認識
スプール印刷
RAM ディスク
自動メール通知

補足

- 使用するエミュレーションによって表示されないものがあります。
- [スプール印刷] は、拡張 HDD を装着しているときに表示されます。
- [RAM ディスク] は、拡張 HDD を装着していると表示されません。

参照

- P.172「システム設定メニュー」

印刷設定

設定項目
一般設定
システム設定（EM）
PCL 設定

設定項目
PS 設定
PDF 設定

補足

- 使用するエミュレーションによって表示されない項目があります。

参照

- P.178「印刷設定メニュー」

セキュリティー管理

設定項目
セキュリティー強化
サービスモード移行禁止設定
ファームウェアバージョン表示
ネットワークセキュリティーレベル
メモリー自動消去設定
メモリー全消去
拡張認証管理
ログ転送設定
機器データ暗号化設定

補足

- [メモリー自動消去設定]と[メモリー全消去]は、セキュリティーカードを装着しているときに表示されます。
- [機器データ暗号化設定]は、蓄積文書暗号化カードを装着し、機器管理者でログインしたときに表示されます。
- [拡張認証管理]は、個人認証システムを装着しているときに表示されます。

参照

- P.189「セキュリティー管理メニュー」

インターフェース設定

設定項目
受信バッファ
インターフェース切り替え時間
ネットワーク設定

5

設定項目
パラレルインターフェース設定
無線 LAN
USB 設定

補足

- ［無線 LAN］は、拡張無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。
- ［パラレルインターフェース設定］は、拡張 1284 ボードを装着しているときに表示されます。

参照

- P.195「インターフェース設定メニュー」

シャットダウン

電源スイッチを「Off」にするための準備をします。拡張 HDD やメモリーが破損し、誤作動を起こすのを避けるため、操作部からシャットダウンを行った後に電源スイッチを「Off」にしてください。

補足

- シャットダウンの方法は、『ハードウェアガイド』「電源を切る」を参照してください。

表示言語切替

設定項目
日本語
English

補足

- RPDL、R55、R98、R16 は英語表示には対応しておりません。

本機での設定内容を他のプリンターで使用する

機器設定値エクスポート機能とは

本体操作部を使って設定した内容を SD カードに保存し、同じ機種や他の弊社製プリンターと共通する設定項目を引き継がせることができます。引継ぎができる設定内容は、下記の通りです。

- [システム設定] の各項目
- [印刷設定] の各項目
- [インターフェース設定] の [ネットワーク設定] (本体 IPv4 アドレスのみ)
- [インターフェース設定] の [USB 設定] (USB ポート固定のみ)

5

設定内容を SD カードに保存する

1. **[メニュー] キーを押して、各メニューで必要項目を設定します。**
2. **[メニュー] キーを押して [シャットダウン] を選択し、[OK] キーを押します。**
3. **[シャットダウン] を押します。**
4. **本機の電源を「Off」にします。**
5. **本機の拡張 SD カード用スロットに SD カードを取り付けます。**

   取り付け方法は『ハードウェアガイド』「拡張 SD カードを取り付ける」を参照してください。
6. **本機の電源を「On」にします。**
7. **[メニュー] キーを押します。**
8. **[▼] [▲] キーを押して [調整/管理] を選択し、[OK] キーを押します。**
9. **[▼] [▲] キーを押して [機器設定値エクスポート] を選択し、[OK] キーを押します。**
10. **確認のメッセージが表示されたら、[エクスポート] を押します。**
11. **保存成功のメッセージが表示されていることを確認し、[確認] を押します。**
12. **手順 2 〜 4 に沿って本機の電源を「Off」にし、SD カードを取り外します。**

SD カードに保存した設定内容を他のプリンターにコピーする

1. 設定を引き継ぐプリンターの電源が「Off」になっていることを確認します。
2. 拡張 SD カード用スロットに設定内容を保存した SD カードを取り付けます。

   取り付け方法は『ハードウェアガイド』「拡張 SD カードを取り付ける」を参照してください。
3. 操作部の［ジョブリセット］キーを押し、押したままの状態で電源を「On」にします。

   確認のメッセージが表示されます。
4. ［インポート］を押します。
5. インポート完了のメッセージが表示されたら、本機の電源を「Off」にします。
6. 設定内容を保存した SD カードを取り外します。
7. プリンターの電源を「On」にします。
8. 設定内容が引き継がれていることを確認し、必要に応じて設定内容を変更します。

メモリー内残存データ状態確認メニュー

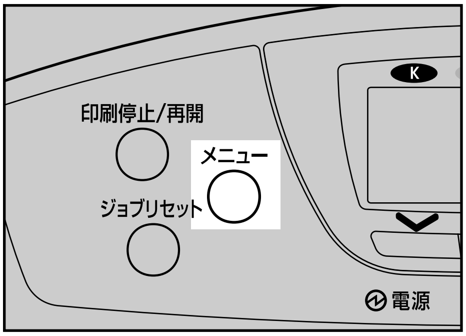
拡張 HDD が装着されている場合は、メモリー内のデータ状態を確認できます。

補足

- メモリー内残存データ状態確認は、セキュリティーカードを装着し、[セキュリティー管理] メニューの [メモリー自動消去設定] で [する] を選択すると表示されます。

メモリー内のデータ状態を確認する

1. 操作部の [メニュー] キーを押します。



CDC008

2. [▼] [▲] キーを押して [メモリー内残存データ状態確認] を選択し、[OK] キーを押します。
3. メモリー内にデータが残っている場合は [消去対象残存データあり]、データが残っていない場合は [消去対象残存データなし] と表示されます。
4. [メニュー] キーを押します。

用紙設定メニュー

各トレイにセットする用紙のサイズや種類の設定など、用紙設定メニューで設定できる項目の説明です。

用紙設定メニューの設定項目

用紙設定メニューの設定項目の説明です。

用紙サイズ設定：手差しトレイ

手差しトレイにセットする用紙サイズを設定します。

設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

用紙サイズ設定：トレイ 1

トレイ 1 にセットする用紙サイズを設定します。

設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

用紙サイズ設定：トレイ 2

トレイ 2 にセットする用紙サイズを設定します。

設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

用紙サイズ設定：トレイ 3

トレイ 3 にセットする用紙サイズを設定します。

設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

用紙サイズ設定：トレイ 4

トレイ 4 にセットする用紙サイズを設定します。

設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

用紙種類設定：手差しトレイ

手差しトレイにセットする用紙の種類を設定します。

設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

用紙種類設定：トレイ 1

トレイ 1 にセットする用紙の種類を設定します。

設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

用紙種類設定：トレイ 2

トレイ 2 にセットする用紙の種類を設定します。

設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

用紙種類設定：トレイ 3

トレイ 3 にセットする用紙の種類を設定します。

設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

用紙種類設定：トレイ 4

トレイ 4 にセットする用紙の種類を設定します。

設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

両面印刷トレイ

［対象にする］を選択すると、プリンタードライバーから指定された用紙サイズ、用紙種類に応じて、給紙トレイが自動的に選択されます。工場出荷時は、すべてのトレイが**対象にする**になっています。

自動トレイ選択

［対象にする］を選択すると、プリンタードライバーから指定された用紙サイズ、用紙種類に応じて、給紙トレイが自動的に選択されます。工場出荷時は、すべてのトレイが**対象にする**になっています。

優先給紙トレイ

「優先給紙トレイ」とは、本機の電源を入れたときに選択される給紙トレイで、自動トレイ選択やリミットレス給紙のときに一番最初に対象となるトレイです。工場出荷時の設定は**トレイ 1** です。

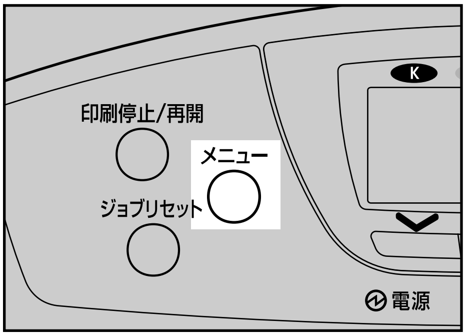
補足

- 「用紙サイズ設定」と「用紙種類設定」は、本機に装着されているトレイのみ画面に表示されます。

用紙設定メニューの設定を変更する

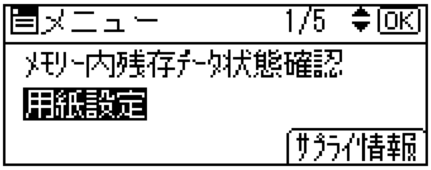
特定のトレイを自動トレイ選択の対象から外す

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

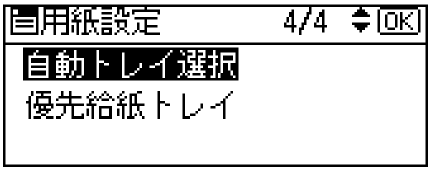


CDC008

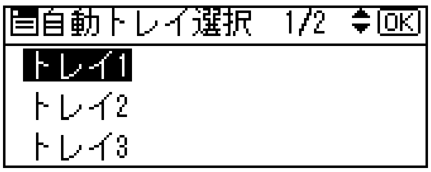
2. ［▼］［▲］キーを押して、［用紙設定］を選択し、［OK］キーを押します。



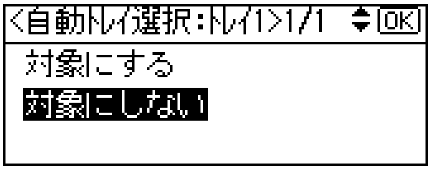
3. ［▼］［▲］キーを押して、［自動トレイ選択］を選択し、［OK］キーを押します。



4. ［▼］［▲］キーを押して、自動トレイ選択の対象としないトレイを選択し、［OK］キーを押します。



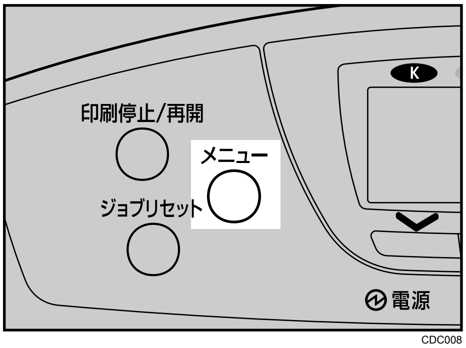
5. [▼] [▲] キーを押して、[対象にしない] を選択し、[OK] キーを押します。



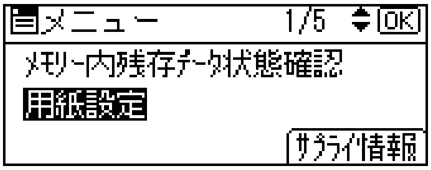
6. [メニュー] キーを押します。

優先給紙トレイを設定する

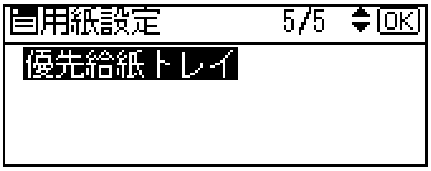
1. 操作部の [メニュー] キーを押します



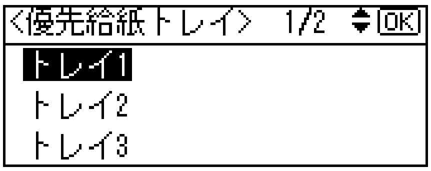
2. [▼] [▲] キーを押して、[用紙設定] を選択し、[OK] キーを押します。



3. [▼] [▲] キーを押して [優先給紙トレイ] を選択し、[OK] キーを押します。



4. [▼] [▲] キーを押して目的のトレイを選択し、[OK] キーを押します。



5. ［メニュー］キーを押します。

調整/管理メニュー

調整/管理メニューでは、階調や濃度など印刷時の設定調整や、拡張 HDD のフォーマットなど本機の管理についての設定ができます。

調整/管理メニューの項目

品質調整

色ずれ補正

本機を移動したとき、厚紙を印刷したとき、また通常の印刷を繰り返しているうちに、カラー原稿を印刷すると色ずれが発生することがあります。このとき、色ずれ補正を行うことにより適正な印刷結果を得ることができます。

色ずれの補正方法は、『ハードウェアガイド』「調整」を参照してください。

階調補正

カラー印刷の階調はさまざまな要素によって微妙に変化します。印刷を繰り返しているうちに色味が変化したり、トナーを交換したときに色味が変わることがあります。この場合、カラー階調を補正することにより、適切な階調の印刷結果を得ることができますが、通常は特に設定する必要はありません。

カラー階調の補正方法は、『ハードウェアガイド』「調整」を参照してください。

印刷位置調整

トレイごとの印刷位置をあわせるために印刷位置を調整することができます。通常は特に設定する必要はありませんが、オプションの増設給紙トレイを取り付けたときに調整します。

印刷位置の調整方法は、『ハードウェアガイド』「印刷位置を調整する」を参照してください。

4C 描画モード

印刷時に CMYK 各色のトナーを重ね合わせる量を切り替える設定です。文字、罫線などのにじみが気になる場合に［文字優先］を選択すると改善される場合があります。

工場出荷時の設定は**写真優先**です。通常は［写真優先］でご使用ください。

一般管理

各用紙についての詳細は、『ハードウェアガイド』「用紙に関する注意」を参照してください。

普通紙設定

普通紙の種類を、トレイごとに設定します。

トレイ 1、トレイ 2、トレイ 3、トレイ 4、手差しトレイ

普通紙の種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

- 普通紙 1
- 普通紙 2

工場出荷時の設定：**普通紙 1**

補足

- RPCS プリンタードライバーでは［普通紙（60 - 105 g/m^2)］を選択してください。

レターヘッド紙設定

レターヘッド紙を使用する場合に、使用するレターヘッド紙によって 1~3 を選択します。

- レターヘッド 1
- レターヘッド 2
- レターヘッド 3

工場出荷時の設定：**レターヘッド 1**

補足

- RPCS プリンタードライバーでは、［レターヘッド付き用紙］を選択してください。

光沢紙設定

光沢紙を使用する場合に、使用する光沢紙によって 1~4 を選択します。

- 光沢紙 1
- 光沢紙 2
- 光沢紙 3
- 光沢紙 4

工場出荷時の設定：**光沢紙 3**

補足

- RPCS プリンタードライバーでは、［光沢紙］を選択してください。

コート紙設定

コート紙を使用する場合に、使用するコート紙によって 1~4 を選択します。

- コート紙 1
- コート紙 2
- コート紙 3
- コート紙 4

工場出荷時の設定：**コート紙 2**

補足

- RPCS プリンタードライバーでは、［コート紙］を選択してください。

ラベル紙設定

ラベル紙を使用する場合に、使用するラベル紙によって 1~3 を選択します。

- ラベル紙 1
- ラベル紙 2
- ラベル紙 3

工場出荷時の設定：**ラベル紙 2**

補足

- RPCS プリンタードライバーでは、［ラベル紙］を選択してください。

封筒設定

封筒を使用する場合に、使用する封筒によって 1~4 を選択します。

- 封筒 1
- 封筒 2
- 封筒 3
- 封筒 4

工場出荷時の設定：**封筒 1**

補足

- RPCS プリンタードライバーでは、［封筒］を選択してください。

サプライ交換時期

感光体ドラムユニットの交換時期をアラームインジケーターの点灯で知らせるタイミングを設定します。

感光体

- 早めに通知
- 通常
- 遅めに通知

工場出荷時の設定：**通常**

サプライエンド時動作

感光体ドラムユニットのサプライエンド時に印刷を継続するかしないかを選択します。

- 印刷継続
- 印刷停止

工場出荷時の設定：**印刷継続**

サプライ残量表示

待機画面に、トナー残量を表示させるかさせないかを選択します。

- 待機画面に表示する
- 表示しない

工場出荷時の設定：**待機画面に表示する**

メニュープロテクト

メニュープロテクトをするかしないかを設定できます。する場合はそのレベルを選択します。

- レベル 1
- レベル 2
- しない

工場出荷時の設定：**レベル 2**

補足

- 機器管理者としてログインしているときのみ設定できます。
- プロテクトの強さを弱めたい場合は、［レベル 1］を選択します。

テスト印刷禁止

テスト印刷を禁止するかしないかを設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

補足

- 機器管理者としてログインしているときのみ設定できます。

ブザー音

パネルのキーを押したときやプリンターに異状が発生した場合に、音を出すか出さないかを選択します。

- ON
- OFF

工場出荷時の設定：**ON**

ウォームアップ通知音

ウォームアップを音で知らせるかどうかを選択します。

- ON
- OFF

工場出荷時の設定：**ON**

補足

- ［ブザー音］の設定が［ON］の場合にのみ有効です。

画面コントラスト調整

画面のコントラストを選択します。7 段階の調整ができます。

キーリピート設定

［▼］［▲］［▶］［◀］キーの長押しで、画面のスクロール、数値を入力するときの数値の増減、文字を選択するときの左右の移動をさせるかさせないかの設定をします。また、させる場合はその長押しの時間を設定できます。

- リピートしない
- 通常
- リピート時間：中
- リピート時間：長

工場出荷時の設定：**通常**

5

時刻タイマー設定

オートリセット時間設定

一定時間操作をしないとき自動的に初期画面へ戻るまでの時間を設定します。この機能が働くのは次のような場合です。

- 通常のメニュー操作時
- 認証に関する警告画面の表示時

［印刷停止/再開］キーを押してジョブを一時停止させた場合は、ここで設定した時間が経過すると、自動的に印刷を再開します。

- する

  オートリセットを設定した場合は、オートリセットするまでの時間を 10〜999 秒（1 秒単位）の範囲で設定します。工場出荷時は **60 秒**に設定されています。

- しない

工場出荷時の設定：**する**

年月日設定

年月日を設定します。

時刻設定

時刻を設定します。

ハードディスク管理

拡張 HDD が装着されているときのメニュー項目です。

一時置き文書全消去

拡張 HDD に蓄積されている一時置き文書（試し印刷文書、機密印刷文書、保留文書）をすべて消去します。

保存文書全消去

拡張 HDD に蓄積されている保存文書をすべて消去します。

一時置き文書自動消去設定

拡張 HDD に蓄積されている一時置き文書（試し印刷文書、機密印刷文書、保留文書）を、自動的に消去するかしないかを設定できます。する場合はその間隔を設定します。

- する

  自動消去する場合は、自動消去する時間を 1～200 時間（1 時間単位）の範囲で設定します。工場出荷時は **8 時間**に設定されています。

- しない

工場出荷時の設定：**しない**

保存文書自動消去設定

拡張 HDD に蓄積されている保存文書を自動的に消去するかしないかを設定できます。する場合はその間隔を設定します。

- する

  自動消去する場合は、自動消去する時間を 1～180 日（1 日単位）の範囲で設定します。工場出荷時は **3 日間**に設定されています。

- しない

工場出荷時の設定：**する**

機器設定値エクスポート

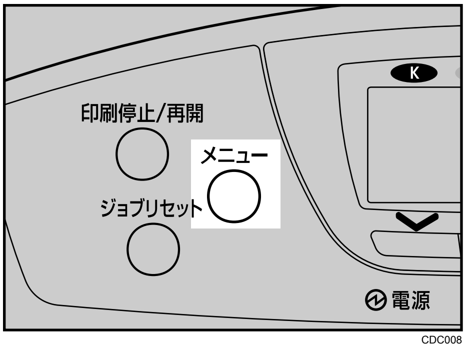
SD カードに本機の設定内容を保存します。保存した内容は、本機や他の弊社製プリンター機に設定を引き継ぐことができます。詳しくは P.152「本機での設定内容を他のプリンターで使用する」を参照してください。

調整/管理メニューの設定を変更する

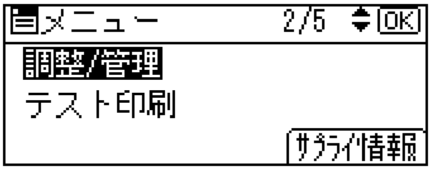
調整/管理メニューの変更方法を、例をあげて説明します。

保存文書をすべて消去する

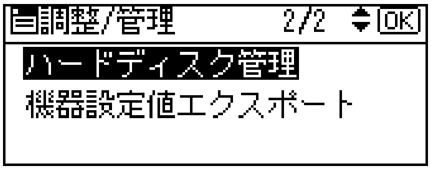
1. 操作部の［メニュー］キーを押します。



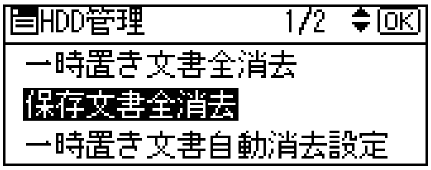
2. ［▼］［▲］キーを押して［調整/管理］を選択し、［OK］キーを押します。



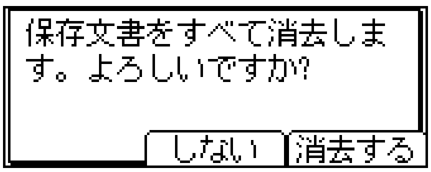
3. ［▼］［▲］キーを押して［ハードディスク管理］を選択し、［OK］キーを押します。



4. ［▼］［▲］キーを押して［保存文書全消去］を選択し、［OK］キーを押します。



5. 確認のメッセージが表示されていることを確認し、［消去する］を押します。



6. 消去終了のメッセージが表示されていることを確認し、［確認］を押します。

テスト印刷メニュー

テスト印刷メニューでは、本機の使用環境や印刷に関する条件の設定状況の一覧表を印刷することができます。

また、印字可能なすべての文字やフォントの種類も印刷して確認できます。

テスト印刷メニューの項目

一括リスト印刷

システム設定リストとエラー履歴、ネットワークサマリー、サプライ情報リストが印刷されます。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

システム設定リスト

本機のシステム構成やシステム設定の設定内容などが印刷されます。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

詳細は、P.170「システム設定リストの見かた」を参照してください。

エラー履歴

エラーになったジョブの履歴が印刷されます。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

ネットワークサマリー

ネットワークの設定内容が印刷されます。

サプライ情報リスト

サプライ情報が印刷されます。

印刷条件リスト

印刷条件の設定内容が印刷されます。

エミュレーションの RPDL、R16、R55、R98 が対象となります。

メニューリスト

設定できる各項目と設定内容をツリー状に印刷します。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

登録フォームリスト

拡張 HDD が装着されているときのメニュー項目です。

登録されているフォームの一覧が印刷されます。

エミュレーションの RPDL、R55 が対象となります。

カラーサンプル

カラーサンプルが印刷されます。

全文字印刷

現在設定されているプリンター言語やエミュレーションで印刷できる全ての文字が印刷されます。

エミュレーションの RPDL、R55、R98、R16 が対象となります。

フォントリスト

現在設定されているプリンター言語やエミュレーションで印刷できるフォントの一覧が印刷されます。

エミュレーションの RPDL、R55、R98、R16 が対象となります。

PCL 情報リスト

PCL カードが装着されているときのメニュー項目です。PCL のシステム情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。

エミュレーションの PCL、PCLXL が対象となります。詳しくは、『PCL 編』を参照してください。

PS 情報リスト

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。PS3 のシステム情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。詳しくは、『PostScript 3 編』を参照してください。

PDF 情報リスト

PS3 カード、または PDF ダイレクトプリントカードが装着されているときのメニュー項目です。PDF の情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。

エミュレーションの PDF が対象となります。

ヘキサダンプ

印刷不良の原因を調べるために、パソコンから送られたデータを 16 進数で印刷するモードに移行します。

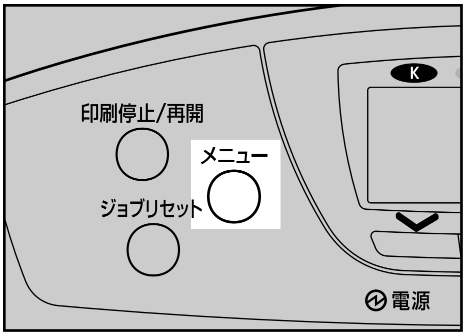
選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

テスト印刷をする

ここでは「システム設定リスト」の印刷手順を説明しますが、基本的な操作方法は他のリストを印刷する場合も同じです。

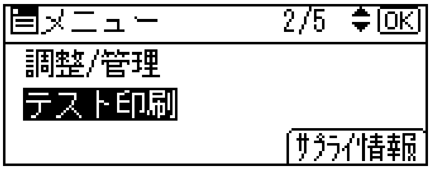
システム設定リストを印刷する

1. ［メニュー］キーを押します。

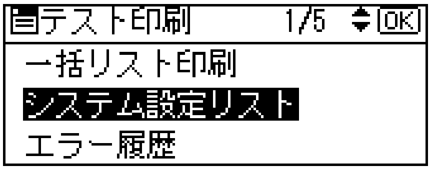


CDC008

2. ［▼］［▲］キーを押して［テスト印刷］を選択し、［OK］キーを押します。



3. ［▼］［▲］キーを押して印刷したいリスト名を選択し、［OK］キーを押します。



4. 印刷終了後、［メニュー］キーを押します。

補足

- システム設定リストは A4 または Letter（8 $^1/_2$” ×11”）で印刷されます。給紙トレイや手差しトレイに A4 または Letter（8 $^1/_2$” ×11”）の用紙をセットしてください。

システム設定リストの見かた



システム設定リスト　お使いの機器名

1 ■システム構成情報　年月日 時分秒

機番		搭載メモリ	384 MB
トータルカウンター	328		
ファームウェアバージョン	プリンター[0.29 / M0475831A], システム[0.29 / M0475830A], エンジン[0.20:02 / M0455810], NIB[9.06 / M0475834A]		
接続デバイス	ハードディスク, 無線LAN		
HDD：フォント／マクロ	空き容量 510438 KB , 最大容量 510446 KB		
搭載エミュレーション	R98 [5.21a], R16 [5.23a], R55 [5.20a], RPGL [7.4.t1], RPGL2 [7.4.t1], RTIFF [11.109B], RPDL [7.36b], BMLinkS [0.01], Adobe PostScript 3 [0.05], Adobe PDF [0.05], RPCS [3.9.3], PCL 5e Emulation [0.05], PCL XL Emulation [0.05], MSIS [7.40.02], KAN-G [1.03.00]		
接続機器	両面ユニット, 給紙ユニット		

2 ■用紙設定

優先給紙トレイ	トレイ1		
手差しトレイ	B5	257.0 x 182.0mm	レターヘッド
トレイ1	A4	297.0 x 210.0mm	普通紙
トレイ2	A4R	210.0 x 297.0mm	普通紙
トレイ3	A3R	297.0 x 420.0mm	普通紙

3 ■調整／管理

濃度調整-濃度調整(厚紙2)	0	濃度調整-濃度調整(厚紙2以外)	0
印刷位置調整-ヨコ：トレイ1	0.0	印刷位置調整-ヨコ：トレイ2	0.0
印刷位置調整-ヨコ：トレイ3	0.0	印刷位置調整-ヨコ：手差しトレイ	0.0
印刷位置調整-ヨコ：両面時裏面	0.0	印刷位置調整-タテ：標準装備給紙トレイ	0.0
印刷位置調整-タテ：オプション給紙トレイ	0.0	印刷位置調整-タテ：手差しトレイ	0.0
印刷位置調整-タテ：両面時裏面	0.0	カール低減	しない
サプライ残量表示	*表示しない	封筒レバーメッセージ	表示する
ブザー音	*OFF	ウォームアップ通知音	OFF
画面コントラスト調整	4	キーリピート設定	通常
オートリセット時間設定	する	リセットまでの時間	60
一時置き文書自動消去設定	しない	消去までの時間	8
保存文書自動消去設定	する	消去までの日数	3

4 ■システム設定　＊マークは設定値が初期値と異なる項目です。

エラーレポート印刷	しない	エラースキップ	しない
画像エラー処理	ジョブリセット	エラー表示設定	すべて表示
補助用紙サイズ	しない	省エネモード移行設定	移行する
省エネモード移行時間	5分	エミュレーション検知	しない
圧縮ﾃﾞｰﾀの解凍印刷	しない	優先ｴﾐｭﾚｰｼｮﾝ/ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	RPCS
優先メモリー	ページメモリー	スプール印刷	しない
自動メール通知	*しない		

5 ■一般設定

印刷枚数	1	180度回転	しない
スムージング	する	トナーセーブ	しない
レターヘッド紙使用設定	使用する（自動判定）	手差しトレイ	*全用紙サイズ/用紙種類許可
トレイ1	機器側設定優先	トレイ2	機器側設定優先
トレイ3	機器側設定優先	トレイ指定時動作切り替え	しない
拡張リミットレス給紙	しない		

6 ■EM設定

白紙排紙	しない	用紙なしエラー	印刷実行時
自動排紙時間	自動排紙しない	マクロキャッシュ	マクロ無し
水平補正初期値	100.00	垂直補正初期値	100.00

7 ■登録プログラム一覧

プログラム番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
エミュレーション名	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

8 ■PCL設定

用紙サイズ	A4	最大領域印刷	しない
両面印刷	しない	印刷方向	タテ
行数	64	フォントソース	内蔵メモリー
フォント番号	0	ポイントサイズ	12.00
フォントピッチ	10.00	シンボルセット	PC-8
クーリエフォント	レギュラー	A4サイズ最大幅印刷	しない
LF設定	LF=LF	白紙排紙	する

9 ■PS設定

ジョブタイムアウト	ドライバー/コマンド優先	ジョブタイムアウト時間（秒）	0
ウェイトタイムアウト	ドライバー/コマンド優先	ウェイトタイムアウト時間（秒）	300
両面印刷	しない	白紙排紙	する
データ形式	バイナリデータ	解像度	600dpi
最大領域印刷	しない	印刷方向自動検知	する

10 ■PDF設定

両面印刷	しない	白紙排紙	する
逆順印刷	しない	解像度	600dpi
最大領域印刷	しない	印刷方向自動検知	する

11 ■インターフェース設定

受信バッファ	128KB	I/F切り替え時間	15秒
DHCP	Off	IPv4アドレス	
サブネットマスク	255.255.255. 0	IPv4ｹﾞｰﾄｳｪｲｱﾄﾞﾚｽ	
IPv6ステートレス設定	有効	IPsec	無効
IPv4	有効	IPv6	無効
SMB	有効	AppleTalk	*無効
イーサネット速度	自動選択	イーサネット用IEEE 802.1X認証	無効
インターフェース選択	イーサネット	通信モード	インフラストラクチャーモード
SSID設定		アドホックチャンネル	11
通信速度	自動設定	セキュリティー方式選択	*WEP
WPA暗号方式	CCMP（AES）	WPA認証方式	WPA-PSK
USB速度	自動設定		

12 ■インターフェース情報

物理アドレス		ホスト名	
ワークグループ名（SMB）	WORKGROUP	ネットワークパス名（SMB）	
物理アドレス（無線LAN）			
無効インターフェース	なし		

13 ■ユーザー用紙種類

1: +ハガキ	厚紙1	2: +Custom 2	普通紙
3: +Custom 3	普通紙	4: +Custom 4	普通紙
5: +Custom 5	普通紙	6: +Custom 6	普通紙
7: +Custom 7	普通紙	8: +Custom 8	普通紙

BVN544

1. システム構成情報

本機のカウンター情報やバージョン情報、オプションの装着状況、搭載エミュレーション、プリンター言語の名称などが印刷されます。

2. 用紙設定

現在選択されている優先給紙トレイと各トレイにセットされている用紙のサイズと種類など用紙設定メニューの設定項目が印刷されます。

3. 調整／管理

濃度調整や印刷位置設定など、調整／管理メニューの設定項目が印刷されます。

4. システム設定

システム設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。

＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

5. 一般設定

一般設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。

＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

6. EM 設定

マルチエミュレーションカードが装着されているときの項目と設定値です。

＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

7. 登録プログラム一覧

登録されているプログラムのエミュレーションが印刷されます。

8. PCL 設定

PCL カードが装着されているときの項目と設定値です。

＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

9. PS 設定

PS3 カードが装着されているときの項目と設定値です。

＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

10. PDF 設定

PS3 カード、または PDF ダイレクトプリントカードが装着されているときの設定値です。

＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

11. インターフェース設定

インターフェース設定の項目と設定値です。

12. インターフェース情報

動作モードやプリンター名など、インターフェース設定の情報です。

13. ユーザー用紙種類

ユーザー用紙種類に登録されている用紙名称と用紙種類が印刷されます。

システム設定メニュー

システム設定メニューでは、本機を使用する上で基本的な動作に関わる設定を行うことができます。通常は工場出荷時の設定のままでご使用になれますが、お客様の環境に合わせて変更できます。変更したシステム設定の内容は電源を切っても保存されます。

システム設定メニューの設定項目

エラーレポート印刷

エミュレーションが RPCS、PCLXL、PS3 または PDF のとき、プリンター内部でのデータ処理中にエラーが発生した場合にエラーレポートを印刷するかしないかを設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

エラースキップ

プリンタードライバーから指示された紙サイズ・紙種が一致するトレイがなかった場合の本機の動作を設定します。

- しない

  プリンタードライバーから指示された紙サイズ・紙種のトレイがセットまたは設定されるまで印刷されません。

- 即時

  用紙サイズ・用紙種類が一致しない場合でもすぐに印刷します。

- 1 分

  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 1 分間表示し、その後印刷を実行します。

- 5 分

  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 5 分間表示し、その後印刷を実行します。

- 10 分

  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 10 分間表示し、その後印刷を実行します。

- 15 分

  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 15 分間表示し、その後印刷を実行します。

工場出荷時の設定：**しない**

画像エラー処理

送信されたデータサイズが大きく、プリンター内部で処理できない場合のプリンターの動作を設定します。

- ジョブリセット

  エラーが発生したページでジョブをリセットします。リセットされたページ以降は印刷されません。

- エラーシート印刷

  エラーが発生したページはエラー発生直前の画像まで印刷します。エラーが発生したページ以降は印刷されますが、電子ソートの指示は解除されます。ジョブの終わりにエラーシートを印刷します。エラーコードと、エラーによって出力結果が不完全になったページを最大16ページ分印刷します。

工場出荷時の設定：**ジョブリセット**

エラー表示設定

プリンター内部でのデータ処理中に発生したエラーをディスプレイに表示するかしないかを設定できます。

- 簡易表示
- すべて表示

工場出荷時の設定：**すべて表示**

補助用紙サイズ

A4とLetter（8 1/2" × 11"）の切り替えをするかどうかを設定します。

切替を行った場合、A4とLetter（8 1/2" × 11"）では最大印字領域が異なるので、それぞれの領域を越えた描画は、端部が切れたり、正常に印刷されなかったりします。

- 自動
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

省エネモード

本機の消費電力を節約する機能です。

- 移行設定

  省エネモードに移行するかしないかを選択できます。

  - 移行する
  - 移行しない

  工場出荷時の設定：**移行する**

- 移行時間

  省エネモードに移行する場合は、移行するまでの時間を設定します。ここで設定した時間の間本機を使用しないと、省エネモードに切り替わります。省エネモード中は本機の起動が遅くなり、印刷が始まるまで多少時間がかかります。

- 1 分
- 5 分
- 15 分
- 30 分
- 45 分
- 60 分

工場出荷時の設定：**15 分**

エミュレーション検知

本機に送られたデータを自動的に判断して、エミュレーションを決定することができます。対象となるのは PS3、PDF、R16、R55、PCL です。これら対象エミュレーションが 2 種類以上搭載されている場合に表示されます。それ以外のエミュレーションは、優先エミュレーションで設定されているエミュレーションになります。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

優先エミュレーション/プログラム

電源を入れたときに自動的に呼び出されるエミュレーションまたは登録されているプログラムを設定します。

「プログラム 1」～「プログラム 16」に設定すると、その数字と同じ登録番号のプログラムが呼び出されて本機が起動します。

- RPCS
- RPDL
- R98
- R16
- R55
- PS3
- PDF
- PCL
- PCLXL
- BMLinkS
- PictBridge
- プログラム：1～16

工場出荷時の設定：**RPCS**

優先メモリー

優先的に使用するメモリー内容を設定します。印刷する用紙サイズ、解像度、エミュレーションなどによって選択してください。

- ユーザーメモリー

  外字やフォントなどのデータを登録するためにメモリーが優先的に使用されます。

- ページメモリー

  印刷の高速化のためにフレームメモリーとして使用されます。

工場出荷時の設定：**ページメモリー**

白黒画像認識

白黒画像認識をするかしないかを選択します。白黒画像認識とは、印刷がカラー指定をされていても、すべてのページが白黒の原稿の場合は白黒モードで印刷できる機能です。

- ページごと
- 文書ごと

工場出荷時の設定：**ページごと**

スプール印刷

スプール印刷をするかどうかを設定します。スプール印刷とは、パソコンから転送されるプリントジョブを一時的に本機に蓄積し、印刷する機能です。

拡張 HDD を装着時にのみ表示されます。

［する］を選択すると、最初の印刷に時間がかかります。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

RAM ディスク

拡張 HDD を装着していないときのみ表示されます。

PDF ダイレクトプリントをする場合で、拡張 HDD を装着していないときに指定します。2MB 以上の値を指定してください。

- 0MB
- 2MB
- 4MB
- 8MB
- 16MB

工場出荷時の設定：**4MB**

自動メール通知

本機でエラーが発生したときに、エラーの詳細情報を指定したメールアドレスに通知するかどうかを指定します。

設定を変更したときは、いったん電源を OFF にし、あらためて電源を ON にしてください。

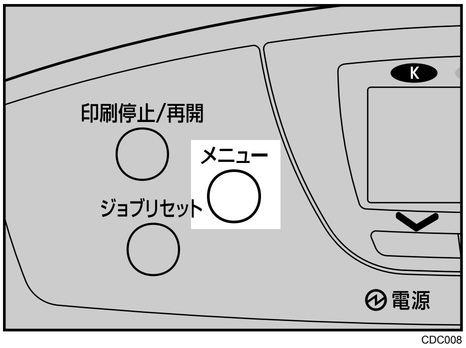
- する
- しない

工場出荷時の設定：**する**

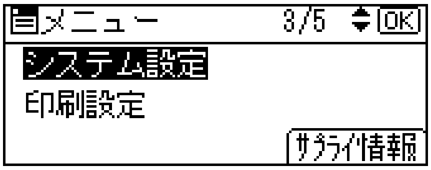
システム設定メニューの設定を変更する

システム設定メニュー「省エネモード」の変更方法を、例として説明します。

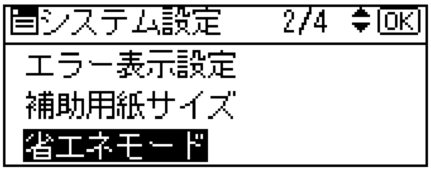
1. 操作部の［メニュー］キーを押します。



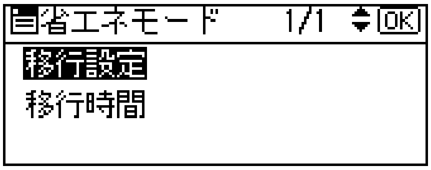
2.［▼］［▲］キーを押して、［システム設定］を選択し、［OK］キーを押します。



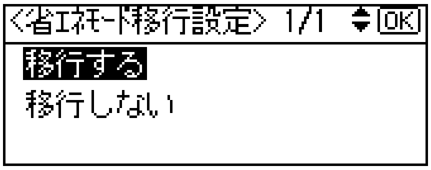
3.［▼］［▲］キーを押して、［省エネモード］を選択し、［OK］キーを押します。



4. [▼] [▲] キーを押して設定を変更する項目を選択し、[OK] キーを押します。



5. [▼] [▲] キーを押して変更する設定値を選択し、[OK] キーを押します。



6. [メニュー] キーを押します。

印刷設定メニュー

印刷を行うときの印刷条件を設定します。

印刷設定メニューの設定項目

一般設定

印刷枚数設定

PCL カード、 PS3 カード、 PDF ダイレクトプリントカードのいずれかが装着されているときのメニュー項目です。印刷枚数を 1～999 枚の間で設定できます。プリンタードライバーで印刷部数を指定した場合は、プリンタードライバーの設定が有効になります。

工場出荷時の設定：**1**

5

180 度回転

180 度回転印刷をするかしないかを設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

レターヘッド紙使用設定

レターヘッド紙印刷を行うかどうかを設定します。

レターヘッド紙印刷を行うと、両面印刷のとき、奇数ページジョブの最終ページが両面印刷されます。

両面印刷ができない紙サイズの場合、両面印刷は解除されます。

両面印刷を許可しているトレイからソート印刷をすると、1 部目と 2 部目以降で印刷面が異なる場合があります。印刷する面をすべて同一にしたいときは、両面印刷を禁止しているトレイから給紙してください。

レターヘッド紙を使用するときは用紙のセット方向に注意が必要です。

- 使用しない

  レターヘッド紙印刷を行いません。
- 使用する（自動判定）

  レターヘッド紙が指定されたときに行います。
- 使用する（常時）

  常にレターヘッド紙印刷を行います。

工場出荷時の設定：**使用しない**

手差しトレイ設定選択

手差しトレイの用紙設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

- ドライバー/コマンド優先

  給紙トレイを指定して印刷する場合、本機に設定されている用紙設定にかかわらず、プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定を適用して印刷します。

- 機器側設定優先

  本機に設定されている用紙設定で印刷します。プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定と本機の用紙設定が一致しない場合は、エラーになります。

工場出荷時の設定：**ドライバー/コマンド優先**

トレイ指定時動作切り替え

プリンタードライバーから給紙トレイを指定して用紙サイズ・用紙種類を指示した際に、指定した給紙トレイに指示した条件の用紙がなかった場合、自動用紙選択をするかどうかを設定します。

PCL カード、PS3 カード、PDF ダイレクトプリントカードのいずれかが装着されているときのみ設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

拡張リミットレス給紙

自動用紙選択ではなく、給紙トレイ指定時でもリミットレス給紙をするように設定します。

- する

  ［する］を選択したときは、プリンタードライバーや印刷条件の［リミットレス給紙］の設定に関係なく、リミットレス給紙機能が有効になります。

- しない

工場出荷時の設定：**しない**

システム設定（EM）

マルチエミュレーションカードが装着されているときのメニュー項目です。

RPDL、R16、R55、R98 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

白紙排紙

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定できます。

- する
- スペース

  排紙コマンドの前にスペースコード（20H、A0H、8140H）があるときは排紙します。
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

用紙なしエラー

現在選択されているトレイに用紙がセットされていないときのデータ受信を停止するタイミングを設定します。[印刷実行時］に設定すると用紙がセットされていなくても、データ受信は可能です。[用紙なし時］に設定すると用紙がセットされていないときはデータ受信できません。

- 印刷実行時

  用紙がセットされていなくても、データ受信は可能です。
- 用紙なし時

  用紙がセットされていないときはデータ受信できません。

工場出荷時の設定：**印刷実行時**

自動排紙時間

一定時間パソコンからデータが送信されない場合に本機内にあるデータを強制的に印刷するかどうかを設定します。「自動排紙しない」に設定するとデータは自動的には印刷されません。自動的に印刷させる場合は、データが送信されなくなってから強制的に印刷するまでの時間を設定します。設定された時間が経過すると送信されてきたデータが 1 ページの途中までであっても強制的に印刷されるため、適切な時間を設定することが重要です。

- 自動排紙しない
- 10 秒
- 15 秒
- 20 秒
- 25 秒
- 60 秒
- 300 秒

工場出荷時の設定：**自動排紙しない**

マクロキャッシュ

プリンター言語モジュールがマクロキャッシュとして使用するメモリの上限を設定します。

- マクロ無し
- マクロ 2.1MB

- マクロ 4.3MB
- マクロ 8.4MB

工場出荷時の設定：**マクロ無し**

PCL 設定

PCL カードが装着されているときのメニュー項目です。エミュレーションの［PCL］または［PCLXL］を呼び出しているときのみ設定できます。

用紙サイズ

- A4
- B5
- A5
- B6
- A6
- 8 $^{1}/_{2}$×14
- 8 $^{1}/_{2}$×11
- 5 $^{1}/_{2}$×8$^{1}/_{2}$
- 往復ハガキ
- ハガキ
- 不定形サイズ

工場出荷時の設定：**A4**

最大領域印刷

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

両面印刷

- しない
- 長辺
- 短辺

工場出荷時の設定：**しない**

印刷方向

- タテ
- ヨコ

工場出荷時の設定：**タテ**

行数

5 〜 128 行まで 1 行ごとに設定できます。

工場出荷時の設定：**64**

フォントソース

- 内蔵メモリー
- RAM
- HDD
- SD Font Download

工場出荷時の設定：**内蔵メモリー**

フォント番号

フォント読込先のフォント番号を指定します。フォントソースが内蔵メモリーのときは 0 ～ 63 の間で設定できます。

フォントソースが内蔵メモリーのときの初期値は 0 で、その他のときの初期値は 1 です。

工場出荷時の設定：**0**

ポイントサイズ

フォントサイズを設定します。4 ～999.75（0.25 ごと）の間で設定できます。

工場出荷時の設定：**12.00**

フォントピッチ

文字間を設定します。0.44～ 99.99（0.01 ごと）の間で設定できます。

工場出荷時の設定：**10.00**

シンボルセット

- Roman-8
- ISO L1
- ISO L2
- ISO L5
- PC-8
- PC-8 D/N
- PC-850
- PC-852
- PC8-TK
- Win L1
- Win L2
- Win L5
- Desktop
- PS Text

- VN Intl
- VN US
- MS Publ
- Math-8
- PS Math
- VN Math
- Pifont
- Legal
- ISO 4
- ISO 6
- ISO 11
- ISO 15
- ISO 17
- ISO 21
- ISO 60
- ISO 69
- Win 3.0

工場出荷時の設定：**PC-8**

クーリエフォント

- レギュラー
- ダーク

工場出荷時の設定：**レギュラー**

A4 サイズ最大幅印刷

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

LF 設定

- LF=CR+LF
- LF=LF

工場出荷時の設定：**LF=LF**

解像度

- 300 dpi
- 600 dpi

工場出荷時の設定：**600 dpi**

白紙排紙

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する**

PS 設定

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。エミュレーションの［PS3］を呼び出しているときのみ設定できます。

ジョブタイムアウト

ジョブが中断した場合に、現在のジョブを中止するまでの本機の待機時間を設定します。（秒単位）

［0］に設定した場合、ジョブタイムアウトは行われません。

- ドライバー/コマンド優先
- 機器側設定優先

  ［機器測定優先］を選択した場合、0～999 の値を入力します。工場出荷時は、0 に設定されています。

工場出荷時の設定：**ドライバー/コマンド優先**

ウェイトタイムアウト

本機がジョブ終了を検知できない場合に、ジョブ受信を中止するまでの本機の待機時間を設定します。

［0］に設定した場合、ウェイトタイムアウトは行われません。

- ドライバー/コマンド優先
- 機器側設定優先

  ［機器測定優先］を選択した場合、0～999 の値を入力します。工場出荷時は、300 に設定されています。

工場出荷時の設定：**ドライバー/コマンド優先**

両面印刷

両面印刷の実行の有無、または方向を設定します。

- しない
- 長辺
- 短辺

工場出荷時の設定：**しない**

白紙排紙

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定できます。

- する

- しない

工場出荷時の設定：**する**

データ形式

データ形式を設定します。

- バイナリーデータ
- TBCP

工場出荷時の設定：**バイナリーデータ**

解像度

解像度を設定します。

- 600 dpi 2 階調
- 600 dpi 標準
- 1200 dpi

工場出荷時の設定：**600 dpi 2 階調**

RGB 補正

RGB 補正を設定します。

- しない
- 精密（ふつう）
- 精密（濃いめ）

工場出荷時の設定：**精密（濃いめ）**

カラープロファイル

カラープロファイルを設定します。

- 自動
- ビジネス
- ベタ
- フォト
- ユーザー設定

工場出荷時の設定：**自動**

プロセスカラーモデル

プロセスカラーモデルを設定します。

- カラー
- 白黒

工場出荷時の設定：**カラー**

最大領域印刷

用紙サイズいっぱいに印刷するかしないかを設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

グレー印刷方式

黒またはグレー部分の印刷方法を指定します。

- 黒とグレーは K で印刷

  黒あるいはグレーのテキストと画像を黒 1 色で印刷します。CMYK（シアン、マゼンタ、イエロー、黒）4 色で印刷した場合よりも黒色が均一で濃くなります。

- 黒は K で印刷

  黒色のテキストと画像を黒 1 色で印刷します。

- CMYK4 色で印刷

  CMYK（シアン、マゼンタ、イエロー、黒）4 色で印刷します。

- 黒とグレーは K で印刷（文字のみ）

  黒あるいはグレーのテキストのみを黒 1 色で印刷します。

- 黒は K で印刷（文字のみ）

  黒色のテキストのみを黒 1 色で印刷します。

工場出荷時の設定：**黒とグレーは K で印刷**

PDF 設定

PS3 カード、または PDF ダイレクトプリントカードが装着されているときのメニュー項目です。エミュレーションの［PDF］を呼び出しているときのみ設定できます。

PDF パスワード変更

印刷する PDF ファイルに設定されたパスワードを本機に設定したり、変更したりします。

PDF グループパスワード

Ridoc Desk Navigator で設定したグループパスワードを設定します。

両面印刷

両面印刷をするかしないかを設定できます。する場合はその方向を設定します。

- しない
- 長辺
- 短辺

工場出荷時の設定：**しない**

白紙排紙

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する**

解像度

解像度を設定します。

- 600 dpi 2 階調
- 600 dpi 標準
- 1200dpi

工場出荷時の設定：**600 dpi 2 階調**

RGB 補正

RGB 補正を設定します。

- しない
- 精密（ふつう）
- 精密（濃いめ）

工場出荷時の設定：**精密（濃いめ）**

カラープロファイル

カラープロファイルを設定します。

- 自動
- ビジネス
- ベタ
- フォト
- ユーザー設定

工場出荷時の設定：**自動**

プロセスカラーモデル

プロセスカラーモデルを設定します。

- カラー
- 白黒

工場出荷時の設定：**カラー**

最大領域印刷

用紙サイズいっぱいに印刷するかしないかを設定できます。

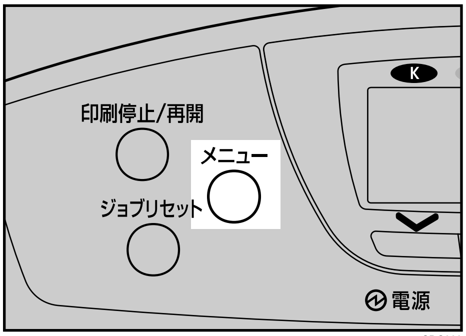
- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

印刷設定メニューの設定を変更する

印刷設定メニュー「180 度回転」を有効に設定する方法を、例として説明します。

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

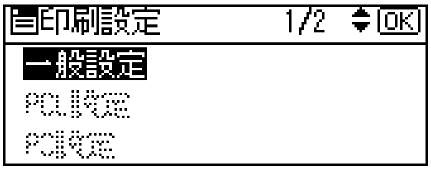


CDC008

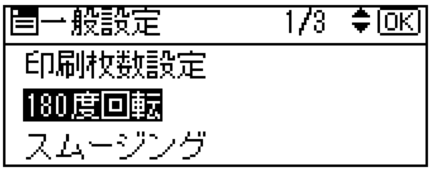
2. ［▼］［▲］キーを押して、［印刷設定］を選択し、［OK］キーを押します。



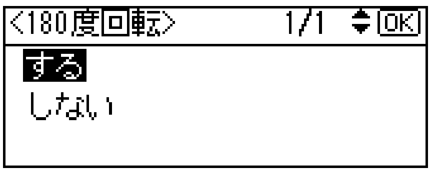
3. ［▼］［▲］キーを押して、［一般設定］を選択し、［OK］キーを押します。



4. ［▼］［▲］キーを押して、［180 度回転］を選択し、［OK］キーを押します。



5. ［▼］［▲］キーを押して［する］を選択し、［OK］キーを押します。



6. ［メニュー］キーを押します。

セキュリティー管理メニュー

セキュリティーに関する設定を行います。表示条件や操作権限など、詳しくは管理者にお問い合わせください。

セキュリティー管理メニューの設定項目

セキュリティー強化

ドライバー暗号鍵

ユーザー認証を設定しているときに送信するパスワードの暗号化を行います。ドライバー暗号鍵を設定する場合は本機で設定した暗号鍵を印刷するドライバーに入力してください。パスワードの暗号化を行います。

アドレス帳暗号化

アドレス帳の暗号化をするかしないかを設定できます。する場合は暗号鍵を設定します。

本機のアドレス帳情報を暗号化します。内部の部品が流出したときにも暗号化によりアドレス帳の情報を読み取ることはできません。

- する

  ［暗号鍵］を押し、暗号鍵を設定します。

- しない

工場出荷時の設定：**しない**

個人情報表示制限

ユーザー認証を設定しているときに設定することができます。

個人認証ができない接続方法でジョブ履歴を確認する際に、個人情報を全て「********」表示にすることができます。登録者の情報がわからないため、不特定のユーザーに登録した文書の情報が漏れることを防ぐことができます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

文書保護強化

パスワード設定によって、文書の印刷や消去などの操作が制限され、不特定の人による文書アクセスが避けられます。文書保護強化を設定した場合、誤ったパスワードを 10 回入力すると文書はロックされ、アクセスできなくなります。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

5

SNMPv1、v2による設定

SNMPv1、v2を使った設定を禁止するかしないかを設定できます。

- 禁止する
- 禁止しない

工場出荷時の設定：**禁止しない**

簡易暗号化使用制限

高度な暗号化が設定できないときに、簡易暗号化処理（利用制限）を行います。

- 制限する
- 制限しない

工場出荷時の設定：**しない**

実行中ジョブへの認証の実施

ジョブキャンセル等の操作に認証を必要とするかしないかを設定できます。

［ログイン権限］に設定すると認証の許可があるユーザー、および機器管理者が操作可能です。

［アクセス権限］に設定すると印刷を行ったユーザー、および機器管理者が操作可能です。

- ログイン権限
- アクセス権限
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

パスワードポリシー

ベーシック認証が設定されている場合に設定できます。

- 複雑さ設定

  複雑度1：英大文字、英小文字、10進数の数字、記号（#など）から2種類以上を組み合わせてパスワードを設定します。

  複雑度2：英大文字、英小文字、10進数の数字、記号（#など）から3種類以上を組み合わせてパスワードを設定します。

  工場出荷時の設定：**制限しない**

- 最小文字数（0〜32）

  文字数を制限しない場合は［0］を入力します。

@Remoteサービス

@RemoteサービスのためのHTTPS通信を禁止するかしないかを設定できます。禁止する場合は、サービス実施店にご相談ください。

- 禁止する
- 禁止しない

工場出荷時の設定：**禁止しない**

ファームウェアアップデート

ファームウェアのアップデートを禁止するかしないかを設定できます。

- 禁止する
- 禁止しない

工場出荷時の設定：**禁止しない**

構成変更

ファームウェアの構成変更を禁止するかしないかを設定できます。

- 禁止する
- 禁止しない

工場出荷時の設定：**禁止しない**

サービスモード移行禁止設定

サービスモードへの移行を禁止するかしないかを設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

ファームウェアバージョン表示

本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

ネットワークセキュリティーレベル

ネットワークセキュリティーのレベルを選択します。

- レベル 0
- レベル 1
- レベル 2

補足

- ネットワークセキュリティーレベルは、工場出荷時には設定されていません。

メモリー自動消去設定

セキュリティーカードが装着されているときのメニュー項目です。メモリーの自動消去をするかしないかを設定できます。する場合は消去方式と上書き回数を設定します。

- する

  消去方式

  - NSA 方式
  - DoD 方式
  - 乱数方式

上書き回数（1~9 回の範囲で設定）

- しない

工場出荷時の設定：**しない**

メモリー全消去

セキュリティーカードが装着されているときのメニュー項目です。メモリー内のデータをすべて消去します。消去方式を選択し、上書き回数を設定します。

- 消去方式
    - NSA 方式
    - DoD 方式
    - 乱数方式

      上書き回数（1~9 回の範囲で設定）

工場出荷時の設定：**乱数方式**

拡張認証管理

個人認証システム装着時に表示されます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

ログ転送設定

ログの転送をするかしないかを設定できます。

- する（ログ収集サーバーからのみ設定可能）
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

機器データ暗号化設定

蓄積文書暗号化カードを装着し、機器管理者でログインしたときのメニュー項目です。拡張 HDD のデータを暗号化します。データを暗号化した場合、操作部の画面に以下のメニューが表示されます。

- 機器データ暗号鍵更新

  暗号鍵を更新します。

- 暗号化解除

  暗号設定を解除します。

- 機器データ暗号鍵印刷

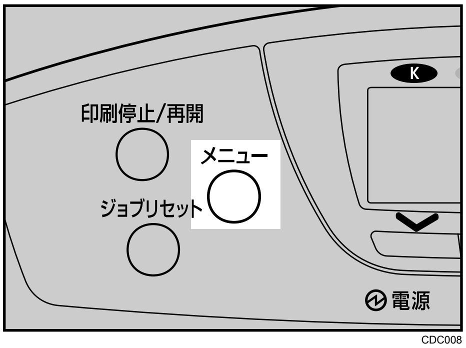
  暗号鍵を印刷します。

工場出荷時の設定：**機器データ暗号鍵更新**

セキュリティー管理メニューの設定を変更する

セキュリティー管理メニュー［簡易暗号化使用制限］の初回設定方法を例として説明します。

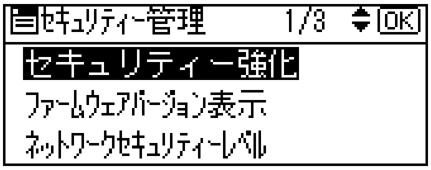
1. 操作部の［メニュー］キーを押します。



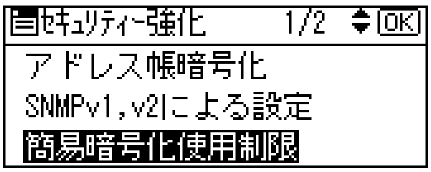
2. ［▼］［▲］キーを押して、［セキュリティー管理］を選択し、［OK］キーを押します。



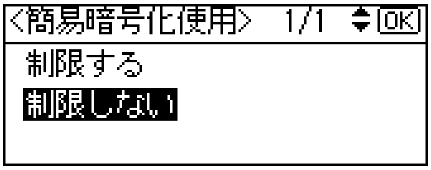
3. ［▼］［▲］キーを押して、［セキュリティー強化］を選択し、［OK］キーを押します。



4. ［▼］［▲］キーを押して、［簡易暗号化使用制限］を選択し、［OK］キーを押します。



5. [▼] [▲] キーを押して、[制限する] または [制限しない] を選択し、[OK] キーを押します。



6. [メニュー] キーを押します。

インターフェース設定メニュー

インターフェース設定メニューでは、ネットワーク接続に関する設定とパソコンと本機をパラレルで接続している場合の通信に関する設定を行います。変更したインターフェース設定の内容は電源を切っても保持されます。

インターフェース設定メニューの設定項目

受信バッファ

受信バッファのメモリーサイズを設定します。通常は変更する必要はありません。

- 128KB
- 256KB

工場出荷時の設定：**128KB**

インターフェース切り替え時間

現在のインターフェースからデータが送信されてこなくなってから、そのインターフェースを有効にしておく時間を設定します。ここで設定した時間を超えるとほかのインターフェースからのデータの受信が可能になります。

設定時間が短すぎると1つのデータを受信中にタイムアウトになってしまうことがあります。その結果、ほかのインターフェースからのデータが割り込んで印刷されたり、データの途中からエミュレーション検知が働いて、違うエミュレーションに切り替わったり、印刷を中止したデータが途中から印刷されたりします。

- 10 秒
- 15 秒
- 20 秒
- 25 秒
- 60 秒

工場出荷時の設定：**15 秒**

ネットワーク設定

ネットワーク環境に本機を接続して印刷するための設定をします。詳しい各項目の設定方法については、『ハードウェアガイド』「インターフェース設定」を参照してください。

- 本体 IPv4 アドレス
    - 自動的に取得（DHCP）

      On

      Off

      工場出荷時の設定：**Off**

        - 指定

          IP アドレス

          サブネットマスク

          ゲートウェイ

- IPv6 ステートレス設定
    - 有効
    - 無効

  工場出荷時の設定：**有効**

- IPsec
    - 有効
    - 無効

  工場出荷時の設定：**無効**

- 有効プロトコル
    - IPv4

      有効

      無効

      工場出荷時の設定：**有効**

    - IPv6

      有効

      無効

      工場出荷時の設定：**無効**

    - SMB

      有効

      無効

      工場出荷時の設定：**有効**

    - AppleTalk

      有効

      無効

      工場出荷時の設定：**有効**

      ［AppleTalk］は、PS3 カードまたは PDF ダイレクトプリントカードを装着しているときに表示されます。

- イーサネット速度

  イーサネットボードを使ってネットワーク通信するときの通信速度を選択することができます。

    - 自動設定
    - 10Mbps 半二重固定
    - 10Mbps 全二重固定
    - 100Mbps 半二重固定
    - 100Mbps 全二重固定

  工場出荷時の設定：**自動設定**

- イーサネット用 IEEE 802.1X 認証

  イーサネット用の IEEE 802.1X 認証を設定します。

    - 有効
    - 無効

  工場出荷時の設定：**無効**

  IEEE 802.1X 認証については『ハードウェアガイド』「インターフェース設定」を参照してください。

- IEEE 802.1X 認証初期化

  IEEE 802.1X 認証の設定値を初期化します。

- インターフェース選択
    - イーサネット
    - 無線 LAN

    工場出荷時の設定：**イーサネット**

    補足

      - インターフェース選択は、拡張無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。

パラレルインターフェース設定

パソコンと本機をパラレルで接続している場合の通信に関する設定を行います。拡張1284 ボード装着時に表示されます。

- パラレルタイミング

  パラレルインターフェースのタイミングを設定します。

    - ACK inside
    - ACK outside
    - STB down

  工場出荷時の設定：ACK outside

- パラレル通信速度

  パラレル通信で DMA 転送を使用して受信を行うかどうかを設定します。

    - 高速

5

- 標準

工場出荷時の設定：**高速**

- セレクト状態

パラレルインターフェースのセレクト信号のレベルを設定します。

- HIGH
- LOW

工場出荷時の設定：HIGH

- インプットプライム

インプットプライム信号が送られてきたとき、プライム信号を有効にするかどうかを設定します。通常は変更する必要はありません。

- 有効
- 無効

工場出荷時の設定：**無効**

- 双方向通信

パラレルインターフェースで使用しているとき、状態取得要求に対するプリンターの返答モードを設定します。市販のプリントボックスなどに接続して問題が発生したときは、[OFF] に設定します。

- ON
- OFF

工場出荷時の設定：ON

無線 LAN 設定

無線 LAN を使用するときに必要な項目を設定します。拡張無線 LAN ボード装着時に表示されます。

通信モード

無線 LAN の通信モードを設定します。

通信モードは、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。

- 802.11　アドホックモード
- インフラストラクチャーモード

工場出荷時の設定：**インフラストラクチャーモード**

SSID 設定

SSID を設定します。設定した SSID を確認することもできます。

SSID で使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 文字列 0x20～0x7e）で 32 バイトまでです。大文字と小文字も区別されます。

SSID は、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。

アドホックチャネル

アドホックモード選択時に使用するチャネルを設定します。使用できるチャネルは、以下のとおりです。

- IEEE 802.11a：

  36、40、44、48

- IEEE 802.11b/g：

  1〜14

セキュリティー方式選択

無線 LAN の暗号化をするかしないかを設定できます。する場合はその方式を選択し、キーを設定します。

- しない
- WEP

  ［詳細設定］キーを押し、WEP キーを入力します。WEP キーは、16 進数または ASCII 文字列で入力します。

  64bit WEP を使用する場合、16 進数では 10 桁、ASCII 文字列では 5 桁の文字列が使用できます。128bit WEP を使用する場合、16 進数では 26 桁、ASCII 文字列では 13 桁の文字列が使用できます。

  WEP キーは、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。

- WPA

  WPA は、［通信モード］で［インフラストラクチャーモード］を選択したときに設定できます。

  ［詳細設定］キーを押し、暗号方式または認証方式を選択します。

  暗号方式：TKIP/CCMP（AES）

  認証方式：WPA-PSK/WPA/WPA2-PSK/WPA2

  補足

  - ［WPA-PSK］または［WPA2-PSK］を選択した場合は、PSK を半角英数字 8-63 文字の範囲で入力します。
  - ［WPA］または［WPA2］を選択した場合は、認証方式や機器証明書の導入などの設定が必要です。詳細は、『ハードウェアガイド』「IEEE 802.1X (WPA/WPA2)を設定する」を参照してください。

工場出荷時の設定：**しない**

電波状態

無線 LAN の電波状態を確認します。

設定値初期化

無線 LAN の設定を初期化します。

5

USB 設定

USB の速度設定を選択します。

- USB 速度
    - 自動設定
    - フルスピード

  工場出荷時の設定：**自動設定**

- USB ポート固定
    - する
    - しない

  工場出荷時の設定：**しない**

補足

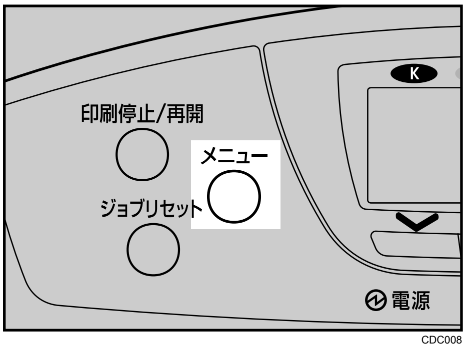
- Web Image Monitor からの設定方法について詳しくは P.207「Web ブラウザーを使う」、および Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

5

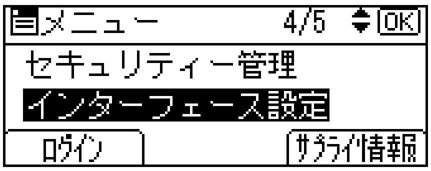
インターフェース設定メニューの設定を変更する

インターフェース設定メニュー［ネットワーク設定］で、IPv4 アドレスを自動的に取得する（DHCP）ように変更する方法を、例として説明します。

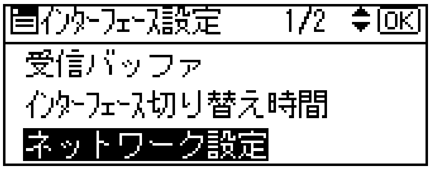
1. 操作部の［メニュー］キーを押します



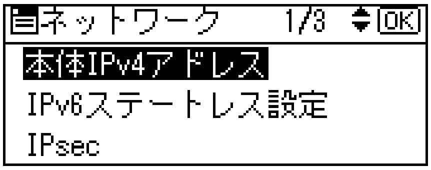
2. ［▼］［▲］キーを押して、［インターフェース設定］を選択し、［OK］キーを押します。



3. [▼] [▲] キーを押して、[ネットワーク設定] を選択し、[OK] キーを押します。



4. [▼] [▲] キーを押して [本体 IPv4 アドレス] を選択し、[OK] キーを押します。



5. [▼] [▲] キーを押して [自動的に取得 (DHCP)] を選択し、[OK] キーを押します。



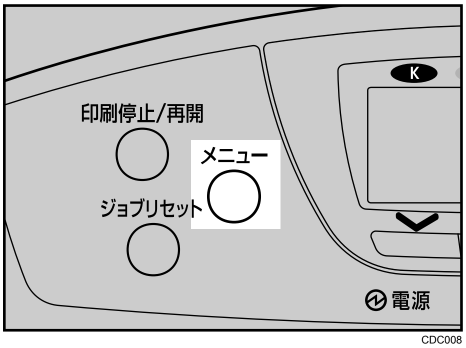
6. [メニュー] キーを押します。

表示言語切替

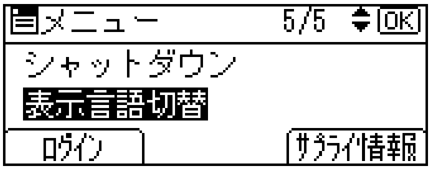
操作部の画面に表示する言語として、日本語と英語を選択できます。工場出荷時は、**日本語**に設定されています。

ここでは、日本語から英語に切り替える場合を例に説明します。

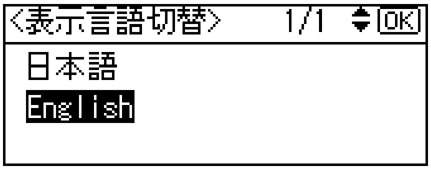
1. 操作部の［メニュー］キーを押します。



2. ［▼］［▲］キーを押して［表示言語切替］を選択し、［OK］キーを押します。



3. ［▼］［▲］キーを押して［English］を選択し、［OK］キーを押します。



4. ［メニュー］キーを押します。

補助メニュー

補助メニューでは、強制排紙やエラー履歴、エミュレーションの設定などを行うことができます。ここでは設定可能なメニューと項目の一覧を説明します。

補助メニューの項目

強制排紙

改行コードがないなどの理由で印刷できないデータを印刷します。

エラー履歴表示

エラーなどにより文書を印刷できなかった場合は、エラーの履歴が残り、操作部で確認することができます。

- すべて
- 試し印刷文書
- 機密印刷文書
- 保留印刷文書
- 保存文書

給紙トレイ

印刷する給紙トレイを切り替えます。

- トレイ 1
- トレイ 2
- トレイ 3
- トレイ 4
- 手差しトレイ

工場出荷時の設定：**トレイ 1**

補足

- RPDL、R16、R55、R98 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。
- 詳しくは各エミュレーションの使用説明書を参照してください。
- 本機に装着されているトレイが画面に表示されます。

エミュレーション呼び出し

エミュレーションやプログラムを切り替えるときに使用します。

- RPCS
- RPDL

- R98
- R16
- R55
- PS3
- PDF
- PCL
- PCLXL
- BMLinkS
- PictBridge
- プログラム：1～16

工場出荷時の設定：**RPCS**

補足

- 搭載されているエミュレーションか登録されているプログラムを選択できます。
- 詳しくは各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

印刷条件

アプリケーションやパソコンに合わせて印刷条件を設定します。

補足

- RPDL、R16、R55、R98 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。
- 詳しくは各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

プログラム登録／消去

設定した印刷条件を登録します。

- プログラム登録
- プログラム消去
- プログラム内容印刷

補足

- RPDL、R16、R55、R98 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。
- 詳しくは各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

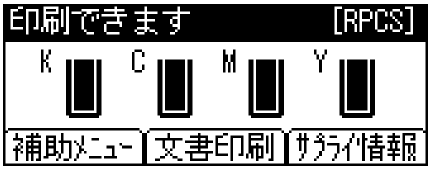
エラー履歴を確認する

エラーなどにより文書を印刷できなかった場合は、エラー履歴が残り、操作部で確認することができます。

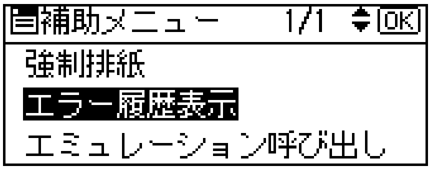
重要

- エラー履歴には最新の 30 件が蓄積されます。すでに 30 件が蓄積されているときに新たなエラーが加わると、最も古い履歴が消去されます。ただし最も古い履歴が次の文書の場合は消去されずに、蓄積エラーとして 30 件まで別に蓄積されます。エラー履歴として、どちらの履歴も確認することができます。
    - 試し印刷文書
    - 機密印刷文書
    - 保留印刷文書
    - 保存文書
- 本体の電源を「Off」にすると、それまでの履歴は消去されます。

1. [補助メニュー] を押します。

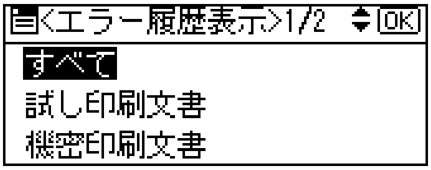


2. [▼] [▲] キーを押して [エラー履歴表示] を選択し、[OK] キーを押します。

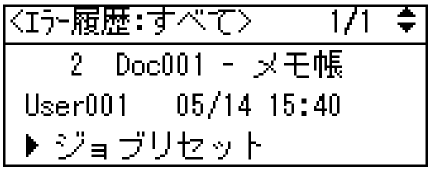


セキュリティーの設定によっては、すべてのエラー履歴が表示されない場合があります。

3. [▼] [▲] キーを押してエラー履歴の種類を選択し、[OK] キーを押します。



4. [▼] [▲] キーを押して確認したいエラー履歴を選択し、[戻る] キーを押します。



確認し終わったら [メニュー] キーを押します。

5

6. 機器の監視

Web ブラウザーやソフトウェアを使った、機器の監視や設定について説明します。

Web ブラウザーを使う

Web ブラウザーを使って、本機の状態を確認したり、本機のネットワークに関する設定を変更することができます。この機能を Web Image Monitor といいます。

Web Image Monitor について

Web Image Monitor は、離れた場所にある機器の状態確認や設定変更を、ネットワークを介したパソコンの Web ブラウザー上からできる機能です。

どんなことができるのか？

Web Image Monitor では以下の操作ができます。

- 機器の状態／設定の表示
- ジョブの状態／履歴の確認
- 印刷中ジョブの中止
- 本機のリセット
- アドレス帳の管理
- 本機の各種設定
- メール通知機能の設定
- ネットワークプロトコルに関する設定
- セキュリティーの設定

本機の環境設定

この機能は TCP/IP プロトコルを使って動作します。Web Image Monitor を使用する場合は、本機で TCP/IP プロトコルの設定を行ってください。TCP/IP の設定が正しく行われると、この機能は自動的に有効になります。

推奨ブラウザー

- Windows 環境：

  Internet Explorer 5.5 SP2 以降

  Firefox 1.0 以降

- Macintosh 環境：

  Firefox 1.0 以降

  Safari 1.0、1.2、2.0（412.2）以降

また、Web Image Monitor はスクリーンリーダーに対応しています。 推奨するアプリケーションと動作環境は次のとおりです。

- 推奨するアプリケーション

  95Reader Ver.6.0 (XPReader) 以降

- 動作環境

  Windows 環境：Microsoft Internet Explorer 5.5 SP2 以降

補足

- Mac OS X 10.4.1 の Safari には対応しておりません。
- 使用するブラウザーのバージョンが推奨ブラウザーより低い場合や、使用するブラウザーの設定で、「JavaScript」、「Cookie の使用許可」が有効になっていない場合は、表示や操作に不具合が生じる場合があります。
- プロキシサーバーをご使用の場合、本機との接続にプロキシサーバーを経由しない設定にしてください。詳しくは管理者に確認してください。
- ブラウザーの［戻る］で前のページに戻れないことがあります。そのときはブラウザーの［更新］または［再読み込み］をクリックしてください。
- Web Image Monitor で取得できる情報は、自動的に更新されません。情報を更新する場合は、Web Image Monitor のワークエリアに表示された［最新の情報に更新］をクリックしてください。
- Firefox をご使用の場合、テーブルがくずれる、フォントや色が異なるなどの可能性があります。
- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。
- Internet Explorer 8 を使用しているとき、ダウンロードに時間がかかることがあります。本体の URL を［インターネットオプション］から信頼済みサイトとして登録し、サイトの SmartScreen フィルター機能を無効にしてください。Internet Explorer 8 の設定について詳しくは、Internet Explorer 8 のヘルプを参照してください。
- Web ブラウザーに表示される URL をブックマーク登録すると、Web Image Monitor 画面をすぐに呼び出すことができます。登録する際は、ログイン前のトップページ画面で行ってください。ログイン後のトップページ画面で登録した場合は、正しく表示されません。

トップページを表示する

1. Web ブラウザーを起動します。

2. Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス、またはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。

DNS サーバー、WINS サーバーを使用し、本機のホスト名が設定されている場合、ホスト名を入力することができます。

サーバー証明を発行し、SSL（暗号化通信）の設定をしている場合は、「https://（本機の IP アドレス、またはホスト名）/」と入力します。



1. **ヘッダーエリア**

   ヘルプ、RICOH Homepage へのリンクや、キーワード検索用のダイアログが表示されます。

2. **メニューエリア**

   ゲストモードと管理者モードとの切り替えのためのログイン/ログアウトボタンが表示され、それぞれのモードのメニュー項目が表示されます。

   メニュー項目を選択すると、その内容をワークエリアに表示、またはサブメニューを表示します。

3. **ヘルプ**

   ヘルプファイルを閲覧したり、ダウンロードしたりすることができます。

4. **ワークエリア**

   トップページでは、現在の機器の状態を表示します。

   また、メニューエリアで選択された項目の内容を表示します。

   ワークエリア内の情報は自動的に更新されません。情報を更新したい場合は、同エリア右上の［最新の情報に更新］をクリックしてください。なお、Web ブラウザー画面全体を更新したい場合は、ブラウザーの［更新］をクリックしてください。

補足

- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。

6

ユーザー認証が設定されているとき

Web Image Monitorからのログインのしかた

ユーザー認証が設定されているときにWeb Image Monitorからログインします。

1.［ログイン］をクリックします。

2. ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

補足

- ユーザーコード認証のときは、ユーザー名にユーザーコードを入力して、［OK］をクリックします。
- お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。

Web Image Monitorからのログアウトのしかた

ユーザー認証が設定されているときにWeb Image Monitorからログアウトするときは、［ログアウト］をクリックします。

補足

- ログインをした場合、操作が完了したら、必ず［ログアウト］をクリックしてログアウトしてください。

メニュー構成とモード

Web Image Monitorには、ゲストモードと管理者としてログインする管理者モードがあり、表示されるメニューが異なります。

ゲストモード

ゲストモードでは、機器の状態や設定、ジョブの状態などを表示できます。ただし、機器に関する設定を変更することはできません。



1. ホーム

給紙トレイ、排紙トレイとトナー残量の状態表示、本機の機能、システム情報とカウンターの表示、および搭載されているエミュレーションが表示されます。

2. プリンター文書印刷

試し印刷文書／機密印刷文書／保留印刷文書／保存文書の一覧が表示されます。

3. プリンターフォーム一覧

イメージオーバーレイフォームの一覧が表示されます。

4. ジョブ

スプール印刷ジョブ、ジョブ履歴、エラー履歴の一覧表示、および試し印刷／機密印刷の一覧表示ができます。

5. 設定

現在の本機の設定内容およびネットワーク設定の内容が表示されます。

また、ヘルプファイルのダウンロードをすることができます。

管理者モード

管理者としてログインする管理者モードでは、機器に関する各種の設定ができます。



1. **ホーム**

［状態］タブ、［消耗品］タブ、［構成］タブ、［カウンター］タブが表示され、ワークエリアに各タブの詳細情報が表示されます。

6

2. **プリンター文書印刷**

試し印刷文書／機密印刷文書／保留印刷文書／保存文書の一覧が表示されます。

3. **プリンターフォーム一覧**

イメージオーバーレイフォームの一覧が表示されます。

4. **ジョブ**

各ジョブの一覧を表示することができます。

5. **アドレス帳**

本機を利用するユーザー情報の一覧が表示されます。

6. **設定**

本機のシステム設定やインターフェースの設定、ネットワーク設定、およびセキュリティーの設定ができます。

7. **リセット**

トップページの［リセット］ボタンをクリックすると、実行中のジョブが終了次第、本機のプリンター機能をリセットします。

8. **プリンタージョブリセット**

トップページの［プリンタージョブリセット］ボタンをクリックすると、実行中のジョブ、または、実行中および待機中のすべてのジョブをリセットすることができます。

補足

- 表示や設定項目の詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

Web Image Monitor のヘルプについて

Web Image Monitor のヘルプを表示する方法を説明します。

Web Image Monitor のヘルプをはじめてご使用になる場合、ヘッダーエリアに表示された[?]、またはワークエリアに表示された(?)をクリックすると設定画面が表示され、2 種類の方法で Web Image Monitor のヘルプを見ることができます。



インターネットの Web Image Monitor のヘルプを見る

最新の Web Image Monitor のヘルプを見ることができます。

Web Image Monitor のヘルプをダウンロードして見る

Web Image Monitor のヘルプをお使いのパソコンのローカルディスクへダウンロードして見ることができます。ヘルプの URL にローカルディスクのパスを指定すると、インターネットへ接続せずにヘルプを見ることができます。

補足

- ヘッダーエリアに表示された[?]をクリックすると、通常は Web Image Monitor のヘルプの目次を表示します。
- ワークエリアに表示された(?)をクリックすると、通常はワークエリアに表示された内容についてのヘルプを表示します。

ヘルプのダウンロード

1. 使用している OS をドロップダウンメニューから選択します。



2. 使用している言語をドロップダウンメニューから選択します。
3. ［ダウンロード］をクリックします。
4. 表示されるメッセージに従って、ヘルプファイルをダウンロードします。
5. ダウンロードした圧縮ファイルを任意の場所に保存し、解凍します。

   ダウンロードした Web Image Monitor のヘルプを見る場合は、解凍した場所のパスを設定してください。

ヘルプへのアドレス（URL）リンク

パソコンまたは Web サーバーのヘルプファイルに、ヘッダーエリアに表示された？のアドレス（URL）を次の手順でリンクすることができます。

1. 管理者モードで Web Image Monitor にアクセスします。
2. 左フレーム内の［設定］をクリックします。



3. ［Webpage］メニューの［Webpage 設定］をクリックします。



4. ［ヘルプリンク先設定］の［URL：］にヘルプファイルへのパスを入力します。



例えば、C:¥HELP¥JA にヘルプファイルをコピーしていた場合、「file:///C:/HELP/」と入力します。また、Web サーバー上にファイルをコピーしていて URL が http://a.b.c.d/HELP/JA/index.html の場合、「http://a.b.c.d/HELP/」と入力します。

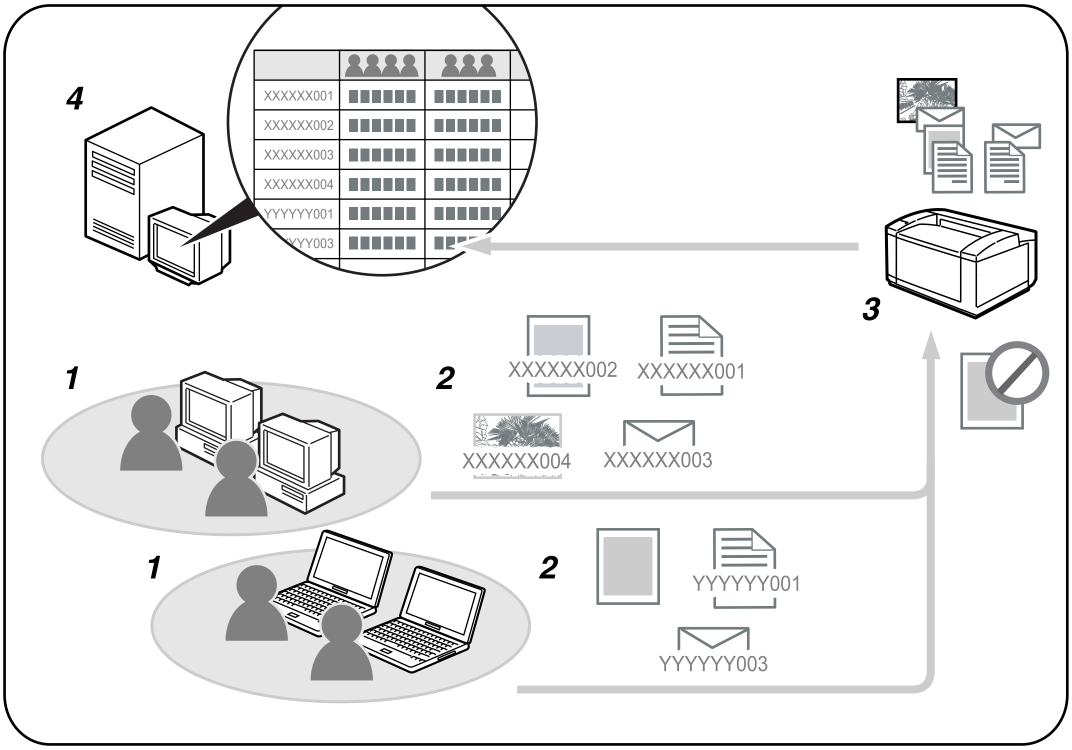
5. ［OK］をクリックします。

分類コードを登録する

分類コードを登録しておくと、分類コードごとの印刷枚数がプリンターに記録されます。

この機能を使い、たとえば利用目的や個人ごとに分類コードを設定しておくと、印刷枚数を利用目的や個人ごとに確認することができます。勘定科目ごとの収集やクライアントごとの課金管理などに適しています。

6



1. 管理する部や課、プロジェクトチーム、ユーザーなど
2. 利用目的に応じて、分類コードをプリントジョブに入力
3. 印刷
4. 外部ログ収集システムで分類コードを収集、管理

補足

- 分類コードを入力する方法については、P.99「プリントジョブに分類コードを入力する」を参照してください。
- 分類コードが必須の環境では、分類コードが付与されていないプリントジョブは印刷されません。詳しくは、P.216「分類コードの設定」を参照してください。

分類コードの設定

プリントジョブに分類コードを必須とするか任意とするかを、Web Image Monitorで設定します。

重要

- **分類コードを必須に設定した場合、分類コードが付与されていないプリントジョブは印刷できません。**
- **分類コードを必須に設定した場合でも、システム設定リストは印刷できます。**

- **初期状態は任意に設定されています。**

1. Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

ログイン方法については、P.210「Web Image Monitor からのログインのしかた」を参照してください。

2. 左フレームのメニューから［設定］をクリックします。

3. ［機器］メニューの中の［ログ］をクリックします。

4. ［共通設定］カテゴリーの中の［分類コード：］をクリックし、［必須］か［任意］をクリックします。

5. ［OK］をクリックします。

6. ［ログアウト］をクリックします。

7. Web Image Monitor を終了します。

アドレス帳をバックアップする

Web Image Monitor で、本機のアドレス帳データを保存する方法を説明します。

1. Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

ログイン方法については、P.210「Web Image Monitor からのログインのしかた」を参照してください。

2. ［アドレス帳］をクリックします。



3. ［メンテナンス］をクリックします。

4. 暗号鍵を入力し、［バックアップ］をクリックします。

暗号鍵は、アドレス帳暗号化で設定されている暗号鍵を入力します。

6



詳細は、管理者にお問い合わせください。

5. ［保存］をクリックします。

表示されるメッセージに従って、ファイルを保存します。

6. ［戻る］をクリックします。

7. 管理者モードからログアウトします。

8. Web Image Monitor を終了します。

補足

- アドレス帳のバックアップについての詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

アドレス帳をリストアする

Web Image Monitor で、本機に保存したアドレス帳データを復元する方法を説明します。

1. Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

ログイン方法については、P.207「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2. ［アドレス帳］をクリックします。



3. ［メンテナンス］をクリックします。

4. ［リストア設定］をクリックします。

5. 表示されるメッセージに従って、リストアするファイルを指定します。

6. ［OK］をクリックします。
7. メッセージを確認し、［OK］をクリックします。
8. ［戻る］をクリックします。
9. 管理者モードからログアウトします。
10. Web Image Monitor を終了します。

補足

- リストアすると、機器に保存されているアドレス帳はリストアするデータで上書きされます。また、ユーザー別のカウンターがクリアされます。
- アドレス帳のリストアについての詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

Ridoc IO Analyzer を使う

Ridoc IO Analyzer はネットワーク上の機器を監視するソフトウェアです。ネットワーク上の複数の機器の管理が可能です。管理者の方がお使いになることをお勧めします。

Ridoc IO Analyzer は、リコーのホームページからダウンロードできます。

詳細は、P.246「ソフトウェアのダウンロードについて」を参照してください。

Ridoc IO Analyzer については、Ridoc IO Analyzer の説明書を参照してください。

重要

- **Ridoc IO Admin がインストール済みの環境では、Ridoc IO Analyzer は Ridoc IO Admin に対する上書きアップデートとしてインストールされます。**

Ridoc IO Navi を使う

Ridoc IO Navi を使うと、ネットワークプリンターの環境を簡単に構築できます。また、ネットワーク上のリコー製プリンターの稼動状態を、パソコンから簡単に確認できます。

Ridoc IO Navi は、リコーのホームページからダウンロードできます。

詳しくは、P.246「ソフトウェアのダウンロードについて」を参照してください。

補足

- Ridoc IO Navi の詳細は、Ridoc IO Navi のヘルプを参照してください。

Ridoc IO Navi で IPP を使用する場合

Ridoc IO Navi で IPP を使用する際の注意事項です。

- 本機が受け付ける Ridoc IO Navi からの印刷ジョブは、1 件のみです。本機が印刷中のとき、他のユーザーが Ridoc IO Navi を使用して続けて接続しようとしても、先に行っている印刷が完了するまでは接続できません。この場合、後から接続しようとしたユーザーの Ridoc IO Navi は、リトライ設定時間経過ごとに接続を試みます。
- Ridoc IO Navi が本機に接続できずにタイムアウトになると、印刷ジョブが削除されます。この場合、印刷の操作をやり直す必要があります。
- 他のパソコンから出された印刷ジョブは、プロトコルにかかわらず、プリンターのアイコンをダブルクリックして開くウィンドウに表示されません。
- 複数のユーザーが Ridoc IO Navi を使用して印刷しようとした場合、本機に接続しようとした順に印刷が始まらない場合があります。
- IPP の印刷ポート名に IP アドレスは使用できません。Ridoc IO Navi がポート名として IP アドレスを使用するため、ポートの競合が発生します。
- SSL を使用する場合、本機にアクセスするときは、「https://（本機のアドレスまたはホスト名）/printer」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。Internet Explorer6.0 以降を推奨します。
- 本機にアクセスする場合、［セキュリティの警告］が表示されたとき、ご使用のパソコンに証明書をインストールする必要があります。この場合、［証明書のインポートウィザード］で証明書ストアの場所は、［証明書をすべて次のストアに配置する］を選択し、［信頼されたルート］の［ローカルコンピュータ］を選択します。

補足

- SSL（暗号化通信）について詳しくは、管理者にお問い合わせください。

機器の状態をメールで通知する

本機に用紙切れや紙詰まりなどのアラートが発生したときに、メール通知機能を使用して機器の状態を通知することができます。

機器の状態を通知するメールは、あらかじめ設定した送信先メールアドレスに送信されます。

★重要

- **メールソフトによっては、メールを受信したときに、フィッシングの警告が出る可能性があります。回避方法については、メールソフトのヘルプを参照の上、送信者を警告対象外に設定してください。**
- **この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。**

本機のメール通知機能は次の2種類です。

自動メール通知

あらかじめ設定したメールアドレスに、機器の状態などをメールで自動通知する機能です。

要求時メール通知

管理者からの要求に応じて、機器の状態などをメールで通知する機能です。

アラートを通知するタイミングや状態なども設定することができます。

自動メール通知で設定できるものは、以下の通りです。

- サービスコールが発生した場合
- 紙づまりがおきた場合
- カバーオープンが検知された場合
- 紙がなくなった場合
- 紙の残りがわずかになった場合
- 給紙トレイでエラーが発生した場合
- 排紙トレイが満杯になった場合
- ユニットの接続にエラーが発生した場合
- 拡張 HDD の文書保存領域が満杯に近づいた場合
- ログエラーになった場合
- アクセス攻撃を受けた場合
- トナーの交換時期になった場合
- トナーの交換時期が近づいた場合
- メンテナンスキットの交換時期になった場合
- 感光体ユニットの交換時期になった場合
- 感光体ユニットの交換時期が近づいた場合

- 廃トナーボトルの交換時期になった場合
- 廃トナーボトルの交換時期が近づいた場合
- 転写ユニットの交換時期になった場合

1. 本機の操作部を使用して、［システム設定］メニューの［自動メール通知］を［する］に設定します（工場出荷時は［する］に設定されています）。

2. Web ブラウザーを起動し、アドレスバーに「http://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。

SSL（暗号化通信）の設定を有効にしている場合、「https://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力します。

3. Web Image Monitor のトップページで、［ログイン］をクリックします。



4. ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

5. 画面左のメニューから［設定］をクリックし、［機器］エリアの［メール］をクリックします。

6. 設定画面に示された以下の項目のうち、必要なものを設定します。

- 管理者メールアドレス：機器に問題が発生した場合や消耗品の交換が必要な場合に、メール通知をする宛先の設定を行います。
- 受信欄の各項目：メール受信の際に必要なプロトコルの設定を行います。
- SMTP 欄の各項目：SMTP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。

  SMTP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。P.224「メールの認証について」を参照してください。
- POP before SMTP 欄の各項目：POP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。

  POP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。P.224「メールの認証について」を参照してください。

- POP3/IMAP4 欄の各項目：POP3 サーバーまたは IMAP4 サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
- メール受信ポート欄の各項目：メールサーバーにアクセスする際に使用するポートの設定を行います。
- メール通知アカウント欄の各項目：要求時メール通知を使用する場合は設定を行います。

7.［OK］をクリックします。

メール通知用アカウントの設定

「自動メール通知」と「要求時メール通知」を使用するためには、あらかじめメール通知用アカウントを設定する必要があります。Web Image Monitor にて以下の設定をしてください。

1.［機器］メニューの［メール］をクリックします。

2. 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- メール通知用メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
- メール通知の受信：要求時メール通知機能を使用するかどうかを選択します。
- メール通知ユーザー名：メールの送信者として管理者のユーザー名を入力します。
- メール通知パスワード：メール通知ユーザーのパスワードを設定します。

3.［OK］をクリックします。

4.［ログアウト］をクリックします。

5. Web Image Monitor を終了します。

補足

- メール通知用アカウントでは、ファクスメールアカウントと同じユーザー名とメールアドレスが使えません。

メールの認証について

メールサーバーの不正利用を防止するために、メールの認証を設定できます。

SMTP 認証の場合

SMTP サーバーへのメール送信時に、SMTP AUTH プロトコルを使用してユーザー名とパスワードを入力し、認証を行うことで SMTP サーバーの不正利用を防止します。

1. Web Image Monitor に管理者としてログインし、左フレーム内の［設定］をクリックし、［機器］メニューの［メール］をクリックします。
2. 設定画面に示された以下の項目を設定します。
    - SMTP サーバー名：SMTP サーバー名を半角の英数字で指定します。
    - SMTP ポート番号：ポート番号を指定します。通常、SMTP で用いられるポート番号は「25」です。
    - SMTP 認証：SMTP 認証のする／しないを指定します。
    - SMTP 認証メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
    - SMTP 認証ユーザー名：SMTP アカウント名を半角の英数字で入力します。realmID を指定する場合には、SMTP 認証ユーザー名の後に@realmID の形式で追加してください。
    - SMTP 認証パスワード：使用する SMTP アカウントのパスワードを設定します。
    - SMTP 認証暗号化：SMTP 認証を有効にした場合に、パスワードの暗号化を行うかどうかを選択します。

      ［自動選択］：認証方式が PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。

      ［有効］：認証方式が CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。

      ［無効］：認証方式が PLAIN、LOGIN の場合に指定します。
3. ［OK］をクリックします。
4. ［ログアウト］をクリックします。
5. Web Image Monitor を終了します。

POP before SMTP 認証の場合

メールを送信するときに、あらかじめ POP3 サーバーに対してログインを行うかどうかを選択します。

1. 左フレーム内の［設定］をクリックし、［機器］メニューの［メール］をクリックします。
2. 設定画面に示された以下の項目を設定します。
    - POP before SMTP: POP before SMTP 認証のする／しないを設定します。
    - POP メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
    - POP ユーザー名：POP アカウント名を半角の英数字で入力します。
    - POP パスワード：使用する POP アカウントのパスワードを設定します。

- POP 認証後待機時間：POP before SMTP を有効に設定した場合に、POP サーバーにログインしてから SMTP サーバーに接続を開始するまでの時間を入力します。

3. ［OK］をクリックします。
4. ［ログアウト］をクリックします。
5. Web Image Monitor を終了します。

「自動メール通知」の設定

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。

2. 左フレーム内の［設定］をクリックし、［機器］メニューの［自動メール通知］をクリックします。



3. 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
- 通知先グループの各項目：通知先アドレスをグループ分けして設定できます。
- 項目ごとの通知先の各項目：機器の状態やエラーなど、各通知項目ごとに、メールを送信するグループを設定できます。

  項目の詳細を設定する場合は、［各項目の詳細設定］の［編集］をクリックし、表示される設定画面で各項目を設定して［OK］をクリックします。

4. ［OK］をクリックします。

5. ［ログアウト］をクリックします。

6. Web Image Monitor を終了します。

補足

- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

「要求時メール通知」の設定

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。
2. 左フレーム内の［設定］をクリックし、［機器］メニューの［要求時メール通知］をクリックします。



3. 設定画面に示された項目を設定します。
   - 共通件名：返信メールの件名に共通で付加する文字列を入力します。
   - 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
   - 機器状態情報通知の制限:機器の設定内容や状態などの情報へのアクセスを制限するかどうか選択します。

     ［有効］を選択すると、要求があっても返信メールを送信しません。

     ［無効］を選択すると、要求があれば返信メールを送信します。
   - 受信可能メールアドレス／ドメイン設定の各項目：メールで情報を要求し、返信メールとして情報を受け取ることができるメールアドレスまたはドメイン名を入力します。
4. ［OK］をクリックします。
5. ［ログアウト］をクリックします。
6. Web Image Monitor を終了します。

補足

- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

要求メールの書式について

要求時メール通知機能を使用するためには、定められた書式の要求メールを本機に対して送信する必要があります。

要求メールは、お使いのメールソフトにて以下の書式で記述してください。

項目	記述内容
Subject（メールソフトでは「件名」などと表示される部分）	requeststatus
From（メールソフトでは「送信者」、「差出人」などと表示される部分）	有効なメールアドレスを指定してください。機器の情報はここで指定されたアドレスに送信されます。

補足

- Subject の記述では、アルファベットの大文字・小文字を区別しません。
- 要求メールの本文には意味がありません。記述した内容はすべて無視されます。
- 要求メールの大きさは最大 1MB です。

7. プリントサーバーの準備

ネットワークプリンターの設定について説明します。

Windows ネットワークプリンターを設定する

クライアントからネットワークプリンターを使用するために共有設定をします。ネットワークプリンターを Ridoc IO Navi 経由で接続している場合、印刷通知設定をすることができ、印刷結果をクライアントに通知することができます。ここでは Windows XP を例に説明します。

重要

- **プリンターのプロパティを変更するには、Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**

1. **[スタート]メニューから[プリンタと FAX]ウィンドウを開きます。**
2. **追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル]メニューの[プロパティ]をクリックします。**
3. **[共有]タブをクリックし、[このプリンタを共有する]を選択します。**
4. **プリンターをほかのバージョンの Windows を使っているユーザーと共有する場合は、[追加ドライバ]をクリックしてインストールする OS を選択し、[OK]をクリックします。**

   プリンタードライバーをインストールしたときに、「共有」にチェックをして代替ドライバーをインストールした場合、この操作は必要ありません。
5. **[詳細設定]タブの[標準の設定]ボタンから、クライアントに配布するドライバーの初期値を設定し、[OK]をクリックします。**
6. **[OK]をクリックし、プリンターのプロパティを閉じます。**

Ridoc IO Navi 経由で印刷通知をする

Ridoc IO Navi の印刷通知機能を設定する方法を説明します。

プリントサーバーの設定をする

重要

- **プリンターのプロパティを変更するには、Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**

1. ［スタート］メニューから［すべてのプログラム］-［RICOH Ridoc Desk Navigator］-［Ridoc IO Navi］の順にポイントして、［プリントサーバー設定］をクリックします。
2. ［クライアントに印刷通知をする］をチェックして、［OK］をクリックします。

   プリントサーバーの設定によって、ダイアログが表示されます。記載内容を確認して［OK］をクリックします。
3. 各クライアントへの設定についてダイアログが表示されます。［OK］をクリックします。

補足

- 印刷中のジョブはスプーラー時停止後に最初から再印刷されます。
- 拡張機能を使用していない場合、自動的に拡張機能を有効に設定します。
- Administrators アカウント以外でログインした場合、クライアントに通知できない場合があります。

クライアントの設定をする

1. ［スタート］メニューから［すべてのプログラム］-［RICOH Ridoc Desk Navigator］-［Ridoc IO Navi］の順にポイントして、［拡張機能設定］をクリックします。
2. 「拡張機能設定を使用する」にチェックを付けます。
3. 「印刷通知」の「プリントサーバーを利用する場合に通知します。」にチェックを付けます。
4. ［OK］をクリックします。

補足

- プリンタードライバーでも印刷通知の設定をしてください。印刷通知の詳しい設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

8. Mac OS で使う

Mac OS で使う場合の設定方法について説明します。

AppleTalk を使う

Mac OS X の AppleTalk 環境でネットワークプリンターを使用する場合の設定方法を説明します。

セットアップの流れ

1. Mac OS X で AppleTalk を有効にします
2. 本機の環境設定をします
3. プリンター名を変更します
4. ゾーンを変更します

補足

- 対象となる Mac OS X のバージョンは、10.2 〜 10.5 です。Mac OS X 10.6 では使用できません。
- Mac OS X の操作方法は使用している OS のバージョンによって多少異なります。本書の説明内容を参考に、それぞれのマニュアルを参照して設定してください。
- Mac OS X から印刷するには PostScript 3 を含む拡張エミュレーションが本機に増設されている必要があります。
- AppleTalk に必要なソフトウェアのインストールについては、Mac OS X のマニュアルを参照してください。

8

AppleTalk を有効にする

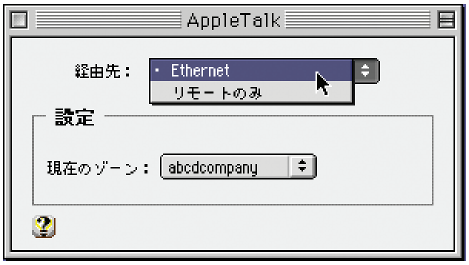
Mac OS

Mac OS で AppleTalk を有効にする方法の説明です。

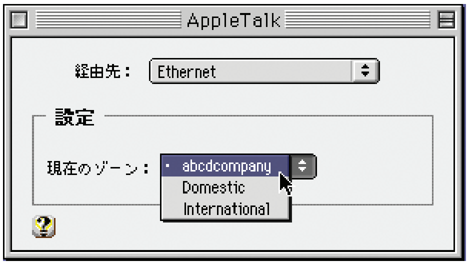
1. ［コントロールパネル］を開き、［AppleTalk］アイコンをダブルクリックします。



2. ［経由先］ポップアップメニューから「Ethernet」を選択します。



3. ゾーンを変更するときは、［現在のゾーン］ポップアップメニューから使用するゾーンの名前を選択します。



4. ［AppleTalk］コントロールパネルを閉じます。

5. Mac OS を再起動します。

Mac OS X

Mac OS X で AppleTalk を有効にする方法を説明します。

重要

- 一般ユーザーの場合、ゾーンの変更にはユーザ名とパスワードが必要です。管理者にお問い合わせください。

1. ［System Preference］または［システム環境設定］を開き、［ネットワーク］ アイコンをダブルクリックします。



2. AppleTalk が使用できる環境を選択します。

   Mac OS X 10.5 の場合は［詳細...］ボタンをクリックします。

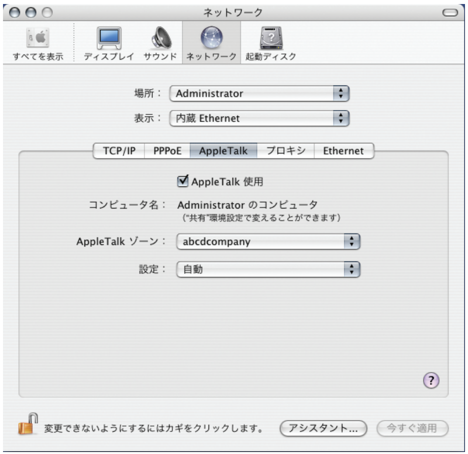
3. ［AppleTalk］タブをクリックします。

4. ［AppleTalk 使用］をチェックします。

5. ゾーンを変更する場合には、[AppleTalk ゾーン:] ポップアップメニューから使用するゾーンの名前を選択します。

6. 設定が完了したら、[今すぐ適用] をクリックします。

Mac OS X 10.5 の場合、[OK] をクリックします。



7. [適用] をクリックします。

Mac OS X 10.4 以下の場合、この操作は不要です。次の手順に進んでください。

8. すべてのウィンドウを閉じます。

本機の設定

プリンター側で AppleTalk プロトコルが有効になっている必要があります。工場出荷時の設定は**有効**です。

プリンター名の変更

同じネットワーク上に同機種のプリンターを複数台接続するときは、必ずプリンター名を変更してください。同じプリンター名があると、接続された順番に Mac OS X により [セレクタ] 上で PRINTER0、PRINTER1 のようにプリンター名の後に「0」「1」などの番号がついて表示されます。そのため、プリンター名は接続時の状況に応じて、さまざまに変化します。Mac OS の AppleTalk 環境でプリンター名を変更するには、PostScript 3 を含んだ拡張エミュレーションに付属の「PS3 設定ユーティリティー」を使用します。

補足

- エミュレーションによってはエミュレーション固有のオプションも用意されています。それらのオプションについては各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

ゾーンの変更

ネットワーク上にゾーンを設定している場合は、必要に応じてプリンターが所属するゾーンを変更します。

ゾーンを変更するには、PostScript 3 を含んだ拡張エミュレーションに付属の「PS3 設定ユーティリティー」を使用します。

補足

- エミュレーションによってはエミュレーション固有のオプションも用意されています。それらのオプションについては各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

USB インターフェースを使う

重要

- **PostScript 3 を含む拡張エミュレーションが本機に増設されている必要があります。**
- **あらかじめ Macintosh とプリンターが USB ケーブルで接続され、電源が入っていることをご確認ください。**

補足

- Mac OS X の操作方法は使用している OS のバージョンによって多少異なります。本書の説明内容を参考に、それぞれのマニュアルを参照して設定してください。

Mac OS

Mac OS で、USB インターフェースを使用する場合の設定方法の説明です。

1. **ハードディスク内の［AdobePS Components］フォルダを開きます。**
2. **［デスクトップ・プリンタ Utility］をダブルクリックします。**
3. **［プリンタ：］ポップアップメニューから［AdobePS］を選択し、［デスクトップに作成...］から［プリンタ（USB）］を選択して、［OK］をクリックします。**
4. **［PostScript™ プリンタ記述（PPD）］ファイルの［変更］をクリックします。**



5. **接続したプリンターの PPD ファイルを選択し、［選択］をクリックします。**

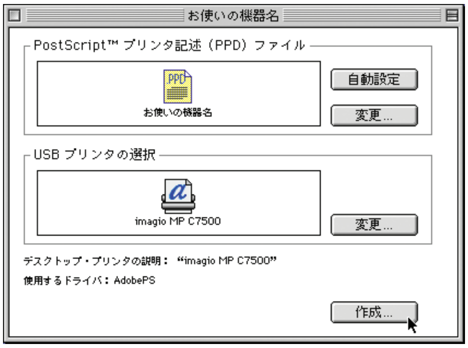
8

6. ［USB プリンタの選択：］で、［変更］をクリックします。



7. ［USB プリンタの選択：］で、接続したプリンターを選択し、［OK］をクリックします。

8. ［作成］をクリックします。



メッセージが表示されます。

9. ［保存する］をクリックします。

10. 保存先と名称を指定し、［保存］をクリックします。

デスクトップにプリンターアイコンが表示されます。

11. ［デスクトップ・プリンタ Utility］を終了します。

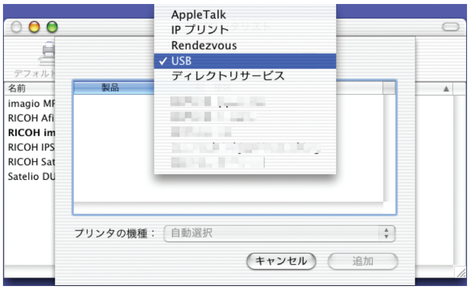
補足

- Macintosh では、プリンター本体標準の USB ポートのみ使用できます。拡張ギガビットイーサネットボードの USB ポートは使用できません。
- Macintosh と USB 接続で印刷する場合、エミュレーションが自動では切り替わりません。本機の操作部から、「エミュレーション検知」を「する」に設定するか、エミュレーションを「PS3」に切り替えてから印刷を行ってください。

Mac OS X 10.2 ～ 10.4 の場合

Mac OS X で、USB インターフェースを使用する場合の設定方法は、お使いの OS のバージョンによって異なります。

1. プリンタ設定ユーティリティを起動します。
2. ［追加］をクリックします。
3. ポップアップメニューから［USB］を選択します。



4. プリンターを選択し、［プリンタの機種］ポップアップメニューから［RICOH］を選択します。
5. 機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名を選択し、［追加］をクリックします。
6. プリンタリストを閉じ、プリンタ設定ユーティリティを終了します。

Mac OS X 10.5 ～ 10.6 の場合

1. ［プリントとファクス］を起動します。
2. ［+］をクリックします。



3. 機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名（種類が USB）を選択し、［追加］をクリックします。

4.［プリントとファクス］を終了します。

8

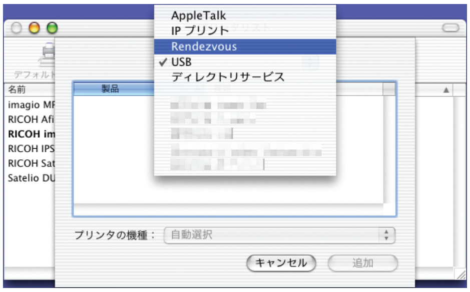
Rendezvous を使う

Mac OS X 10.2.3〜Mac OS X 10.3.x では、Rendezvous を使って本機に印刷できます。イーサネット接続、および無線 LAN で接続できます。

重要

- **Rendezvous を使うには、Bonjour のプロトコルが「有効」に設定されている必要があります。工場出荷時の設定は有効です。無効に設定されている場合は、Web Image Monitor の「ネットワーク」の項目、または telnet の set コマンドで、Bonjour を有効にしてください。設定やコマンドについては、Web Image Monitor のヘルプ、または『Linux/Unix をお使いの方へ』を参照してください。**

1. **「プリンタ設定ユーティリティ」または「プリントセンター」を起動します。**
2. **［追加］をクリックします。**
3. **ポップアップメニューから［Rendezvous］を選択します。**



4. **プリンターを選択し、［プリンタの機種］ポップアップメニューから［RICOH］を選択します。**
5. **機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名を選択し、［追加］をクリックします。**
6. **プリンタリストを閉じ、「プリンタ設定ユーティリティ」または「プリントセンター」を終了します。**

補足

- Macintosh と Rendezvous で接続する場合、エミュレーションが自動では切り替わりません。本機の操作部から、「エミュレーション検知」を「する」に設定するか、エミュレーションを「PS3」に切り替えてから印刷を行ってください。
- Rendezvous 上で IP アドレスの設定は必要ありません。

Bonjour を使う

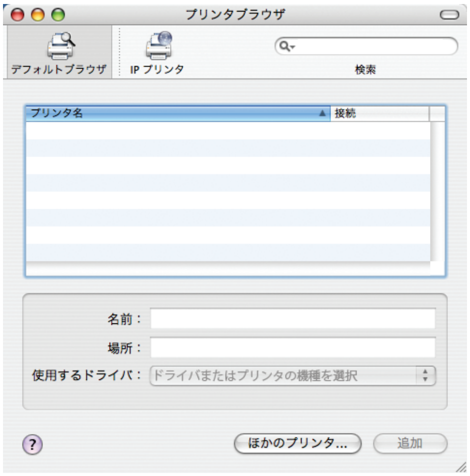
Mac OS X 10.4 以降では、Bonjour を使って本機に印刷できます。イーサネット接続、および無線 LAN で接続できます。

補足

- Mac OS X の操作方法は使用している OS のバージョンによって多少異なります。本書の説明内容を参考に、それぞれのマニュアルを参照して設定してください。
- Macintosh と Bonjour で接続する場合、エミュレーションが自動では切り替わりません。本機の操作部から、「エミュレーション検知」を「する」に設定するか、エミュレーションを「PS3」に切り替えてから印刷を行ってください。

Mac OS X 10.4 の場合

1. プリンタ設定ユーティリティを起動します。
2. [追加] をクリックします。
3. [デフォルトブラウザ] をクリックします。



4. 機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名（接続が Bonjour）を選択します。

   「使用するドライバ：」プルダウンメニューにお使いの機種名が表示されます。PPD ファイルが自動選択されない場合は、[その他...] を選択して手動でお使いの機種の PPD ファイルを指定します。

5. [追加] をクリックします。
6. すべてのウィンドウを閉じます。

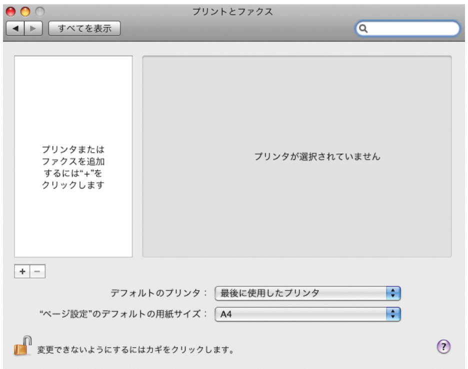
補足

- PPD ファイルが自動選択されない場合に選択する PPD ファイルの名前とインストール先については、『PostScript 3 編』「機種情報」を参照してください。
- Bonjour 上で IP アドレスの設定は必要ありません。

Mac OS X 10.5 ～ 10.6 の場合

1. プリントとファクスを起動します。

2. ［+］をクリックします。



3. 機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名（種類が Bonjour）を選択し、［追加］をクリックします。

4. プリントとファクスを終了します。

補足

- Bonjour 上で IP アドレスの設定は必要ありません。

8

9. 付録

同梱の CD-ROM や、その他の注意事項等について説明します。

CD-ROM 収録ソフトウェア

付属の CD-ROM「使用説明書・ドライバー＆ユーティリティー」について説明します。

重要

- **プリンタードライバーは、付属の CD-ROM からインストールするか、リコーのホームページからダウンロードできます。ドライバーをダウンロードするには、リコーのホームページで本機を選択し、お使いの OS を選択してください。（http://www.ricoh.co.jp/download/index.html）**

ソフトウェア一覧

CD-ROM「使用説明書・ドライバー＆ユーティリティー」に入っているファイルの一覧です。

ソフトウェア/ファイル名	参照
SETUP.EXE	P.23「おすすめインストール」
RPCS プリンタードライバー	P.243「RPCS プリンタードライバー」
PS3 プリンタードライバー	P.244「PS3 プリンタードライバー」
PCL 6 プリンタードライバー	P.244「PCL 6 プリンタードライバー」
各種マニュアル	P.245「各種マニュアル」

RPCS プリンタードライバー

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。RPCS が入っています。

RPCS プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境について説明します。

ファイル格納場所

付属の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

- Windows 32bit 版プリンタードライバー

  DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1

- Windows 64bit 版プリンタードライバー

  DRIVERS¥RPCS¥x64¥DISK1

9

プリンタードライバーの動作環境

- パソコン
  対象 OS が問題なく動作する、PC/AT 互換機、NEC PC-9821 シリーズ
- 対象 OS
  Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 日本語版
- ディスプレイ解像度
  800×600 ドット以上

補足

- 詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

PCL 6 プリンタードライバー

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。

PCL 6 プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境についての説明です。

重要

- **PCL 6 ドライバーを使用して印刷するには、オプションの PCL カードが必要です。**

ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

- Windows 32bit 版プリンタードライバー
  DRIVERS¥PCL6¥XP_VISTA¥DISK1
- Windows 64bit 版プリンタードライバー
  DRIVERS¥PCL6¥x64¥DISK1

プリンタードライバーの動作環境

動作環境についての詳細は、『PCL 編』を参照してください。

補足

- 詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

PS3 プリンタードライバー

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。

PS3 プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境についての説明です。

重要

- **PS3 ドライバーを使用して印刷するには、オプションの PS3 カードが必要です。**

ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

- Windows 32bit 版プリンタードライバー

  DRIVERS¥PS¥XP_VISTA¥DISK1

- Windows 64bit 版プリンタードライバー

  DRIVERS¥PS¥x64¥DISK1

プリンタードライバーの動作環境

動作環境についての詳細は、『PostScript 3 編』を参照してください。

補足

- 詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

各種マニュアル

付属の CD-ROM には、HTML 形式と PDF 形式の使用説明書が収録されています。

各種マニュアルのファイル格納場所について説明します。

HTML 形式の使用説明書

ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

MANUAL_HTML

PDF 形式の使用説明書

ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

MANUAL_PDF

9

ソフトウェアのダウンロードについて

本機と連携して使用できるソフトウェアについて説明します。

Ridoc IO Analyzer でできること

Ridoc IO Analyzer について説明します。

重要

- **Ridoc IO Admin がインストール済みの環境では、Ridoc IO Analyzer は Ridoc IO Admin に対する上書きアップデートとしてインストールされます。**

Ridoc IO Analyzer はネットワーク上のプリンターを監視するソフトウェアです。IP アドレスを持つ複数のネットワークプリンターの管理が可能です。ネットワーク管理者の方がお使いになることをお勧めします。

Ridoc IO Analyzer は、リコーのホームページからダウンロードできます。

(http://www.ricoh.co.jp/IPSiO/related_goods/analyzer/)

補足

- Ridoc IO Analyzer については、Ridoc IO Analyzer の取扱説明書を参照してください。

Ridoc Desk Navigator Lt でできること

Ridoc Desk Navigator Lt について説明します。

アプリケーションで作成したファイル、スキャナーで読み取った画像データ、既存のイメージファイルなど、多様なデータを 1 つの文書として管理・印刷することができます。

Ridoc Desk Navigator Lt は、リコーのプリンター、スキャナー、デジタルカメラの一部の機種に同梱されている、Ridoc Desk Navigator の機能限定版です。

Ridoc Desk Navigator Lt は、リコーのホームページからダウンロードできます。

(http://support.ricoh.com/bbv2/html/dr_ut_d/doc_sol/history/w/bb/pub_j/dr_ut_d/4101004/4101004170/V1590/5146030/146030/history.htm)

補足

- Ridoc Desk Navigator Lt について詳しくは、Ridoc Desk Navigator Lt のヘルプを参照してください。

Ridoc IO Navi でできること

Ridoc IO Navi について説明します。

ネットワークプリンターの環境を簡単に構築できます。また、ネットワーク上のリコー製プリンターの稼働状態を、パソコンから簡単に確認できます。

Ridoc IO Navi は、リコーのホームページからダウンロードできます。

(http://www.ricoh.co.jp/IPSiO/utility/ionavi/)

補足

- Ridoc IO Navi について詳しくは、Ridoc IO Navi のヘルプを参照してください。

Linux CUPS 用 PPD ファイル

Linux OS の印刷システム CUPS (Common Unix Printing System)環境から印刷を行うためのPPD ファイルを提供しています。

Linux CUPS 用 PPD ファイルは、リコーのホームページからダウンロードできます。

(http://www.ricoh.co.jp/)

補足

- Linux 環境での印刷については、保証およびサポートを行っておりません。

Unix 対応インストールシェルスクリプト

Unix 環境で簡単にプリンター登録するためのツールを提供しています。

Unix 対応インストールシェルスクリプトは、リコーのホームページからダウンロードできます。

(http://www.ricoh.co.jp/)

補足

- Unix 環境での印刷については、保証およびサポートを行っておりません。

Windows ターミナルサービス／Citrix Presentation Server／Citrix Xen App を使用する場合

詳細については、以下のリコーのホームページを参照してください。

対応状況について

http://ricoh.co.jp/IPSiO/os/meta.html

制約事項と補足について

http://ricoh.co.jp/IPSiO/os/meta_sub.html

DHCP を使用する

本機を DHCP 環境で使用することができます。WINS サーバーが稼働している環境では、同時にプリンター名を WINS サーバーに登録することができます。

- 動作対象の DHCP サーバーは、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2、Windows 2000 Server および Unix に標準添付されている DHCP サーバーです。
- 本機が DHCP から取得した IP アドレスは、システム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、P.169「システム設定リストを印刷する」を参照してください。
- WINS サーバーを使用する場合は、P.251「WINS サーバーを使用する場合」を参照して WINS サーバーを設定してください。
- WINS サーバーを使用することで、リモートネットワークのプリンターポートでホスト名を使用できます。
- WINS サーバーを使用しない場合は、毎回同じ IP アドレスが割り当てられるように、本機に割り当てる IP アドレスを DHCP サーバーで予約してください。
- 複数の DHCP サーバーが存在する場合は、すべての DHCP サーバーに同じ予約をしてください。本機は最初に応答した DHCP サーバーからの情報で動作します。
- ネットワークに ISDN 回線を接続している環境で DHCP リレーエージェントを使用した場合、本機からパケットが送出されるたびに ISDN 回線が接続され、多大な通信料がかかることがあります。

AutoNet 機能を使用する

DHCP サーバーから IPv4 アドレスが割り当てられなかった場合、本機は、臨時に 169.254.xxx.xxx ではじまるネットワーク上で使用されていない IPv4 アドレスを自動選択して使用できます。

AutoNet 機能を使用するために、telnet で AutoNet の設定を「on」にしてください。詳しくは『Linux/Unix をお使いの方へ』を参照してください。

補足

- AutoNet 機能で自動選択された IPv4 アドレスは、DHCP サーバーが IP アドレスの割り当てを再開すると、DHCP サーバーから割り当てられた IPv4 アドレスを優先的に使用します。このとき、本機が再起動するため、一時的に印刷ができなくなります。
- 本機が使用している IPv4 アドレスはシステム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、P.169「システム設定リストを印刷する」を参照してください。
- AutoNet モードで動作中の場合、WINS サーバーへのプリンター名の登録は行われません。

- AutoNet 機能で起動している機器以外とは通信できません。ただし、Mac OS X 10.2.3 以降が稼働している Macintosh とは通信できます。

WINS サーバーを使用する場合

プリンターの起動時に、プリンターのプリンター名を WINS（Windows Internet Name Service）サーバーに登録することができます。WINS サーバーにプリンター名を登録すると、DHCP 環境で使用している場合、Ridoc IO Navi のポート名にプリンターのプリンター名を使用して印刷できます。

ここでは、プリンターが WINS サーバーを使用できるようにする設定について説明します。

サポートする WINS サーバーは、Windows 2000 Server の WINS マネージャーです。

WINS サーバーの設定については、Windows のヘルプを参照してください。

WINS サーバーが応答しない場合、ブロードキャストによるプリンター名の登録が行われます。

登録できるプリンター名は、半角英数字で 15 バイト以内です。

Web ブラウザーを使用する方法

1. **Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。**

   ログイン方法については、P.210「Web Image Monitor からのログインのしかた」を参照してください。

2. **メニューエリアの［設定］をクリックし、［ネットワーク］エリアの［IPv4］をクリックします。**
3. **［イーサネット+無線 LAN］欄の［WINS］が「有効」になっていることを確認し、［プライマリー WINS サーバー：］と［セカンダリー WINS サーバー：］にそれぞれ WINS サーバーの IP アドレスを入力します。**
4. **［OK］をクリックします。**
5. **Web ブラウザーを終了します。**

telnet を使用する方法

telnet でも WINS の設定ができます。詳しくは『Linux/Unix をお使いの方へ』を参照してください。

ダイナミック DNS 機能を使用する

ダイナミック DNS とは、DNS サーバーが管理しているレコード（A レコード、AAAA レコード、CNAME レコードおよび PTR レコード）を動的に更新（登録・削除）する機能です。本機が接続されているネットワーク環境に DNS サーバーがあり、本機が DNS クライアントである場合、ダイナミック DNS 機能によって動的にレコードを更新することができます。

更新処理について

本機の IP アドレスが静的か DHCP から取得しているかによって、更新処理の動作が異なります。

★ 重要

- **メッセージ認証を用いた動的更新（TSIG、SIG(0)）はサポートしていません。**

静的 IPv4 設定の場合

IPv4 アドレス、ホスト名が変更された場合、本機が A レコード、および PTR レコードを更新します。

また、A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- イーサネット、IEEE 802.11 a/b/g の場合

  RNPXXXXXX（RNPXXXXXX は MAC アドレスの下位３バイトの 16 進数）

  ただし、ホスト名が CNAME と同じ（RNPXXXXXX）場合は、CNAME は登録されません。

DHCPv4 設定の場合

DHCPv4 サーバーが本機の代理でレコードを更新します。次のどちらかになります。

- 本機が DHCPv4 サーバーから IPv4 アドレスを取得する際、DHCPv4 サーバーが A レコードと PTR レコードを更新
- 本機が DHCPv4 サーバーから IPv4 アドレスを取得する際、本機が A レコードを更新し、DHCPv4 サーバーが PTR レコードを更新

A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- イーサネット、IEEE 802.11 a/b/g の場合

  RNPXXXXXX（RNPXXXXXX は MAC アドレスの下位３バイトの 16 進数）

IPv6 設定

本機が AAAA レコードおよび PTR レコードを更新します。

また、AAAA レコードを更新する際に、CNAME も登録します。

ステートレスアドレスが新たに設定された場合は、DNS サーバーに追加登録されます。

補足

- ダイナミック DNS 機能を使用しない場合、本機の IP アドレスが変更されると、DNS サーバーで管理しているレコードを手動で更新する必要があります。
- 本機でレコードの更新を実行する場合、DNS サーバーの設定が次のどちらかになっている必要があります。
    - セキュリティー設定がされていない
    - セキュリティー設定で、更新を許可するクライアント（本機）を IP で指定している

動作対象の DNS サーバー

静的 IPv4 設定の場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

DHCPv4 設定の場合で本機が A レコードを更新する場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

DHCPv4 設定の場合で、DHCP サーバーがレコードを更新する場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

IPv6 設定の場合

- Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND9.2.3 以降

動作対象の DHCPv4 サーバー

本機の代理で A レコード、および PTR レコードを更新することができる DHCPv4 サーバーは次のとおりです。

- Windows 2000 Server（Service Pack 3 以降）に標準添付の Microsoft DHCPv4 サーバー
- ISC DHCP 3.0 以降

ダイナミックDNS機能の設定方法

telnetでdnsコマンドを使用して設定します。詳しくは『Linux/Unixをお使いの方へ』を参照してください。

使用上の注意

ネットワークインターフェースボードを使用する場合は、次の事項に注意してください。設定が必要な場合は、正しく設定してからお使いください。

ネットワークに ISDN 回線を接続している場合

リコー製のネットワークユーティリティーには周期的に装置と通信を行うものがあり、設定したアドレスの値によっては ISDN 回線が接続されたままの状態になり、多大な通信料がかかることがあります。 装置のネットワークアドレスを設定するとき、及びネットワークユーティリティーの通信先のアドレスを指定するときは、回線の接続が発生しない値に設定してください。

拡張無線 LAN ボードを取り付けているとき

拡張無線 LAN ボードを使ってネットワークに接続しているときは、次のことに注意してください。

ネットワークの電波状態が悪いとき

電波状態が悪いと、接続が途切れたり、接続できなくなったりします。本機の「電波状態」とアクセスポイントの電波状態を確認し、電波状態が悪いときは、次の点に注意して対処してください。

- 本機とアクセスポイントを近づける。
- アクセスポイントと本機の間の見通しをよくする。
- アクセスポイントや本機の近くから電子レンジなど電波の発する機器を遠ざける。

補足

- アクセスポイントの電波状態は、使用しているアクセスポイントの使用説明書を参照して確認してください。

9

本機でできるセキュリティー対策

本章の設定を行うことが出来るのは管理者となります。

認証機能の利用とユーザー管理

重要

- **管理者認証、ユーザーコード認証以外の認証機能を使用するには、拡張 HDD が必要です。**

認証機能の設定

本機の正しい管理者、また正しいユーザーであることを確認するために、ログインユーザー名とログインパスワードを使用した管理者認証、ユーザー認証を行います。認証を行うためには本体の初期設定で、認証機能を有効に設定する必要があります。

ログイン認証情報を設定する

ユーザーは本機のアドレス帳に登録された個人情報によって管理されます。ユーザー認証を有効に設定することで、アドレス帳に登録されたユーザーのみを機器の利用者として設定することができます。

使用できる機能を設定する

登録されたユーザーに対して、使用できる機能を設定します。この設定により、ユーザーの使用できる機能を制限することができます。

9

情報の漏洩を防ぐ

文書の複製を抑止する

不正コピー抑止機能を使用し、不正コピーを抑止するために文字列の地紋をつけて印刷できます。

文書の複製をガードする

コピーガード機能を使用し、不正コピーをガードするために地紋を背景全体につけて印刷できます。

不正コピーガード文書を弊社の複写機／複合機でコピーや蓄積をしたときに、文書をグレー地にする効果を得るためには、オプションの不正コピーガードモジュールが必要です。

文書を他人に見せないように印刷する

機密印刷機能を使用し、出力文書を機密文書として本機に蓄積してから印刷します。本機の操作パネルで印刷を指示し、印刷した文書をすぐに本人が回収するため、他人に見られることを防止することができます。

アドレス帳の登録情報を保護する

アドレス帳のデータに対して、ユーザーのアクセス権を設定することができます。登録されたユーザー以外の第三者によるアドレス帳のデータの不正利用を防止することができます。

また、アドレス帳のデータを暗号化し、データの読み取りを防止することができます。

ログ情報の管理

本機に記憶されたログを消去することでデータの漏洩を防止したり、ログデータを転送することで、不正読み取り履歴や読み取り者の確認ができます。

ログデータを転送するためには Ridoc IO OperationServer が必要です。

蓄積データを暗号化する

本機に蓄積されるデータを暗号化して、情報の漏洩を防止します。

蓄積データを暗号化するためには、オプションの蓄積文書暗号化カードが必要です。

ハードディスクのデータを上書き消去する

本機を廃棄するときに、拡張 HDD に蓄積されていたすべてのデータを上書き消去することや、一時的に保存していたデータを自動で上書き消去することで、データ漏洩を防止することができます。

拡張 HDD のデータを上書き消去するためには、オプションのセキュリティーカードが必要です。

アクセスの制限と管理

機器設定の変更を防止する

本機の各種機能の設定項目は、管理者の種類によって設定できる項目が異なります。また、管理者が設定すべき項目は、ユーザーでは変更できません。

管理者を登録して本機を運用します。

機能の使用を制限する

本機の各種機能に対してユーザーのアクセス権を設定し、第三者による不正操作の介入を防止することができます。

ネットワークのセキュリティー強化

不正なアクセスを防止する

IP アドレスに制限をかけたり、ポートを無効に設定することによって、ネットワーク上での不正アクセスを防止し、アドレス帳や蓄積文書、初期設定のデータなどを保護することができます。

パスワードを暗号化通信する

ログインパスワード、PDF 文書のグループパスワード、および IPP 認証のパスワードを暗号化通信し、パスワードを解析される脅威から保護することができます。

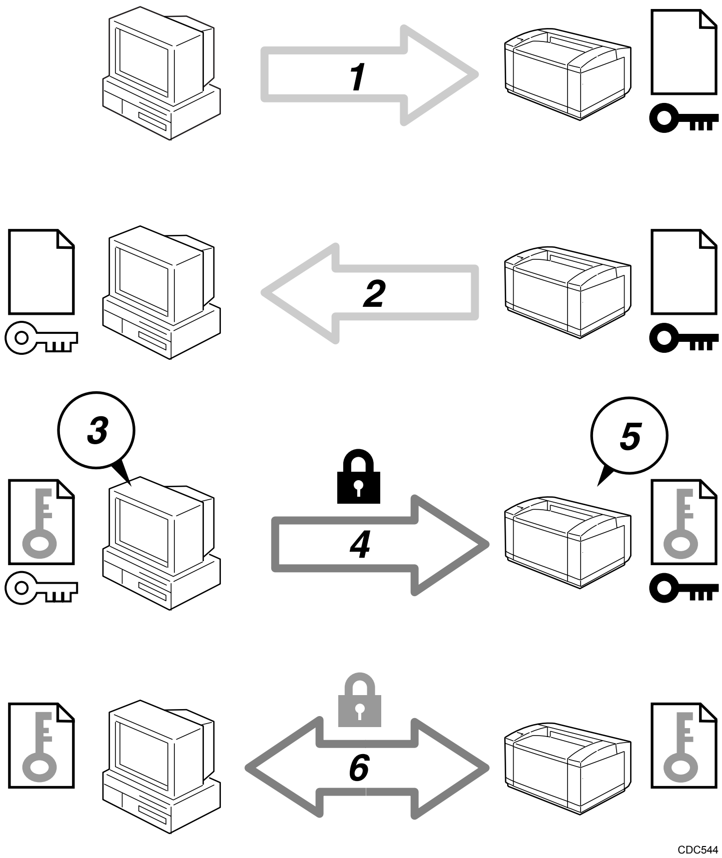
通信経路の保護と暗号化通信

本機では SSL、SNMPv3、IPsec を使用して暗号化通信を確立することができます。通信経路の保護や通信データの暗号化を行うことで、通信途中でのデータの盗聴、内容の解析、改ざんを防止することができます。

SSL（暗号化通信）の概要

通信経路の保護と暗号化通信ができるように、サーバー証明書を作成、導入します。

サーバー証明書は、機器自身で作成、導入する自己証明書と、任意の認証局に証明書を申請し機器に導入する 2 つの運用形態があります。



1. ユーザーのパソコンから本機へアクセスするとき、SSL のサーバー証明書と公開鍵を要求します。
2. 本機からユーザーのパソコンへサーバー証明書と公開鍵が送られます。

3. PC で共通鍵を生成し、公開鍵を使用して暗号します。
4. 暗号化された共通鍵が本機に送られます。
5. 本機で秘密鍵を使用し、暗号化された共通鍵が復号化されます。
6. 共通鍵を使用してデータを暗号化し、相手側で複号する安全な通信を実現します。

搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報

expat について

本製品に搭載しているコントローラー等のソフトウェア（以下、ソフトウェア）には expat を下記の条件のもとで使用しています。

- expat を含むソフトウェアに関するサポートと保証等は株式会社リコーが行うものであり、expat の作者および著作権者には一切の責任および義務はありません。

Copyright （c） 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd

and Clark Cooper

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files （the "Software"）, to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

補足

- expat に関する情報は次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。 http://expat.sourceforge.net/

NetBSD について

1.Copyright Notice of NetBSD

For all users to use this product:

This product contains NetBSD operating system:

For the most part, the software constituting the NetBSD operating system is not in the public domain; its authors retain their copyright.

The following text shows the copyright notice used for many of the NetBSD source code. For exact copyright notice applicable for each of the files/binaries, the source code tree must be consulted.

A full source code can be found at http://www.netbsd.org/.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1.Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

This product includes software developed by the NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.

4. Neither the name of The NetBSD Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE NETBSD FOUNDATION, INC. AND CONTRIBUTORS "AS IS''' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

2. Authors Name List

All product names mentioned herein are trademarks or registered trade-marks of their respective owners.

The following notices are required to satisfy the license terms of the software that we have mentioned in this document:

This product includes software developed by the University of California,Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by the NetBSD Foundation.

This product includes software developed by The NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.

This product includes software developed for the NetBSD Project. See http://www.netbsd.org/ for information about NetBSD.

This product contains software developed by Ignatios Souvatzis for the NetBSD project.

This product contains software written by Ignatios Souvatzis and MichaelL. Hitch for the NetBSD project.

This product contains software written by Michael L. Hitch for the NetBSD project.

This product includes cryptographic software written by Eric Young(eay@cryptsoft.com)

This product includes cryptographic software written by Eric Young(eay@mincom.oz.au)

This product includes software designed by William Allen Simpson.

This product includes software developed at Ludd, University of Lulea,Sweden and its contributors.

This product includes software developed at Ludd, University of Lulea.

This product includes software developed at the Information Technology Division, US Naval Research Laboratory.

This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.

This product includes software developed by David Jones and Gordon Ross

This product includes software developed by Gordon W. Ross and Leo Weppelman.

This product includes software developed by Hellmuth Michaelis and Joerg Wunsch

This product includes software developed by Internet Research Institute, Inc.

This product includes software developed by Leo Weppelman and Waldi Ravens.

This product includes software developed by Mika Kortelainen

This product includes software developed by Aaron Brown and Harvard University.

This product includes software developed by Adam Ciarcinski for the NetBSD project.

This product includes software developed by Adam Glass and Charles M.Hannum.

This product includes software developed by Adam Glass.

This product includes software developed by Advanced Risc Machines Ltd.

This product includes software developed by Alex Zepeda, and Colin Wood for the NetBSD Projet.

This product includes software developed by Alex Zepeda.

This product includes software developed by Alistair G. Crooks.

This product includes software developed by Alistair G. Crooks. for the NetBSD project.

This product includes software developed by Allen Briggs

This product includes software developed by Amancio Hasty and Roger Hardiman

This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.

This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.

This product includes software developed by Bill Paul.

This product includes software developed by Bodo Moeller. (If available, substitute umlauted o for oe)

This product includes software developed by Boris Popov.

This product includes software developed by Brad Pepers

This product includes software developed by Bradley A. Grantham.

This product includes software developed by Brini.

This product includes software developed by Causality Limited.

This product includes software developed by Charles D. Cranor and Seth Widoff.

This product includes software developed by Charles D. Cranor and Washington University.

This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, and the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by Charles D. Cranor.

This product includes software developed by Charles Hannum.

This product includes software developed by Charles M. Hannum, by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A.Wollman, by William F. Jolitz, and by the University of California,Berkeley, Lawrence Berkeley Laboratory, and its contributors.

This product includes software developed by Charles M. Hannum.

This product includes software developed by Christian E. Hopps, Ezra Story, Kari Mettinen, Markus Wild, Lutz Vieweg and Michael Teske.

This product includes software developed by Christian E. Hopps.

This product includes software developed by Christian Limpach

This product includes software developed by Christopher G. Demetriou for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Christopher G. Demetriou.

This product includes software developed by Christos Zoulas.

This product includes software developed by Chuck Silvers.

This product includes software developed by Colin Wood for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Colin Wood.

This product includes software developed by Cybernet Corporation and Nan Yang Computer Services Limited

This product includes software developed by Daishi Kato

This product includes software developed by Dale Rahn.

This product includes software developed by Daniel Widenfalk and Michael L. Hitch.

This product includes software developed by Daniel Widenfalk for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Darrin B. Jewell

This product includes software developed by David Miller.

This product includes software developed by Dean Huxley.

This product includes software developed by Eduardo Horvath.

This product includes software developed by Eric S. Hvozda.

This product includes software developed by Eric S. Raymond

This product includes software developed by Eric Young (eay@@mincom.oz.au)

This product includes software developed by Eric Young (eay@cryptsoft.com)

This product includes software developed by Eric Young (eay@mincom.oz.au)

This product includes software developed by Ezra Story and by Kari Mettinen.

This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen and by Bernd Ernesti.

This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen, Michael Teske and by Bernd Ernesti.

This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen, and Michael Teske.

This product includes software developed by Ezra Story.

This product includes software developed by Frank van der Linden for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Gardner Buchanan.

This product includes software developed by Gary Thomas.

This product includes software developed by Gordon Ross

This product includes software developed by Gordon W. Ross

9

This product includes software developed by HAYAKAWA Koichi.

This product includes software developed by Harvard University and its contributors.

This product includes software developed by Harvard University.

This product includes software developed by Herb Peyerl.

This product includes software developed by Hubert Feyrer for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Iain Hibbert

This product includes software developed by Ian F. Darwin and others.

This product includes software developed by Ian W. Dall.

This product includes software developed by Ichiro FUKUHARA.

This product includes software developed by Ignatios Souvatzis for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Internet Initiative Japan Inc.

This product includes software developed by James R. Maynard III.

This product includes software developed by Jared D. McNeill.

This product includes software developed by Jason L. Wright

This product includes software developed by Jason R. Thorpe for And Communications, http://www.and.com/

This product includes software developed by Joachim Koenig-Baltes.

This product includes software developed by Jochen Pohl for The NetBSD Project.

This product includes software developed by Joerg Wunsch

This product includes software developed by John Birrell.

This product includes software developed by John P. Wittkoski.

This product includes software developed by John Polstra.

This product includes software developed by Jonathan R. Stone for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Jonathan Stone and Jason R. Thorpe for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Jonathan Stone.

This product includes software developed by Jukka Marin.

This product includes software developed by Julian Highfield.

This product includes software developed by Kazuhisa Shimizu.

This product includes software developed by Kazuki Sakamoto.

This product includes software developed by Kenneth Stailey.

This product includes software developed by Kiyoshi Ikehara.

This product includes software developed by Klaus Burkert,by Bernd Ernesti, by Michael van Elst, and by the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by LAN Media Corporation and its contributors.

This product includes software developed by Leo Weppelman for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Leo Weppelman.

This product includes software developed by Lloyd Parkes.

This product includes software developed by Luke Mewburn.

This product includes software developed by Lutz Vieweg.

This product includes software developed by MINOURA Makoto, Takuya Harakawa.

This product includes software developed by Manuel Bouyer.

This product includes software developed by Marc Horowitz.

This product includes software developed by Marcus Comstedt.

This product includes software developed by Mark Brinicombe for the NetBSD project.

This product includes software developed by Mark Brinicombe.

This product includes software developed by Mark Murray

This product includes software developed by Mark Tinguely and Jim Lowe

This product includes software developed by Markus Wild.

This product includes software developed by Martin Husemann and Wolfgang Solfrank.

This product includes software developed by Masanobu Saitoh.

This product includes software developed by Masaru Oki.

This product includes software developed by Mats O Jansson and Charles D.Cranor.

This product includes software developed by Mats O Jansson.

This product includes software developed by Matt DeBergalis

This product includes software developed by Matthew Fredette.

This product includes software developed by Matthias Pfaller.

This product includes software developed by Michael Graff for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Michael Graff.

This product includes software developed by Michael L. Hitch.

This product includes software developed by Michael Shalayeff.

This product includes software developed by Michael Smith.

This product includes software developed by Mike Glover and contributors.

This product includes software developed by Mike Pritchard.

This product includes software developed by Minoura Makoto.

This product includes software developed by Nan Yang Computer Services Limited.

This product includes software developed by Niels Provos.

This product includes software developed by Niklas Hallqvist, Brandon Creighton and Job de Haas.

This product includes software developed by Niklas Hallqvist.

This product includes software developed by Onno van der Linden.

This product includes software developed by Paul Kranenburg.

This product includes software developed by Paul Mackerras.

This product includes software developed by Per Fogelstrom

This product includes software developed by Peter Galbavy.

This product includes software developed by Phase One, Inc.

This product includes software developed by Philip A. Nelson.

This product includes software developed by Philip L. Budne.

This product includes software developed by RiscBSD.

This product includes software developed by Roar Thronaes.

This product includes software developed by Rodney W. Grimes.

This product includes software developed by Roger Hardiman

This product includes software developed by Roland C. Dowdeswell.

This product includes software developed by Rolf Grossmann.

This product includes software developed by Ross Harvey for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Ross Harvey.

This product includes software developed by Scott Bartram.

This product includes software developed by Scott Stevens.

This product includes software developed by Shingo WATANABE.

This product includes software developed by Softweyr LLC, the University of California, Berkeley, and its contributors.

This product includes software developed by Soren S. Jorvang.

This product includes software developed by Stephan Thesing.

This product includes software developed by Steve Woodford.

This product includes software developed by Takashi Hamada

This product includes software developed by Takumi Nakamura.

This product includes software developed by Tatoku Ogaito for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Terrence R. Lambert.

This product includes software developed by Tetsuya Isaki.

This product includes software developed by Thomas Gerner

This product includes software developed by Thomas Klausner for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Tobias Weingartner.

This product includes software developed by Todd C. Miller.

This product includes software developed by Tohru Nishimura and Reinoud Zandijk for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Tohru Nishimura for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Tohru Nishimura. for the NetBSD Project.

This product includes software developed by TooLs GmbH.

This product includes software developed by Toru Nishimura.

This product includes software developed by Trimble Navigation, Ltd.

This product includes software developed by WIDE Project and its contributors.

This product includes software developed by Waldi Ravens.

This product includes software developed by Wasabi Systems for Zembu Labs, Inc. http://www.zembu.com/

This product includes software developed by Winning Strategies, Inc.

This product includes software developed by Wolfgang Solfrank.

This product includes software developed by Yasushi Yamasaki

This product includes software developed by Zembu Labs, Inc.

This product includes software developed by the Alice Group.

This product includes software developed by the Center for Software Science at the University of Utah.

This product includes software developed by the Charles D. Cranor, Washington University, University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by the Computer Systems Engineering Group at Lawrence Berkeley Laboratory.

This product includes software developed by the David Muir Sharnoff.

This product includes software developed by the Harvard University and its contributors.

This product includes software developed by the Kungliga Tekniska Hogskolan and its contributors.

This product includes software developed by the Network Research Group at Lawrence Berkeley Laboratory.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.OpenSSL.org/)

This product includes software developed by the PocketBSD project and its contributors.

This product includes software developed by the RiscBSD kernel team

This product includes software developed by the RiscBSD team.

This product includes software developed by the SMCC Technology Development Group at Sun Microsystems, Inc.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors, as well as the Trustees of Columbia University.

This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory and its contributors.

This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory.

This product includes software developed by the University of Illinois at Urbana and their contributors.

This product includes software developed by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman.

This product includes software developed by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman, by William F. Jolitz, and by the University of California, Berkeley, Lawrence Berkeley Laboratory, and its contributors.

This product includes software developed for the FreeBSD project

This product includes software developed for the NetBSD Project by Bernd Ernesti.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Christopher G. Demetriou.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Christos Zoulas

This product includes software developed for the NetBSD Project by Emmanuel Dreyfus.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Frank van der Linden

This product includes software developed for the NetBSD Project by Ignatios Souvatzis.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Jason R. Thorpe.

This product includes software developed for the NetBSD Project by John M. Vinopal.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Matthias Drochner.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Michael L. Hitch.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Perry E. Metzger.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Scott Bartram and Frank van der Linden

This product includes software developed for the NetBSD Project by Allegro Networks, Inc., and Wasabi Systems, Inc.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Genetec Corporation.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Jonathan Stone.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Piermont Information Systems Inc.

This product includes software developed for the NetBSD Project by SUNET,Swedish University Computer Network.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Shigeyuki Fukushima.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Wasabi Systems, Inc.

This product includes software developed under OpenBSD by Per Fogelstrom Opsycon AB for RTMX Inc, North Carolina, USA.

This product includes software developed under OpenBSD by Per Fogelstrom.

This software is a component of "386BSD" developed by William F. Jolitz,TeleMuse.

This software was developed by Holger Veit and Brian Moore for use with "386BSD" and similar operating systems. "Similar operating systems" includes mainly non-profit oriented systems for research and education, including but not restricted to "NetBSD", "FreeBSD", "Mach" (by CMU).

This software includes software developed by the Computer Systems Laboratory at the University of Utah.

This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (http://www.cmu.edu/computing/).

This product includes software developed by Allen Briggs.

In the following statement, "This software" refers to the Mitsumi CD-ROM driver:

This software was developed by Holger Veit and Brian Moore for use with "386BSD" and similar operating systems. "Similar operating systems" includes mainly non-profit oriented systems for research and education, including but not restricted to "NetBSD", "FreeBSD", "Mach" (by CMU).

In the following statement, "This software" refers to the parallel port driver:

This software is a component of "386BSD" developed by William F. Jolitz, TeleMuse.

Netatalk(NetBSD)/Neta Talk 1.4b2+asun2.1.3 について

FreeBSD 4.6.2/netipx について

Sablotron

a) The application software installed on this product includes the Sablotron software Version 0.82 (hereinafter, "Sablotron 0.82"), with modifications made by the product manufacturer. The original code of the Sablotron 0.82 is provided by Ginger Alliance Ltd., the initial developer, and the modified code of the Sablotron 0.82 has been derived from such original code provided by Ginger Alliance Ltd.

b) The product manufacturer provides warranty and support to the application software of this product including the Sablotron 0.82 as modified, and the product manufacturer makes Ginger Alliance Ltd., the initial developer of the Sablotron 0.82, free from these obligations.

c) The Sablotron 0.82 and the modifications thereof are made available under the terms of Mozilla Public License Version 1.1 (hereinafter, "MPL 1.1"), and the application software of this product constitutes the "Larger Work" as defined in MPL 1.1. The application software of this product except for the Sablotron 0.82 as modified is licensed by the product manufacturer under separate agreement(s).

d) The source code of the modified code of the Sablotron 0.82 is available at: http://support-download.com/services/device/sablot/notice082.html

e) The source code of the Sablotron software is available at: http://www.gingerall.com

f) MPL 1.1 is available at: http://www.mozilla.org/MPL/MPL-1.1.html

JPEG LIBRARY について

The software installed on this product is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

SASL について

CMU libsasl

Tim Martin

Rob Earhart

Rob Siemborski

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name "Carnegie Mellon University" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For permission or any other legal details, please contact.

   Office of Technology Transfer

   Carnegie Mellon University

   5000 Forbes Avenue

   Pittsburgh, PA 15213-3890

   (412) 268-4387, fax: (412) 268-7395

   tech-transfer@andrew.cmu.edu
4. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (http://www.cmu.edu/computing/)."

CARNEGIE MELLON UNIVERSITY DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL CARNEGIE MELLON UNIVERSITY BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT,

NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

RSA BSAFE®

- This product includes RSA BSAFE (c) cryptographic software from RSA Security Inc.
- RSA, BSAFE are either registered trademarks or trademarks of RSA Security Inc. in the United States and/or other countries.
- RSA Security Inc. All rights reserved.

Open SSL

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"

4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.

5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.

6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (c) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

Open SSH

The licences which components of this software fall under are as follows. First, we will summarize and say that all components are under a BSD licence, or a licence more free than that.

OpenSSH contains no GPL code.

1)

Copyright (c) 1995 Tatu Ylonen < y lo@cs.hut.fi>, Espoo, Finland All rights reserved As far as I am concerned, the code I have written for this software can be used freely for any purpose. Any derived versions of this software must be clearly marked as such, and if the derived work is incompatible with the protocol description in the RFC file, it must be called by a name other than "ssh" or "Secure Shell".

[Tatu continues]

However, I am not implying to give any licenses to any patents or copyrights held by third parties, and the software includes parts that are not under my direct control. As far as I know, all included source code is used in accordance with the relevant license agreements and can be used freely for any purpose (the GNU license being the most restrictive); see below for details.

[However, none of that term is relevant at this point in time. All of these restrictively licenced software components which he talks about have been removed from OpenSSH, i.e.,

- RSA is no longer included, found in the OpenSSL library
- IDEA is no longer included, its use is deprecated
- DES is now external, in the OpenSSL library
- GMP is no longer used, and instead we call BN code from OpenSSL
- Zlib is now external, in a library
- The make-ssh-known-hosts script is no longer included
- TSS has been removed
- MD5 is now external, in the OpenSSL library
- RC4 support has been replaced with ARC4 support from OpenSSL
- Blowfish is now external, in the OpenSSL library

[The licence continues]

Note that any information and cryptographic algorithms used in this software are publicly available on the Internet and at any major bookstore, scientific library, and patent office worldwide. More information can be found e.g. at "http://www.cs.hut.fi/crypto".

The legal status of this program is some combination of all these permissions and restrictions. Use only at your own responsibility. You will be responsible for any legal consequences yourself; I am not making any claims whether possessing or using this is legal or not in your country, and I am not taking any responsibility on your behalf.

NO WARRANTY

BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

2)

The 32-bit CRC compensation attack detector in deattack.c was contributed by CORE SDI S.A. under a BSD-style license.

Cryptographic attack detector for ssh - source code

Copyright (c) 1998 CORE SDI S.A., Buenos Aires, Argentina.

All rights reserved. Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that this copyright notice is retained.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL CORE SDI S.A. BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY OR CONSEQUENTIAL DAMAGES RESULTING FROM THE USE OR MISUSE OF THIS SOFTWARE.

Ariel Futoransky <futo@core-sdi.com>

<http://www.core-sdi.com>

3)

One component of the ssh source code is under a 3-clause BSD license, held by the University of California, since we pulled these parts from original Berkeley code.

Copyright (c) 1983, 1990, 1992, 1993, 1995

The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

4)

Remaining components of the software are provided under a standard 2-term BSD licence with the following names as copyright holders:

Markus Friedl

Theo de Raadt

Niels Provos

Dug Song

Kevin Steves

Daniel Kouril

Wesley Griffin

Per Allansson

Jason Downs

Solar Designer

Todd C. Miller

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED

TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

5)

Portable OpenSSH contains the following additional licenses:

c) Compatibility code (openbsd-compat)

Apart from the previously mentioned licenses, various pieces of code in the openbsd-compat/ subdirectory are licensed as follows:

Some code is licensed under a 3-term BSD license, to the following copyright holders:

Todd C. Miller

Theo de Raadt

Damien Miller

Eric P. Allman

The Regents of the University of California

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Open LDAP

The OpenLDAP Public License Version 2.8, 17 August 2003

Redistribution and use of this software and associated documentation ("Software"), with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions in source form must retain copyright statements and notices,

2. Redistributions in binary form must reproduce applicable copyright statements and notices, this list of conditions, and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution, and

3. Redistributions must contain a verbatim copy of this document.

The OpenLDAP Foundation may revise this license from time to time. Each revision is distinguished by a version number. You may use this Software under terms of this license revision or under the terms of any subsequent revision of the license.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OPENLDAP FOUNDATION AND ITS CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OPENLDAP FOUNDATION, ITS CONTRIBUTORS, OR THE AUTHOR(S) OR OWNER(S) OF THE SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The names of the authors and copyright holders must not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealing in this Software without specific, written prior permission. Title to copyright in this Software shall at all times remain with copyright holders.

OpenLDAP is a registered trademark of the OpenLDAP Foundation.

Copyright (c) 1999-2003 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA. All Rights Reserved. Permission to copy and distribute verbatim copies of this document is granted.

Heimdal

Copyright (c) 1997-2005 Kungliga Tekniska Högskolan (Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden). All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the Institute nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE INSTITUTE AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE INSTITUTE OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

IPS^{TM} print language emulations

racoon

TrouSerS

THE ACCOMPANYING PROGRAM IS PROVIDED UNDER THE TERMS OF THIS COMMON PUBLIC LICENSE ("AGREEMENT"). ANY USE, REPRODUCTION OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM CONSTITUTES RECIPIENT'S ACCEPTANCE OF THIS AGREEMENT.

1. DEFINITIONS

"Contribution" means:

a) in the case of the initial Contributor, the initial code and documentation distributed under this Agreement, and

b) in the case of each subsequent Contributor:

i) changes to the Program, and

ii) additions to the Program;

where such changes and/or additions to the Program originate from and are distributed by that particular Contributor. A Contribution 'originates' from a Contributor if it was added to the Program by such Contributor itself or anyone acting on such Contributor's behalf. Contributions do not include additions to the Program which: (i) are separate modules of software distributed in conjunction with the Program under their own license agreement, and (ii) are not derivative works of the Program.

"Contributor" means any person or entity that distributes the Program.

"Licensed Patents " mean patent claims licensable by a Contributor which are necessarily infringed by the use or sale of its Contribution alone or when combined with the Program.

"Program" means the Contributions distributed in accordance with this Agreement.

"Recipient" means anyone who receives the Program under this Agreement, including all Contributors.

2. GRANT OF RIGHTS

a) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free copyright license to reproduce, prepare derivative works of, publicly display, publicly perform, distribute and sublicense the Contribution of such Contributor, if any, and such derivative

works, in source code and object code form.

b) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free patent license under Licensed Patents to make, use, sell, offer to sell, import and otherwise transfer the Contribution of such Contributor, if any, in source code and object code form. This patent license shall apply to the combination of the Contribution and the Program if, at the time the Contribution is added by the Contributor, such addition of the Contribution causes such combination to be covered by the Licensed Patents. The patent license shall not apply to any other combinations which include the Contribution. No hardware per se is licensed hereunder.

c) Recipient understands that although each Contributor grants the licenses to its Contributions set forth herein, no assurances are provided by any Contributor that the Program does not infringe the patent or other intellectual property rights of any other entity. Each Contributor disclaims any liability to Recipient for claims brought by any other entity based on infringement of intellectual property rights or otherwise. As a condition to exercising the rights and licenses granted hereunder, each Recipient hereby assumes sole responsibility to secure any other intellectual property rights needed, if any. For example, if a third party patent license is required

to allow Recipient to distribute the Program, it is Recipient's responsibility to acquire that license before distributing the Program.

d) Each Contributor represents that to its knowledge it has sufficient copyright rights in its Contribution, if any, to grant the copyright license set forth in this Agreement.

3. REQUIREMENTS

A Contributor may choose to distribute the Program in object code form under its own license agreement, provided that:

a) it complies with the terms and conditions of this Agreement; and

b) its license agreement:

i) effectively disclaims on behalf of all Contributors all warranties and conditions, express and implied, including warranties or conditions of title and non-infringement, and implied warranties or conditions of merchantability and fitness for a particular purpose;

ii) effectively excludes on behalf of all Contributors all liability for damages, including direct, indirect, special, incidental and consequential damages, such as lost profits;

iii) states that any provisions which differ from this Agreement are offered by that Contributor alone and not by any other party; and

iv) states that source code for the Program is available from such Contributor, and informs licensees how to obtain it in a reasonable manner on or through a medium customarily used for software exchange.

When the Program is made available in source code form:

a) it must be made available under this Agreement; and

b) a copy of this Agreement must be included with each copy of the Program.

Contributors may not remove or alter any copyright notices contained within the Program.

Each Contributor must identify itself as the originator of its Contribution, if any, in a manner that reasonably allows subsequent Recipients to identify the originator of the Contribution.

4. COMMERCIAL DISTRIBUTION

Commercial distributors of software may accept certain responsibilities with respect to end users, business partners and the like. While this license is intended to facilitate the commercial use of the Program, the Contributor who includes the Program in a commercial product offering should do so in a manner which does not create potential liability for other Contributors. Therefore, if a Contributor includes the Program

in a commercial product offering, such Contributor ("Commercial Contributor") hereby agrees to defend and indemnify every other Contributor ("Indemnified Contributor") against any losses, damages and costs (collectively "Losses") arising from claims, lawsuits and other legal actions brought by a third party against the Indemnified Contributor to the extent caused by the acts or omissions of such Commercial Contributor in connection with its distribution of the Program in a commercial product offering. The obligations in this section do not apply to any claims or Losses relating to any actual or alleged intellectual property infringement. In order to qualify,

an Indemnified Contributor must: a) promptly notify the Commercial Contributor in writing of such claim, and b) allow the Commercial Contributor to control, and cooperate with the Commercial Contributor in, the defense and any related settlement negotiations. The Indemnified Contributor may participate in any such claim at its own expense.

For example, a Contributor might include the Program in a commercial product offering, Product X. That Contributor is then a Commercial Contributor. If that Commercial Contributor then makes performance claims, or offers warranties related to Product X, those performance claims and warranties are such Commercial Contributor's responsibility alone. Under this section, the Commercial Contributor would have to defend claims against the other Contributors related to those performance claims and warranties, and if a court requires any other Contributor to pay any damages as a result, the Commercial Contributor must pay those damages.

5. NO WARRANTY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, THE PROGRAM IS PROVIDED ON AN "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTIES OR CONDITIONS OF TITLE, NONINFRINGEMENT, MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Each Recipient is solely responsible for determining the appropriateness of using and distributing the Program and assumes all risks associated with its exercise of rights under this Agreement, including but not limited to the risks and costs of program errors, compliance with applicable laws, damage to or loss of data, programs or equipment, and unavailability or interruption of operations.

6. DISCLAIMER OF LIABILITY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, NEITHER RECIPIENT NOR ANY CONTRIBUTORS SHALL HAVE ANY LIABILITY FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING WITHOUT LIMITATION LOST PROFITS), HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM OR THE EXERCISE OF ANY RIGHTS GRANTED HEREUNDER, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

7. GENERAL

If any provision of this Agreement is invalid or unenforceable under applicable law, it shall not affect the validity or enforceability of the remainder of the terms of this Agreement, and without further action by the parties hereto, such provision shall be reformed to the minimum extent necessary to make such provision valid and enforceable.

If Recipient institutes patent litigation against a Contributor with respect to a patent applicable to software (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit), then any patent licenses granted by that Contributor to such Recipient under this Agreement shall terminate as of the date such litigation is filed. In addition, if Recipient institutes patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Program itself (excluding

combinations of the Program with other software or hardware) infringes such Recipient's patent (s), then such Recipient's rights granted under Section 2(b) shall terminate as of the date such litigation is filed.

All Recipient's rights under this Agreement shall terminate if it fails to comply with any of the material terms or conditions of this Agreement and does not cure such failure in a reasonable period of time after becoming aware of such noncompliance. If all Recipient's rights under this Agreement terminate, Recipient agrees to cease use and distribution of the Program as soon as reasonably practicable. However, Recipient's obligations under this Agreement and any licenses granted by Recipient relating to the Program shall continue and survive.

Everyone is permitted to copy and distribute copies of this Agreement, but in order to avoid inconsistency the Agreement is copyrighted and may only be modified in the following manner. The Agreement Steward reserves the right to publish new versions (including revisions) of this Agreement from time to time. No one other than the Agreement Steward has the right to modify this Agreement. IBM is the initial Agreement Steward. IBM may assign the responsibility to serve as the Agreement Steward to a suitable separate entity.

Each new version of the Agreement will be given a distinguishing version number. The Program (including Contributions) may always be distributed subject to the version of the Agreement under which it was received. In addition, after a new version of the Agreement is published, Contributor may elect to distribute the Program (including its Contributions) under the new version. Except as expressly stated in Sections 2 (a) and 2(b) above, Recipient receives no rights or licenses to the intellectual property of any Contributor under this Agreement, whether expressly, by implication, estoppel or otherwise. All rights in the Program not expressly granted under this Agreement are reserved.

This Agreement is governed by the laws of the State of New York and the intellectual property laws of the United States of America. No party to this Agreement will bring a legal action under this Agreement more than one year after the cause of action arose. Each party waives its rights to a jury trial in any resulting litigation.

補足

- 本製品に搭載している TrouSerS(Version 0.27)に関するソースコードは、リコーホームページより入手が可能です。
- TrouSerS は sourceforge の CVS でバージョン管理されています。ソースコードの入手方法については次の URL が示す WWW サイトでご確認ください。 http://sourceforge.net/cvs/?group_id=126012

Samba（Ver 3.0.4）について

本製品に搭載している SMB 送信機能では samba ver 3.0.4 を使用しています。

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 675 Mass Ave, Cambridge, MA 02139, USA.

参照

- 本製品に搭載している SMB 送信機能に関するソースコードは次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。http://support-download.com/services/scbs

リサイクル部品について

リコーは環境保全を経営の優先課題のひとつと考え、リサイクル推進にも注力しております。本製品には、新品と同一の当社品質基準に適合した、リサイクル部品を使用している場合があります。

お問い合わせ先

消耗品に関するお問い合わせ

弊社製品に関する消耗品は、お買い上げの販売店にご注文ください。

NetRICOH のホームページからもご購入できます。

http://www.netricoh.com/

故障・保守サービスに関するお問い合わせ

故障・保守サービスについては、サービス実施店または販売店にお問い合わせください。

修理範囲（サービスの内容）、修理費用の目安、修理期間、手続きなどをご要望に応じて説明いたします。

転居の際は、サービス実施店または販売店にご連絡ください。転居先の最寄りのサービス実施店、販売店をご紹介いたします。

http://www.ricoh.co.jp/support/repair/index.html

操作方法、製品の仕様に関するお問い合わせ

操作方法や製品の仕様については、「お客様相談センター」にお問い合わせください。

FreeDial **0120-000-475**

FAX 0120-479-417

- 受付時間：平日（月～金）9 時～18 時／土曜日 9 時～12 時、13 時～17 時　（祝祭日、弊社休業日を除く）
- 通話料は無料です。
- 音声ガイダンスに従い製品別の番号をプッシュトーンでお知らせください。トーン信号が出せない電話機の場合は、そのまましばらくお待ちいただきますとオペレーターに接続します。

※お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、通話を録音・記録させていただいております。

http://www.ricoh.co.jp/SOUDAN/index.html

最新ドライバーおよびユーティリティー情報

最新版のドライバーおよびユーティリティーをインターネットのリコーホームページから入手できます。

- http://www.ricoh.co.jp/download/index.html

商標

Adobe、Acrobat、Acrobat Reader、Adobe Reader、PostScript は、Adobe Systems Incorporated （アドビ システムズ社）の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。

アノト®および Anoto®は、アノト社の登録商標です。

Apple、AppleTalk、Bonjour、CUPS、Macintosh、Mac OS、および Safari は、米国および他の国々で登録された Apple Inc.の登録商標または商標です。

Bluetooth 商標は、Bluetooth SIG, Inc.所有の商標であり、ライセンスの下で株式会社リコーが使用しています。

BMLinkS は、社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会の登録商標です。

Citrix®、Citrix Presentation Server、Citrix XenApp は、Citrix Systems, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Firefox は、米国 Mozilla Foundation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

IBM は、米国 International Business Machines Corporation の登録商標です。

JAWS®は、米国およびその他の国における Freedom Scientific BLV Group, LLC の登録商標です。

Linux は Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft®、Windows®、MS-DOS®、Windows Server®、Windows Vista®、Internet Explorer®は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Monotype は Monotype Imaging, Inc.の登録商標です。

NEC は、NEC Corporation の登録商標です。

OpenLDAP is a registered trademark of the OpenLDAP Foundation.

PCL は、米国ヒューレット・パッカード社の登録商標です。

PictBridge は商標です。

Solaris は、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国並びに他の国々における登録商標です。

UPnP™ is a trademark of the UPnP Implementers Corporation.

- MS-DOS の製品名は、Microsoft® MS-DOS®です。
- Windows 2000 の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows® 2000 Professional

  Microsoft® Windows® 2000 Server

  Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server

- Windows XP の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows® XP Professional Edition
  Microsoft® Windows® XP Home Edition
  Microsoft® Windows® XP Media Center Edition
  Microsoft® Windows® XP Tablet PC Edition
- Windows Vista の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows Vista® Ultimate
  Microsoft® Windows Vista® Business
  Microsoft® Windows Vista® Home Premium
  Microsoft® Windows Vista® Home Basic
  Microsoft® Windows Vista® Enterprise
- Windows 7 の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows® 7 Home Premium
  Microsoft® Windows® 7 Professional
  Microsoft® Windows® 7 Ultimate
  Microsoft® Windows® 7 Enterprise
- Windows Server 2003 の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows Server® 2003 Standard Edition
  Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise Edition
- Windows Server 2003 R2 の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition
  Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition
- Windows Server 2008 の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows Server® 2008 Standard
  Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise
- Windows Server 2008 R2 の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard
  Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise

その他の製品名、名称は各社の商標または登録商標です。

BMLinkS について

- BMLinkS は、社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会（Japan Business Machine and Information System Industries Association<JBMIA>）が推進しているオフィス機器インターフェイスです。
- BMLinkS カードを装着した本機は、BMLinkS 認証を受けています。
- BMLinkS 標準仕様バージョンについては、BMLinkS のインストールガイドを参照してください。
- BMLinkS カードを装着した本機は、BMLinkS プリントサービスを実装しています。

9

索引

記号・数字

アルファベット

あ

ま

や

ら

わ

MEMO

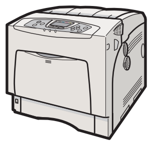
MEMO

MEMO

JA (JP) G190-8559

株式会社 リコー
東京都中央区銀座8-13-1 リコービル 〒104-8222
http://www.ricoh.co.jp/

IPSiO SP C420 使用説明書〈ソフトウェアガイド〉



消耗品に関するお問い合わせ

弊社製品に関する消耗品は、お買い上げの販売店にご注文ください。
NetRICOHのホームページからもご購入できます。
http://www.netricoh.com/

故障・保守サービスに関するお問い合わせ

故障・保守サービスについては、サービス実施店または販売店にお問い合わせください。
修理範囲（サービスの内容）、修理費用の目安、修理期間、手続きなどをご要望に応じて説明いたします。
転居の際は、サービス実施店または販売店にご連絡ください。転居先の最寄りのサービス実施店、販売店をご紹介いたします。
http://www.ricoh.co.jp/support/repair/index.html

操作方法、製品の仕様に関するお問い合わせ

操作方法や製品の仕様については、「お客様相談センター」にお問い合わせください。

0120 FreeDial **0120-000-475**
FAX 0120-479-417

- 受付時間：平日（月～金）9時～18時／土曜日9時～12時、13時～17時（祝祭日、弊社休業日を除く）
- 通話料は無料です。
- 音声ガイダンスに従い製品別の番号をプッシュトーンでお知らせください。トーン信号が出せない電話機の場合は、そのまましばらくお待ちいただきますとオペレーターに接続します。

※お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、通話を録音・記録させていただいております。
http://www.ricoh.co.jp/SOUDAN/index.html

最新ドライバーおよびユーティリティー情報

最新版のドライバーおよびユーティリティーをインターネットのリコーホームページから入手できます。

- http://www.ricoh.co.jp/download/index.html

リコーは環境保全を経営の優先課題のひとつと考え、リサイクル推進にも注力しております。本製品には、新品と同一の当社品質基準に適合した、リサイクル部品を使用している場合があります。

JA (JP) 2010年8月 G190-8559